

6N4

明治三十六年十二月編纂

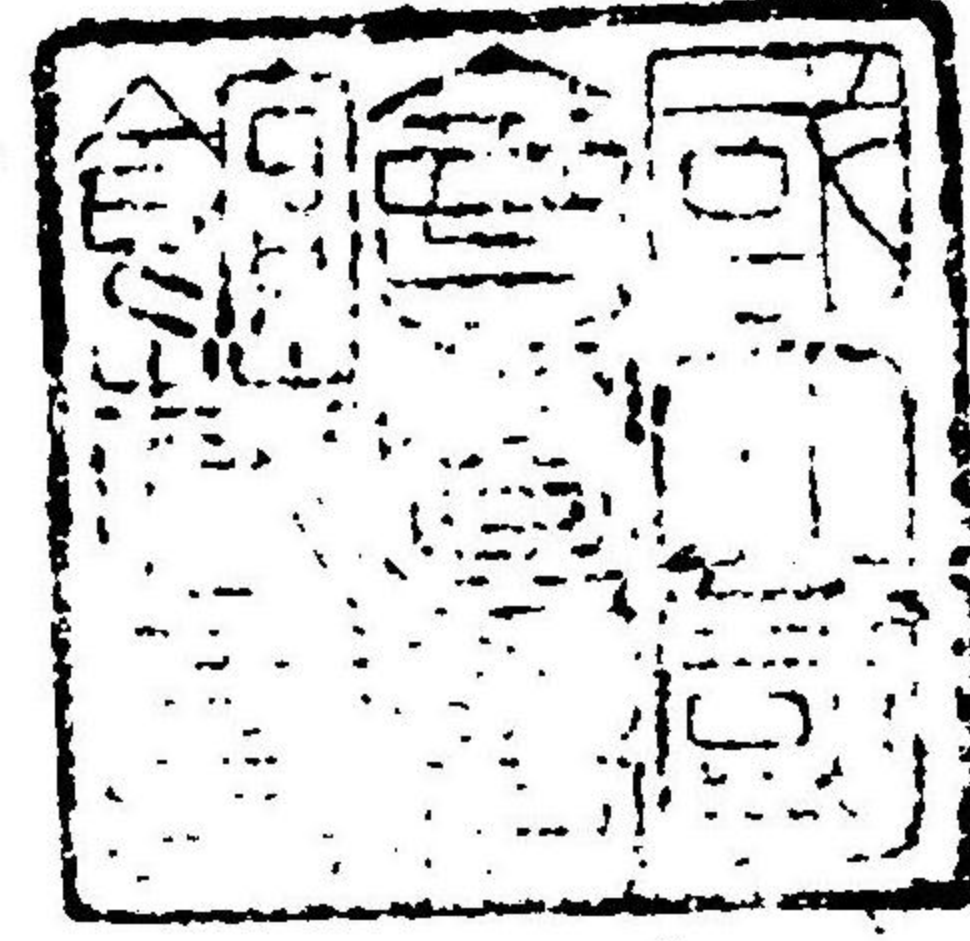
# 明治財政史

第四卷

一名松方伯財政事歷

明治財政史編纂會藏版

342.1 M448 M



# 明治財政史

## 第四卷 目次

### 第五編 國庫出納

#### 第一章 總說

#### 第二章 出納機關

##### 第一節 爲替方

第一款 爲替方

第二款 爲替御用掛

第三款 各廳爲替方

第四款 税金預所

第五款 大藏省爲替方

##### 第二節 國庫金出納所

第一款 國庫金取扱所

第二款 現金取扱方

第三款 現金支拂所

一三九  
一三五  
一一〇  
一一〇  
五〇  
四三  
二三  
一七  
一〇  
一〇  
七



387182

第四款 國庫金出納所

第五款 派出取扱方

第三節 金庫

第一款 金庫規則發布以前ノ沿革

第二款 金庫制度

第三款 出納事務

第一項 一般會計ニ關スル金庫出納事務

第二項 特別會計ニ關スル金庫出納事務

第一目 作業

第二目 官立學校及圖書館

第三目 臺灣總督府

第四目 資金

第五目 基金

第六目 各種特別會計

第三項 現金運轉

第四款 金庫監督

第一項 検査

一五五

一八四

一九五

一九五

二一二

二一六

二一六

二八三

二八三

二八三

三〇三

三二一

三二五

三二七

三二八

三二九

三五六

第二項 出納證明

第四節 中央出納機關

第三章 出納方法

第一節 米穀出納

第一款 貢米

第一項 運漕

第一目 運漕手續

第二目 運賃

第二項 納入手續

第一目 廩納

第二目 廩納ノ時期及場所

第三項 拂渡手續

第四項 貢米ノ廢止

第二款 地租代納米

第一項 地租代納米ノ起源

第二項 地租代納米ノ出納

第一目 取扱手續

三六〇

三六六

三六九

三六九

三七二

三七三

三七三

四一〇

四二一

四二一

四四七

四五〇

四五九

四六〇

四六〇

四六一

四六一

|              |     |
|--------------|-----|
| 第二目 整理手續     | 四六六 |
| 第三項 地租代納米ノ廢止 | 四六九 |
| 第三款 預リ米      | 四七〇 |
| 第四款 府縣預ケ米金   | 四七八 |
| 第一款 預米金ノ起源   | 四七六 |
| 第二款 預米金ノ出納   | 四七七 |
| 第三款 預米金ノ廢止   | 四九一 |
| 第五款 貯蓄米      | 四九二 |
| 第一款 貯蓄米ノ起源   | 四九三 |
| 第二款 貯蓄米ノ運漕   | 四九七 |
| 第三款 貯蓄米ノ出納   | 五一〇 |
| 第四項 貯蓄米ノ廢止   | 五二〇 |
| 第六款 米廩       | 五二一 |
| 第二節 金錢出納     | 五二三 |
| 第一款 一般金錢出納   | 五三二 |
| 第二款 管守金錢出納   | 六四四 |
| 第三款 收入       | 六七一 |

|          |     |
|----------|-----|
| 第一款 租稅收入 | 六七一 |
| 第二款 稅外收入 | 六七七 |
| 第四款 支出   | 七〇〇 |
| 第五款 金錢回送 | 七一五 |
| 第四章 出納整理 | 七二五 |
| 第一節 豫算手續 | 七二五 |
| 第一款 地方收支 | 七二五 |
| 第二款 中央收支 | 七七五 |
| 第二節 決算手續 | 八〇五 |
| 第一款 地方收支 | 八〇五 |
| 第二款 中央收支 | 八二二 |
| 第三節 記簿計表 | 八三三 |
| 第五章 出納調査 | 八八一 |

第五編 國庫出納

# 明治財政史 第四卷

## 第五編 國庫出納

### 第一章 總說

明治維新ノ際ニ當リテハ庶政未タ其緒ニ就カス從テ出納ニ關シテモ未タ規程ノ見ル可キモノアラサリシハ自然ノ勢ナリ然レトモ出納ノ事タル固ヨリ一日モ之ヲ忽ニス可カラサルヲ以テ明治元年八月府縣ニ令シテ租稅ハ姑ク舊慣ニ仍リ金ハ會計官ニ米ハ會計官大阪出張所ニ納付セシメ又府縣經費ハ概計ヲ以テ租稅米金ノ内ヨリ之ヲ支出セシメタリ次テ明治二年出納司規則書ヲ定ムルニ及ヒ始メテ出納ニ關スル規程ヲ設ケ各官司ノ定額費ハ月額ヲ概計シテ交付シ月次ニ清算シテ之ヲ差出サシメ又臨時支給ノ場合ハ發令以前ニ辨事ヨリ評決ノ趣旨ヲ出納司ニ通知ス可キモノトセリ而シテ同年七月ニ至リ府縣常備金ノ制度ヲ創設シ以テ不時ノ用ニ供セシム

從來府縣ノ諸費ハ先ツ其歲額ヲ概計シ其徵收セル租稅ノ内ヨリ之ヲ控除シテ直ニ使用スルノ例ナリシモ明治四年四月之ヲ廢止シ府縣經費ハ節次ニ大藏省ヨリ證票ヲ交付シ此ニ始メテ其租稅ヲ移用スルヲ得ルモノト改メ同年八月大藏省官制ヲ改正シ次テ職制及事務章程ヲ定ムルヤ特ニ傳票ノ一課ヲ省内ニ設ケ始メテ傳票ノ制度ヲ施行セリ蓋シ傳票ハ大藏卿ヨリ收入支出ヲ出納頭ニ指揮傳達スル所ノ證票ニシテ大藏卿ノ命令アルニ非サレハ決シテ之ヲ發付スルヲ得サルナリ

明治五年九月文部省ノ歳費額ヲ定メ翌十月ニ至リ左院及外務陸軍海軍工部宮内各省ノ歳費額ヲ定ム仍テ從來一定ノ範圍限界ナカリシ官省經費モ此ニ至テ略ホ決定セラレ、ニ至レリ  
次テ明治六年十二月各廳及府縣ノ金穀出納順序ヲ定メ大ニ收支ノ方法ヲ釐革セリ即チ該規程ニヨレハ官省ノ常額經費ハ年額ヲ十二分シ毎月初ニ大藏省ヨリ之ヲ交付シ府縣ノ概費ハ前半年分ハ其前年十一月ニ後半年分ハ其年五月ヲ限リ大藏省ニ申請シテ受領シ各之ヲ銀行等ニ預入レ以テ支拂ノ用ニ供スルモノトス而シテ上納金ニ付テハ上納者ヨリ直ニ官金預リ人ニ交付シ其預リ切符ヲ得テ官廳ニ上納ス次ニ各廳ニ於テ預金ヨリ支拂ヲ爲サントスルトキハ支拂切符ヲ作リテ受取人ニ交付シ受取人ハ該切符ニヨリ官金預リ人ヨリ現金ヲ受領ス

後明治九年三月大藏省出納條例ヲ定ムルニ際シ舊來慣行ノ米穀ノ出納ヲ廢止シ現米ハ之ヲ貯蓄部ニ賣渡セリ而シテ翌明治十年十一月ニ至リ田租ニ限リ姑ク人民ノ請願ニ從ヒ其半額ハ代米上納ヲ許シタリト雖モ租稅寮ハ之ヲ出納寮ニ賣付シ該金額ヲ以テ收納ノ手續ヲナシ其他預リ米及貯蓄米ノ制度存在シタリト雖モ是皆特別ノ目的ニ出ツルモノニシテ從テ國庫出納ノ物體ハ爾來金錢ノ一途ニ歸シタリト謂フ可キナリ

會計決算ノ期限ト出納閉鎖ノ期限トハ互ニ密接ノ關係アリ而シテ前者ニ就テハ明治九年九月制定ノ大藏省出納條例ニ於テ之ヲ定メタリト雖モ後者ニ付テハ未タ之カ規定アラサリシヲ以テ明治十一年七月會計年度經過後八箇月ヲ以テ出納ヲ閉鎖スヘキモノトス此ニ於テ往々數年ニ亘ルモ尙ホ計算ヲ完結スル能ハサルカ如キ弊ハ全ク除カル、ニ至レリ  
從來各廳ノ經費ハ毎月大藏省ヨリ之ヲ交付シ各廳ハ銀行若クハ富豪ニ命シテ之カ出納ヲ爲サシ

メタルモ之レカ取扱ヲ一局部ニ統一シ以テ濫費ノ虞ヲ防キ併セテ金錢運用ノ便宜ト管守出納ノ確實トヲ謀ランカ爲メ明治九年二月現金納拂規則ヲ定メ各廳定額金ハ大藏省ヨリ毎月之ヲ交付スルノ手續ヲ爲シ更ニ同省出納寮ニ於テ之ヲ預リ以テ管守出納ヲ取扱フコト、シ先ツ正院元老院及内務大藏兩省ニ施行シ漸次他廳ニ及セリ降テ明治十五年一月會計法ヲ改正スルニ及ヒ各廳ニ於テ出納ス可キ現金ハ大藏省ニ於テ管守スルヲ原則トシ大藏省ハ便宜之ヲ各廳ニ委託スルヲ得ルモノトス仍テ同年六月各廳現金管守順序及各廳現金委託順序ヲ定メ各廳現金ニシテ從來大藏省ニ於テ管守スルモノハ之ヲ繼續シ其未タ管守セサルモノハ期限ヲ定メテ之ヲ管守スルモノトシ其取扱手續ヲ規定セリ而シテ右會計法ノ規定ハ他日現金ノ出納ヲ大藏省ニ統一シ以テ經費ノ支出ヲ監督スルニ至レル階梯タリシナリ

從來國庫金ノ管守出納ハ大藏省ニ於テ直管スルノ方針ヲ採リタリト雖モ國庫ニ現金ヲ集積スルハ徒ニ金融ノ梗塞ヲ生スルノミナラス一時不足ヲ生スル場合ニ於テ資金ノ流通ヲ得ルコト難キヲ以テ明治十六年四月ニ至リ日本銀行ニ國庫金ノ取扱ヲ命シ七月一日ヨリ之ヲ施行セリ尋テ明治十七年七月經費金支出條規ヲ定メ各廳ノ經費金ハ總テ大藏省ニ於テ之ヲ管理シ其任拂ヲ執行スルモノトシ豫算額ノ裁定アルトキハ各廳長官ハ支出額ノ明細書ヲ大藏卿ニ送付シテ其調査ヲ受クヘク調査ヲ受クルニアラサレハ經費ノ支出ヲ請求スルヲ得ス且經費ノ支出ヲ要スル毎ニ各廳長官ハ任拂請求書ヲ大藏卿ニ提出シ其承認ヲ得ルニアラサレハ任拂切符ヲ發行セシムルヲ得ス其他豫メ現金ノ交付ヲ受クル場合ヲ限定シテ在外各廳ノ經費陸軍行軍費及海軍航海費ノ三種トセリ此ニ於テカ大藏省ハ彼此現金ヲ流用シテ爲メニ常備現金ノ額ヲ節減スルヲ得ルノミナラ

ス併セテ經費ノ支出ヲ事前ニ牽制監督シテ以テ濫費ノ虞ナカラシムルニ至レリ  
後明治十九年一月大藏省中ニ金庫局ヲ設置シ中央金庫ヲ管理シ現金ノ管守出納ノ事務ヲ掌ノシ  
ム次テ三月ニ至リ歳入歳出出納規則ヲ定メ現金收支ノ方法ヲ詳ニセリ即チ歳入ニ係ル現金ノ收  
納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳收支命令官ハ其徵收ヲ監督シ現金ハ直ニ金庫ニ收納ス而シテ  
歳入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收シ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルモ  
ノトセリ而シテ歳出ニ係ル現金ノ支辨モ亦總テ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ之ヲ執行  
シ唯特定ノ場合ニ限リ各廳ノ請求ニヨリ現金ヲ交付スルモノトシ各廳ニ於ケル支出ハ仕拂切符  
ニ據ルモノニシテ收支命令官ノ命令ニヨリ會計主務官ハ仕拂切符ヲ發行シテ受領者ニ交付シ受  
領者ハ金庫ニ就キテ仕拂ヲ受クルモノトス其他諸般報告ノ順序方法ヲ詳示セシカ同月又右規程  
ニ基キ歳入取扱順序及歳出取扱順序ヲ定メ前者ニ於テハ主管廳及支部局ニ於テ收入スル内國稅  
及郡區役所戸長役場金庫ノ收入ニ關スル取扱手續ニ付テ規定シ後者ニ於テハ各廳普通ノ經費各  
省所管ノ府縣費國債及年金恩賞諸祿ノ支出手續ニ關スル規定ヲ設ケタリ右出納規則ニヨリ各廳  
長官ハ經費支出前ニ於テ大藏大臣ノ承認ヲ受クルノ制度ハ其手續煩雜ニシテ施行上困難少カラ  
ストシテ之ヲ廢止セラレタレトモ此ニ至テ歳入歳出現金ノ出納ハ全ク大藏省ノ統一スル所トナ  
リ爲メニ出納條規ハ爾來大ニ嚴肅ニ歸セリ  
抑モ出納ノ根據タル會計上ノ法令ハ漸次制定發布ヲ經タルモノ頗ル多シト雖モ其總則通規ヲ示  
スモノハ明治十四年四月制定ノ會計法ヲ始トス翌十五年一月之ヲ改定シ爾後歳入出豫算條規及  
歳入歳出納規則ト相共ニ實行スト雖モ未タ完備ノ法タルヲ得ス而シテ國會ノ開設其期已ニ遠

カラス此ニ於テ幾多制度ノ中ニ就キ會計制度ノ改良ノ如キハ最モ緊急ナル事項トシ明治二十二  
年二月會計法ヲ改正公布シテ仕拂命令發行ノ方法ヲ嚴ニシ而シテ現金前渡ノ餘地ヲ與ヘ仕拂命  
令官ト現金取扱官トノ職務區別ヲ嚴ニシ又歳入出ノ事務ニ關係スル官吏ノ責任ヲ定メ且國庫金  
ノ取扱ヲ日本銀行ニ委託スルコトヲ明ニスル等出納ニ關シ規定スル所少カラサリシカ更ニ同年  
四月會計規則ヲ定メ之レカ手續ニ付テ規定セリ爾來爲メニ出納制度上ニ於ケル一大進歩ヲ見ル  
ニ至レリ且ツ從來ノ地租代米納モ時世ノ進歩ト會計制度ノ革新ニ伴ヒ明治二十二年限リ之ヲ廢  
止セリ

又現金ノ出納ニ就テモ從來ハ國庫金出納所及金庫局ニ於テ取扱ヒタルカ同年十二月金庫規則ヲ  
制定シ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フタメニ金庫ヲ設置シ日本銀行ヲシテ之カ事務ヲ掌  
ラシメ大藏大臣之ヲ管理スルモノトセリ是ニ於テ大藏省ニ於テ現金ヲ出納スルノ制ハ全ク其跡  
ヲ絶チ金庫ハ國家唯一ノ出納機關タルニ至レリ仍テ同月金庫出納事務規程ヲ定メ出納ニ關スル  
取扱方法ヲ規定セリ而シテ管理ノ實ヲ舉ケント欲スレハ検査官吏ヲ派出シテ何時ニテモ金庫ノ  
金櫃帳簿ヲ検査スルヲ得サル可カラサルヲ以テ同月金庫検査規程ヲ設ケテ検査ニ關スル手續ヲ  
定ム明治二十七年六月ニ至リ國庫金ニ餘裕アルトキハ之ヲ日本銀行ニ預入レ其不足スル場合ニ  
ハ同行ヨリ借入ヲナスヲ得ルモノトシ以テ資金ノ運用流通ノ便宜ヲ謀レリ  
之ヲ要スルニ國庫ノ出納ハ最初各廳自ラ之ヲ取扱ヒタルモ再轉シテ大藏省ニ於テ之ヲ掌リ更ニ  
三轉シテ日本銀行ニ專委スルニ至リタルモノニシテ而シテ之カ制度ハ明治六年制定ノ金穀出納  
順序ニ萌芽ヲ發シ明治二十二年金庫規則ヲ設クルニ及ヒテ一段落ヲ告ケタリト謂フ可キナリ



## 第二章 出納機關

國庫ノ出納機關トシテ專ラ此ニ説明セントスル所ハ爲替方爲替御用掛各廳爲替方税金預所大藏省爲替方現金取扱方現金支拂所國庫金取扱所國庫金出納所及金庫ナリトス而シテ是等諸種ノ機關ニ就テハ既ニ第二編財政機關中ノ金庫ノ部ニ於テ其梗概ヲ記シタリト雖モ本章ニ於テハ主トシテ其出納事務ニ關シ詳細說述スル所アラントス而シテ中央ニ於ケル出納機關ニ付テハ既ニ第二編ニ詳論セルヲ以テ此ニハ其一斑ヲ示スニ止マル今本論ニ入ルニ先チ聊カ之カ要旨ヲ記載セ

抑モ爲替方制度ノ設置ハ明治元年二月十三日三井八郎右衛門島田八郎左衛門及小野善助ナルモノ會計事務局官金ノ爲替ヲ處辨センコトヲ申請シ之ヲ許可シタルヲ以テ嚆矢ト爲ス次テ同年十二月十四日ニ至リ東京府下ノ兩換商三井次郎右衛門外五十餘名ニ官金爲替用達ヲ命シテ官金ノ爲替事務ヲ取扱ハシメタルカ降テ明治五年八月五日遂ニ爲替方ノ名稱ヲ廢止シ更ニ大藏省爲替御用掛ヲ設置シ三井小野聯合銀行ヲ以テ之ニ任シ金銀收支ノ事務ヲ掌ラシム後同銀行ハ第一國立銀行ト改名スルニ及ヒ明治六年六月大藏省ノ金銀出納事務ヲ同銀行ニ委託シ大藏省第一國立銀行金銀取扱規則十六箇條ヲ定メ第一國立銀行ハ東京ヲ以テ本據トシ京都大阪橫濱及神戸ノ四箇所ニ出張所ヲ設置シ大藏省ニ於テ收入支出スル金銀ヲ取扱フモノトシ損害ノ辨償及抵當ノ提供等ニ就テ規定セリ而シテ其他ノ各廳及府縣ニ在リテハ從來商會又ハ富豪ニ命シ經費ノ請拂及貢納金ノ爲替ヲ掌ラシメ各廳隨意ニ其取扱方法ヲ定メタリト雖モ斯クテハ統一ヲ缺ク而已ナラス

危険モ亦少カラサルヲ以テ次テ七月ニ至リ諸省使及府縣ニ令シ前記ノ取扱規則ニ準シテ爲替方ヲ命セシム然ルニ府縣ニ關シテハ其取扱方法自ラ異ルモノアルヲ以テ同月更ニ府縣爲替方ノ設置手續及規則ヲ定メテ府縣ニ達セリ後明治十年七月ニ至リ府縣ヲシテ爲替方トノ舊約條ヲ廢止シ更ニ命令書案ヲ示シ同時ニ各廳ニ關シテモ亦該命令案ニ照準シテ更ニ爲替方ヲ命スヘキモノトス

尋テ明治十一年十二月ニ至リ國稅領收順序ヲ定メ戶長ヲシテ税金ヲ受領シ之ヲ税金預リ人ニ交付スヘキモノトシ由テ各地ニ税金預リ所ヲ設置シ翌十二年二月命令書案ヲ定メ以テ其取扱手續及責任ニ付テ規定セリ而シテ同年五月ニ至リ税金預リ所ヲ改メテ大藏省爲替方ト爲シ同時ニ命令書案ヲ改正増補シ更ニ翌十三年十一月爲替方條例及當務心得ヲ定メ税金稅外金等凡ソ各地方ヨリ納付スル金額ヲ領收シ且其收支ヲ便ニスル爲メ爲替方各地方ニ設置スルモノトシ納金預入預金拂出金員送納抵當給與及帳簿計表等ニ付テ詳細規定シ且處務ノ順序ヲ示シタルカ此ニ至テ爲替方ハ爲替用掛ニ代テ漸ク重要ナル機關トナレリ降テ明治十五年六月ニ至リ各廳現金管守順序及委託規則ニヨリ大藏省ニ於テ管守スル各廳現金ノ收支ヲ取扱フ爲メ各地方ニ爲替方ヲ設置セリ之ヲ要スルニ從來爲替方ト稱スルモノハ直接ニ支拂ノ衝ニ當ルコトナク納入機關トシテ國庫ニ收納ス可キ現金ヲ受領シ出納局長ノ命令ニ從ヒテ或ハ之ヲ各廳ニ交付シ或ハ之ヲ出納局ニ送納セシナリ

翌明治十六年四月ニ及ヒ日本銀行ヲシテ國庫金ヲ料理セシムルコト、シ此ニ於テ同年六月爲替方ヲ廢止シテ各地ニ國庫金取扱所ヲ設置セリ是ヨリ先キ同年五月國庫納金取扱順序ノ定メラル

ルヤ日本銀行ハ國庫ニ收入ス可キ納金ヲ領受シ之ヲ納付スルコトヲ掌ルモノトシ明治十七年一月ニ至リ國庫納金海關稅取扱順序ヲ定メ稅關ノ收税金ヲ取扱ハシメ後明治十九年一月國庫金取扱所事務順序ヲ設ケ取扱手續ヲ定ム而シテ其主タル職務ニ至テハ敢テ爲替方ト異ルナキナリ斯ノ如ク國庫金取扱所ハ單ニ收納機關ニ過キササルヲ以テ之ヲ設置スルト同時ニ支拂機關トシテ現金取扱方ヲ置キ其處務順序ヲ定メ又明治十八年六月橫濱神戸長崎函館新潟ノ五箇所ニ現金支拂所ヲ設ケ稅關ニ關スル經費ヲ取扱ハシム超エテ明治十九年三月歳入歳出出納規則ヲ定ムルニ及ヒ各地方ノ現金取扱方ヲ廢シテ現金支拂所ヲ置キ純然タル支出機關トセリ是ニ於テカ國庫金取扱所ト相俟テ收支ノ機關ハ更ニ一層具備スルヲ得タリ

明治十九年一月更ニ大藏省中ニ金庫局ヲ置キ中央金庫ヲ管理シ現金ノ管守出納及國庫金取扱所現金仕拂所統轄ノ事ヲ掌リ併セテ東京大阪兩府ノ官金出納ヲ取扱ハシム故ニ金庫局ハ又中央金庫ノ出納機關タリシナリ

曩ニ全國各地ニ國庫金取扱所ヲ置キ歳入ヲ掌ラシメ現金仕拂所ヲ設ケテ歳出ヲ取扱ハシメ金庫局ハ之ヲ統管シ兼テ一部ノ出納ヲ掌リシコト前ニ述フルカ如シ然レトモ斯クテハ現金運轉ノ不便尠カラサルヲ以テ明治二十年二月國庫金取扱所及現金仕拂所ヲ改メテ國庫金出納所トナシ以テ其出納事務ヲ合一シ金庫局ハ單ニ中央金庫ノ出納ヲ掌リ其他ハ舉ケテ之ヲ日本銀行ニ專委セリ是ニ於テ各廳爲替方ノ名稱ハ全ク跡ヲ絶テリ其他經費ノ支出若クハ歳入ノ收受ニ便センカ爲メ明治十九年三月以來之カ取扱方各廳ニ派出セリ

明治二十二年ハ會計制度革新ノ機ニ際セルヲ以テ十二月金庫規則ヲ制定シ國庫ニ於テ保管出納

スル現金ヲ取扱フ爲メニ新ニ金庫ヲ設ケ翌二十三年四月一日ヨリ之ヲ施行シ從來ノ國庫金出納所及金庫局ヲ廢止セリ而シテ金庫ハ之ヲ分テ中央金庫、本金庫及支金庫ノ三種トシ日本銀行ハ此等金庫ノ現金ヲ保管出納スル爲メ各地ニ支店又ハ代理店ヲ設置ス可キモノトス仍テ明治二十二年二月以降一般及特別會計ニ關スル金庫出納事務規程ヲ定メ以テ其處務順序ヲ規定セリ而シテ金庫ハ大藏大臣之ヲ管理シ且検査官吏ヲ派出シテ其金櫃帳簿ヲ検査スルヲ得ルハ金庫規則ノ定ムル所ナルヲ以テ金庫検査規程ヲ定メテ之カ手續ヲ示セリ

### 第一節 爲替方

此ニ汎ク爲替方ト總稱スルハ國庫ニ收納スル金錢ノ鑑定收入遞送若クハ支出ノ事務ヲ掌ルモノニシテ之ヲ分テ爲替方爲替御用掛各廳爲替方税金預リ所及大藏省爲替方トス

#### 第一款 爲替方

爲替方ハ明治元年二月十三日三井八郎右衛門島田八郎左衛門及小野善助ノ三人ヨリ會計事務局官金ノ爲替取扱ヲ爲サントヲ請願シ之ヲ允許シタルニ淵源セリ抑モ爲替トハ金銀貨幣ヲ甲地ヨリ乙地ニ遞送セント欲スル者先ツ甲地ノ店舗ニ就キ實貨ヲ交付シテ金額ヲ記載セル券票ヲ領受シ之ヲ乙地ニ遞送シ之レカ送付ヲ受ケタル者ハ乙店舗ニ至リ實貨ヲ領收スルモノナリ  
同年十二月十四日東京府下ノ兩替舖三井次郎右衛門以下五十餘名ニ會計官官金爲替用違ヲ命シ官金爲替ノ事務ヲ處辨セシメ各金一萬兩ヲ交付シ該交付金額ハ六箇月毎ニ清算スルモノトス(或

爲替用違ヲ命セシハ高島清兵衛以下四十一名ナリト又日前ニ命シタル爲替方ハ主トシテ現金通過ノ任ニ當リ後ニ命シタルモノハ金銀納拂ノ事ヲ掌リシモノナリト)而シテ會計官爲替方任命ノ後即チ十二月十八日一同ヘ對シ口達セルモノニ曰ク

其方共此度爲替方御用申付候ニ付左ノ通り可相心得候事

- 一 御用筋之儀不限何事無理ナラヌ様可取扱事
- 一 市中數十萬戸之内人撰ヲ以御用申付候儀者御用辨而已ニアラス金銀之取遣不同ヲ生シ候得ハ萬民之難儀ニ係リ候故ヲ以テ萬事公平之御處置有之度旁其方共御撰舉相成候儀ニ付其段相辨ヘ下情ヲ篤ト斟酌シ下々引立御趣意貫徹致候様可心掛事
- 一 臨時調達申付候哉モ難計ニ付此度一萬兩拜借申付候條銘々家業一際相助諸事實意ヲ旨トシ臨機之御差支無之様可致事
- 但六箇月毎ニ改正可致事
- 一 怠惰ニ流レ自然御用向勤兼候者出來候ハ、御用被免拜借之品取揚嚴重之咎可申付其節ニ至聊モ御怨申間敷事
- 一 萬一非道之御用等申付候節ハ何レヘナリトモ少無遠慮愁訴可致事

辰十二月

會計 官朱印

ト以テ責任ノ一斑ヲ知ルニ足ル

前掲ノ口達ニヨリテ爲替用違ハ政府ノ金融機關タリシコトハ明カナリト雖モ果シテ出納機關タリシヤ否ヤハ判明セス然レトモ明治三年制定ノ出納司分課取扱大意中出納司取扱事項第三第四ニ左ノ文アリ

一 金錢納拂ハ都テ爲替方へ申付候ニ付上納金ハ同所預ケ手形ヲ以テ爲相納溜リ見計金庫ニ繰入ル事

但貨幣改所改包ノ上銘々正金金札持參上納ノ分モ一旦爲替へ預ケ置本文ノ通取扱候事  
一 右爲替預溜リ金ニテ諸渡方不足ノ節ハ金庫御有高ヨリ繰出候事

但爲替預ケノ分ハ諸渡方ノ模様ニテ掛引致シ成丈ケ預ケ高不相嵩様十萬兩前後ヲ目的ニ致シ置候事

從テ其出納機關タリシコトヲ知ルヘシ

後明治五年四月ニ至リ井上大藏大輔ハ府縣租税金ヲ爲替方法ニヨリ送納セシムルノ急務ナルコトニ付正院ニ上申スル所アリタリ其全文左ノ如シ

租税金送納之難易者大ニ地方之煩慮スヘキ事ニシテ而モ收稅之事務舉否關係スル處ナレハ溢滯淹留スヘカラサル様適宜之方法相設度現ニ米穀回漕之事者驛遞寮ニヲキテ議案中ニ付暫ク其決議ヲ埃施行可致然ルニ貢金之儀者各地方ヨリ遠路輸送之上上納イタシ候者如何ニモ手重之儀ニ有之且駄送之斤量又者宰領等之人員等夫々金數之都合ニ依リ從而入費之多少モ有之候儀故譬ヘハ一千圓或者二千圓之收額有之候共夫而已駄送候而者斤量壹駄ニ不充シテ宰領等ノ費用迄多分之諸費相掛リ候儀故收額二三萬圓ニ至ルヲ待送納候様之仕來ニ有之即二三萬圓ニ充ル之間三四箇月或者七八箇月モ空敷金庫或者預ケ人之手ニ差置候儀故其金利息暗ニ損スルモノ不少其月一ニ千圓ヲト見積三府七十二縣ニテ十五萬圓ナリ而シテ政府臨時費用之闕乏アルニヲキテハ巨商ニ課シテ其金額ヲ借入シ若干之金利息拂與候儀ニテ我カ處有之貨幣ヲ包藏

シテ却而金利ヲ出シテ他人之貸與ヲ仰クモノニ均敷シテ其得失不待論也是運輸之不便ヨリ生スルノ損耗ニ有之仍而審案候處米國等ニテハ各部ニ夫々租稅收納之官員ヲ派出シテ直ニ收納シ其稅額ヲ各自之爲替手形ニシテ本寮へ送納スルノ手續之趣ニ有之前途見込之通總而金納之收方ニ改正候上者猶良法モ可有之候得共目今適宜之方法者三府七十二縣之應下ニ爲替方之出張ヲ設ケシメ

此儀爲替方ヲモ一應相糺候處現今縣廳下ニ三井小野兩店之出店有之候分モ多分有之未タ出店無之土地ト雖モ從來取引之商店有之候儀ニ付爲替取引之儀一切差支無之旨申立勘考候處出店有之候土地者勿論之儀ニテ未タ出店無之土地者三井等ヨリ兼而取引之商店ト約束ヲ結爲替方出張所之名義ヲ以テ其爲替組ト或ハ商店トノ約束ハ政府ニ於テ爲取扱候得者其設簡易ニシテ其功許多ト相考申候

縣廳之收額ヲ一箇月兩度即十五日即十五ツ、其金額之多寡ヲ不論爲替手形ヲ以テ送納爲致各縣廳平常之出納金預ケ方ヲモ爲替方出張所ニ爲取扱候得者第一縣廳金預方確實ニテ殊ニ縣廳出納向取締相立候一助ニ相成若干之貨幣運送之冗費ヲ省キ留滯之損耗ヲ防キ從テ政府臨時費用之闕乏ヲ補ヒ租稅收稅之事務ニヲキテ完全ヲ得候儀ト勘考仕候然ルニ目今三井外二名出店之儀者別紙之府縣而已ニ有之追而者各縣一樣之所置ニ爲致度存候得共先以出店有之候府縣而已別紙手續書之通施行可仕旨相達申候此段申上置候也

壬申四月

正院御中

大藏大輔 井上 馨

此コニ於テカ明治五年五月十五日府縣送納ノ租税金ヲ爲替方ニ委任スルコト、シ三井小野島田三組ノ設置セル各地方支店ニ爲替方支店ノ名稱ヲ假付シ其支店所在ノ府縣ヨリ施行シ其支店ナキ府縣ハ後日設置ノ時ヨリ施行セシムルコト、シ送納爲替ノ順序ヲ設ケ毎月望晦ノ兩次ノ租税ノ多寡ヲ問ハス總テ爲替券ヲ以テ東京ニ送納スルモノトシ其他縣地ヘノ爲替順序及請書ヲ定メタリ而シテ翌年七月爲替規則ヲ定ムルニ及ヒ該規程ハ廢止セラレタリ

御請證書

從來出店有之候御府縣下エ爲替方出張所取設御上納金爲替方竝御用金預方共取扱方被仰付難有御請奉申上候

一 右御用取扱候ニ付テハ一縣一萬兩ツ、ノ證據金差上置月七朱之利金御拂被下候旨被仰付御請奉申上候

一 右御用取扱之儀ニ付萬一名代人共引負又ハ心得違之儀有之候ハ、急度引請相辨へ御手數相懸申間敷ハ勿論其次第二寄證據金等ニテ相辨へ兼候節ハ如何様ニモ差操辨納可仕候

一 爲替手續書竝御用金預方之儀者御別紙御達之通入念取扱可申候

一 爲替金之儀ハ御縣々ヨリノ御送納金竝御縣地エノ御渡金トモ手形著日無相違其金品ヲ以テ上納可仕候

爲替手續竝手形表式

右御請證書差上申處如斯ニ御座候也  
每月二回即十五日租税金之多寡ニ不拘爲替手形ヲ以テ東京へ送納之筈ニ付手形表式及其手續等

左之通取極候事

但本文定日納金無之候ハ、其段縣廳ヨリ租税金へ可届出事

一 爲替方出張ノモノハ其印鑑ヲ其廳へ差出代判之證ト爲へキ事

一 府縣ヲキラハ知事令參事竝出納方官員之印鑑ヲ渡シ置出納之證據トスヘシ

一 手形者最初東京其組々爲替方ニテキラ黒青紅之界紙ノ定字判ヲ表式之通作リ帳面ニ綴リ黒ハ第一號青ハ第二號紅ハ第三號切放シノ標線へ重立タルモノ調印シ此調印ハ他日手形ニナリタ出張所ニ號紅ハ第三號之代人エ渡置ヘシ

一 各地出張所之爲替方ニテ爲替ヲ組ニハ兼而東京本店ヨリ渡シ置タル手形字本三種エ其金額及金品年月日惣番號等ヲ夫々之空位へ記入シ其出張所之印竝重立取扱フモノ之實印ヲ押捺シ本帳ヨリ切放シ本帳之裁殘エ金額及ヒ總番號年月日竝其取扱タル重立代人之名印ヲ認置ヘシ此三種ノ手形者第一號ヲ以テ本證ト爲シ二號三號者準證ト爲スヘシ即此三種ヲ取揃へ縣廳エ納ムヘシ

一 縣廳ニ而者此三種之手形之内第一號エ納證書ヲ添此證書ハ甲ノ字東京出張所エ差送り上納之手數ヲ爲サシメ別便ニヨリ五日以後十日第二號之手形ニ納證書ヲ添此證書者乙ノ字ヲ添第一號手形者何月幾日ニ差立タル旨書添租税金宛差立ヘシ  
一 第三號之手形者廳エ留置第一號手形ニテ上納相濟租税頭之受取書到著セハ第三號之手形エ不用之字ヲ捺點シ爲替方エ戻スヘシ爲替方ニテハ此三種之手形ニ消印ヲ加ヘ一租税金ニテハ第二號之爲替手形竝乙印納證書ヲ受取ラハ第一號ニテ既ニ納済ニナリタル

哉否ヲ検査シ納済ナラハ其納證書へ第一號手形ヲ以テ納済之旨ヲ記載シ縣官エ渡シ縣官ハ之ヲ本縣エ通達スヘシ且第二號手形ハ租稅寮之消印ヲ加ヘ爲替方エ戻スヘシ

一 租稅寮ニテ檢閲セシ時若シ第一號手形ニテ未タ上納之運ヒニ至ラサル分者速ニ出張之縣官及爲替方エ其旨ヲ示達シ縣官ヨリ本廳エ申送り本廳ニ於テハ路次其外之穿鑿ヲ遂ヘシ租稅寮ニ於テハ此二號之手形ヲ受取リシ日ヨリ十五日ヲ經ルト雖モ一號手形到着セスハ第二號之手形ヲ以テ上納可取計事

一 東京爲替方ニ於テハ手形到着之上ハ即日ニテモ其筋之達アラハ手形面之金品ヲ以テ手形引換ニテ上納可致事

右之條々相定候事

大 藏 省

縣地エ爲替手續

一 大藏省之渡金者出納寮振出切手ヲ出張之縣官エ渡縣官之ヲ爲替方へ達シ爲替手形振出ノ手續者上納金爲替手續ニ異ナラス第一第二第三之爲替手形ヲ取揃出張之縣官へ差出縣官其第一號之手形ヲ縣地へ差立別便ニ日ヨリ五日以後十日間第二號之手形ヲ差立第一號手形者何月幾日差立タル旨ヲ書添ヘシ

一 縣廳ヲキテハ第一號之手形到着セハ其旨ヲ爲替方へ達シ其金品ヲ以テ手形引換ニテ上納セシメ其手形落手セル旨ヲ即日又者翌日東京出張廳へ達スヘシ

一 第一號手形到着前第二號之手形到着セハ其手形ヲ以上納爲致第一號手形未著之旨東京出

張廳へ申遣シ路次之穿鑿ヲ遂ヘシ

一 第一號手形到着後第二號手形到着セハ廳ニヲキテ第二號手形へ不用之印ヲ押捺シ爲替方へ戻シ東京出張廳へモ落手之報知ヲ爲ヘシ

一 出張廳ヲキテハ第一號第二號手形落手之報知ヲ得者第三號之手形へ不用之印ヲ加ヘ爲替方へ戻スヘシ

右之外上納金爲替之振合ニ準シ取扱可申事

壬申五月

第二款 爲替御用掛

明治五年八月五日爲替方ノ名稱ヲ廢止シ代フルニ大藏省爲替御用掛ヲ以テシ三井小野組合銀行ニ之ヲ命シ金銀收支ノ事務ヲ取扱ハシム後同年十一月十五日國立銀行條例ノ發布セララル、ニ及ヒ右組合銀行ハ第一國立銀行ト改稱セシカ明治六年六月大藏省ノ金庫出納事務ヲ第一國立銀行ニ屬シ大藏省第一國立銀行金銀取扱規則ヲ定ム其規程ニヨレハ人民ヨリ大藏省へ納付スル現金ハ之ヲ銀行ニ納メ銀行ハ預リ手形ヲ交付ス納主ハ其手形ニ納證書ヲ添ヘ以テ出納寮へ本納ノ手續ヲナシ出納寮ハ預リ手形ヲ銀行ニ送致シ出納寮宛ノ預リ手形ト交換シ此ニ收入ヲ完了スルモノトス而シテ人民へ拂渡スヘキ現金ハ出納寮ヨリ請取主ニ交付セラル、切符ニ依リ銀行ハ請求ニ應シテ之ヲ支出シ毎月兩度宛諸拂計算表ヲ提出シ殘金ハ出納寮ノ命ニ從ヒ上納スヘキモノトセリ次ニ検査及責任ニ關シテハ銀行ハ其收支事務竝ニ現金ニ就キ定期又ハ臨時ノ検査ヲ受ケ非

變災ヲ除クノ外盜難水火難等一切ノ責ニ任スヘキモノトス

太政官布告 第二百三十六號 添附 (明治六年七月二日)

大藏省第一國立銀行金銀取扱規則

大藏省ノ金銀出納事務ヲ第一國立銀行ニ命シ其取扱ヒヲナサシムルニ付右從事ノ手續キ及出納ノ諸規則トモ大藏省官員ト右銀行頭取々締役等ト協議決定スル條々左ノ如シ

第一條

此銀行ハ東京ヲ根據トナシ京都大阪橫濱神戸ニテ大藏省ニ收納スヘキ金銀或ハ拂渡スヘキ金銀ノ取扱ヒヲ命スルニ付テハ其事務取扱ノ際ニ於テハ大藏省官員同様ノ心得ヲ以テ誠實ニ之レヲ勤ムヘシ

第二條

大藏省へ上納スル金銀ハ總テ此銀行本店又ハ出張所ニテ請取眞價見故ノ上納主へハ銀行ノ預リ手形ヲ渡シ納主ハ右預リ手形ニ納證書ヲ添出納寮エ持參シ本納ノ手續ヲナスヘシ出納寮ニ於テハ更ニ銀行ノ金銀預リ帳へ記載シ證印ノ上最前ノ手形ハ銀行へ返達シテ出納寮ヨリノ預リ手形ト引換エシムヘシ

第三條

此銀行ニ於テ取扱フ金銀ハ新貨又ハ在來通用ノ貨幣幣トモ紙包スヘキ分ハ其雜形竝一種ノ銀行封印ヲ刻シ當省預ケ金ニ限リ此印ヲ用フル爲メ印面上隱微ニ標信ヲ著シ右印影等兼テ大藏省へ差出シ置キ且封緘上ニ記入スル年月日改人包人名前印形トモ各其位置ヲ定メ豫メ賈封ノ

患ヲ防クコトヲ注意シ必ス異様ノ封緘ヲ嚴止ス可シ

但シ各貨幣トモ請渡ノ上ニ於テ敢テ此封緘ノ儘流通ヲ許スニ非ス尤請取人ノ意見ニ依リ此封緘ヲ信用スルトキハ格別タルヘク若後日此封緘ニ附テノ爭論或ハ種々ノ苦情之レアルトモ又ハ損失アルトモ勿論大藏省ニ於テ之レヲ處分スルノ理ナク銀行ニ於テモ其損失ハ辨償セサルヘシ

第四條

改濟金銀ノ内若シ賈金銀或ハ不足金等アリテ追テ取調ノ上全ク銀行取扱ヒ向疎略錯誤ニ出ルコト明瞭ナル時ハ其賈或ハ不足丈ノ一倍ヲ合シテ償ハシムヘシ

但萬一作爲シテ釀出スル件アル時ハ精細ニ其由ヲ取糺シ處斷ノ上關涉ノ者ハ至當ノ法ニ處シ其損失スル金銀ハ第十三條ノ通タルヘシ

第五條

大藏省ヨリ諸方へ渡金ハ兼テ出納寮ニ設ケアル切符地紙エ拂金ノ員數竝ニ其渡シ先ノ名前トモ記載シ之ヲ請取主へ相渡シ銀行ト請取主ト直引合ニテ通用貨幣ヲ引換エシムヘシ尤請拂計算ノ爲メ毎月兩度ツ、或ハ出納寮ノ都合ニ因テハ其時々元帳ト切符ト照查ノ上差引勘定ヲナシ右切符ハ出納寮エ返上シ殘金銀ハ何時ニテモ上納相成ヘキ様致スヘシ  
但銀行ニテハ毎日預リ金ノ種類ヲ分ケ諸處出張銀行ノ預リ金高内譯ヲモ取調ヘ月々計表ヲ作リ之ヲ出納頭へ差出スヘシ尤橫濱ハ三日毎大阪ハ五日毎ニ計表可差出筈ニ付東京本店ニ於テハ此日間丈ハ曩ニ差出タル員數ヲ以テ調査スヘシ

第六條

此切符ヲ以テ再ヒ他へ運用スルコトハ嚴禁タルヘシ

第七條

大藏省ノ都合ニヨリ京都大阪橫濱神戸ニ於テ他方へ拂渡スヘキ金銀ハ便宜其地ニアル銀行ニ於テ前條ノ手續キニ從ヒ渡シ方ヲナサシムヘクニ付切符持參ノモノニ其地ニテ差支ナク渡シ方ヲ取扱フヘシ尤モ其地銀行預リ金ノ都合ハ毎日各出店預リ高ノ計表ヲ以テ兼テ之ヲ詳知シ出納寮ヨリ成丈ケ其高ヲ越ヘサル様心ヲ用ユヘシ

第八條

預リ金現額ノ種類ニ拘ラス出納寮ノ都合ニヨリテ洋銀或ハ各貨幣ノ交換ヲ命スルコトアラハ此銀行ニ於テ新貨幣或ハ圓札官省札ヲ除クノ外ハ時ノ相場ヲ以テ取引ヲナスヘシ自然預リ金ノ内舊藩札アル時ハ其時々出納頭ノ指圖ニ從ヒ東京ハ紙幣本寮京都大阪神戸ハ大阪出張紙幣寮ニ申出圓札ト引換ヲ乞フ可シ

第九條

此銀行ニ於テハ懺成名代ヲ選ヒ兼テ其者ノ印鑑ヲ差出シ置クヘシ然ル上ハ各地方ニ於テモ其者ノ印鑑ヲ目當ニ請渡ヲナシ萬一其者預リ金ヲ引負スルカ又ハ其他ノ不都合アレハ其責ハ本店へ歸シ不足金等ハ勿論本店ヨリ之ヲ償却スヘシ

第十條

此銀行ニ於テ盜難又ハ水火難等之レアリ預ケ金銀ヲ紛失スルコトアルトモ凡テ本店銀行ノ請

負タルヘシ

但非常ノ變災ハ此限ニアラス

第十一條

此銀行ニ於テハ預リ金ノ質物トシテ公債證書此公債證書ノ割合ハ一般總通スル處ノ時相場ヲ以テ成算スヘシ尤以往各公債證書ノ價自然高低スルニ至リテハ其時々大藏省並銀行ノ都合ニ依リ又ハ確實ナル預ケ金貸出金ノ證文又ハ家作雙方承諾ノ上右質物ノ高ヲ増減スルコトアルヘシ又ハ確實ナル預ケ金貸出金ノ證文又ハ家作地面地券ノ類至正ノ實價ヲ積算シ其確實ヲ保證スル爲メ兼テ之ヲ差入置ク可シ尤右高ハ預ケ金ノ半高ヲ以テ目途トナシ時ニ於テ之ヲ増減交換スルコトアル可シ(七年太政官達第百三十八號ヲ以テ改正ス)

第十二條

此銀行ノ預金高ハ前條質物ノ都合ニヨリ常ニ二百萬圓或ハ百五十萬圓ヲ以テ極度トナスヘシ若此決定ノ金額ニ超越スルトキハ大藏省金庫へ繰入又ハ他ノ銀行へ預ケ方ヲナスカ或ハ別ニ確實ノ保證ヲ差出シ此銀行ニ預ルコトアルヘシ

第十三條

此銀行ノ本店ハ申ニ及ハス各地出張所等ニテ萬一公金ヲ引負スルコトアル時ハ兼テ差入レ置タル質物ハ勿論速ニ償辦ノ手續ヲナシ其引負ニ於テ生スル損分ハ便宜ノ處分ヲナシテ之レヲ取立且ツ其引負ノ次第取糺ノ上國法ニ從ヒ至當ノ間ニ處ス可シ

第十四條

東京ハ素ヨリ各地共ニ每週一度出納寮官員此銀行ニ出張シテ諸帳面ノ記載方出納ノ順序及ヒ



金庫ノ有高ヲ取調ヘ各種ノ貨幣內譯トモ検査スヘシ尤モ東京銀行ニ於テハ各種ノ拂金ヲナシ省中持出シ金等ノ都合ニヨリ暫時庫中ヨリ假ニ差出シ置タトコロノ金高ヲ計リ預ケ金總額ノ内十萬圓マテハ除之計算相立ヘシ

但本文ノ外臨時出張スヘクニ付諸帳面其外錯亂之レナキ様順序相立置ヘシ

第十五條

諸上納金ノ内未タ本納ノ手續ニ至ラス假預リノ分ハ別簿冊ヲ設ケ夫々順序ヲ立テ金種竝納先等詳明ニ記載シ別段ニ預リ置ヘシ此金トイヘトモ勿論銀行ニ於テ自己ニ運用ス可カラサルハ申迄モ之ナク候ヘトモ萬一不分明ノ所置致シ候節ハ其金高一倍ノ罰金ヲ差出スヘシ

但東京並各地トモ出納寮ハ勿論造幣租稅土木紙幣諸寮ノ官員臨時此銀行ヘ出張シ右預ケ金ノ有高及簿冊ノ記載方ヲ検査スヘシ

第十六條

此銀行ニ於テ金銀請拂ノ取扱ヒ竝預リ金ノ請負等ヲナスニ依リ保險竝手数料トシテ預ケ金ノ内高百萬圓迄ハ百分ノ三右以上ハ百分ノ二ト定メ毎年六月十二月ト兩度ニ之ヲ拂ヒ渡スヘシ但各地有高ノ内ヲ爲替スルニ一口ノ金高百萬圓未滿ナレハ手数料ナク銀行ニテ便宜之レヲ交換スヘシ尤モ百萬圓以上ノ高ナレハ其時ノ相場ニヨリテ爲替打歩ヲ遣スヘシ若又全ク現金ニテ運輸ノ節ハ相當ノ運輸賃ヲ渡スヘシ

附タリ各種爲替打歩ノ割合ハ相當ノ見込ヲ以時々銀行ヨリ出納寮ニ申立置クヘシ尙ホ翻テ當時ノ制度ヲ按スルニ爲替御用掛ハ東京大阪京都橫濱及神戸ノ五箇所ニ於ケル大藏省

金錢ノ收支ヲ掌リタルモノニシテ爾來各廳爲替方稅金預リ所及各府縣大藏省爲替方ヲ設置シテ其所管金錢ノ出納事務ヲ取扱ハシメタルコト後ニ述フルカ如シ然ルニ明治十三年十一月二十七日ニ至リ大藏省爲替方條例ヲ定メ各地方ヨリ納付スル金錢ノ收支ヲ便ニスルタメ各地ノ銀行會社ニ爲替方ヲ命スルコト、ナリタルヲ以テ從テ爲替御用掛ハ此時ヲ以テ廢止セラレタリト云フ可キナリ

第三款 各廳爲替方

各廳爲替方ハ明治六年七月二日ノ太政官布告ニ基キ創設セラレシモノナレトモ其實際ノ設置ハ各省各府縣區々ニシテ一途ニ出テサルナリ蓋シ先是各廳ノ便宜ヲ以テ或ハ爲替方ト稱シ若クハ御用掛ト唱ヘ商會又ハ豪商ニ命シ現金ノ收支ヲ取扱ハシメタルモ其方法及規約ハ各廳ノ隨意ニシテ從テ往々危險ノ虞ナシトセス故ニ第一國立銀行ヲシテ爲替御用掛ノ事務ヲ取扱ハシムルニ及ンテ諸省使府縣ニ達シ大藏省第一國立銀行金銀取扱規則ニ準據シテ約定案ヲ定メシメ以テ其統一ヲ期シ併セテ危險ヲ豫防スルノ方策ヲ採ルニ至リシナリ

太政官布告第二百三十六號 (明治六年七月二日)

諸 省 使

省使定額金請拂方ニ付テハ各自便宜ヲ以テ商會又ハ有名ノ豪商等ヘ申付出納ノ現務爲取扱候處此度大藏省ニ於テ官金取扱方ヲ第一國立銀行ヘ命シ別紙ノ通約定相設候ニ付向後省使トモ右約定書ニ依ヒ約束ノ草案ヲ設爲シ從來取扱方申付候者又ハ將來可申付モノトモ名前取調都テ大藏省ヘ照會ノ上同省承諾ヲ以テ結約イタシ出納事務精確相成候様可致事(別紙ハ前)

太政官布告第二百三十七號 (明治六年七月二日)

府

縣

府縣貢納金爲替方竝ニ縣費請拂出納等ニ付テハ各自便宜ヲ以テ商會又ハ有名ノ豪商等へ申付  
出納ノ現務爲取扱候處此度大藏省ニ於テ官金出納取扱方ヲ第一國立銀行へ命シ別紙ノ通約定  
相設候ニ付向後府縣ニ於テモ右約定ノ成則ニ從ヒ草案ヲ設爲シ爲替出納等爲取扱候モノ名前  
取調都テ大藏省へ伺出其指圖ニ任セ約束等相定出納筋嚴重取締可致事(別紙ハ前  
款ニ掲ク)

各廳爲替方ハ大藏省ト第一國立銀行トノ約定書ニ據リテ之ヲ任命スヘキコト前ニ述フルカ如シ  
然ルニ府縣爲替方ハ大藏省ノ金銀取扱方法トハ自ラ異同アリテ從テ全ク該規則ニ照準シ難キモ  
ノアルヲ以テ同月五日別ニ府縣爲替方ヲ設クル手續及爲替規則ヲ定ム即チ爲替方ニハ巨商豪農  
其他何人ヲ論セス身元確實ナルモノヲ選定シ大藏省ノ許可ヲ受ケテ之ヲ命シ且擔保ヲ供セシム  
ルモノニシテ其擔保ハ公債證書又ハ不動産ニ限ルモノトス左ニ其收支ニ關スル手續ヲ略說セン

一 收入金

府縣爲替方ハ租稅其他收入金ヲ受取リタルトキハ其多寡ニ拘ラス爲替切符ヲ以テ其上納ヲ取  
扱ヒ請取金ハ其都度東京出張ノ府縣官ヨリ送達スヘキモノトシ改貸包貸トシテ其金高千分ノ  
一ヲ手数料トシテ上納者ヨリ徵收シ爲替方ノ所得トナサシム而シテ爲替切符ハ第一號第二號  
第三號ノ三種トシ黒青紅色ノ界紙ヲ以テ一見之ヲ區別シ易カラシメ領收金員其他必要ノ事項  
ヲ記載シ第一號切符ヲ本證トシ二號三號ヲ準證トナシ總テ當該官廳東京ニ在リテハ  
府縣出張吏へハ納付ス  
官廳ハ第一號切符ニ納證書ヲ添ヘテ東京出張所ニ送致シ現金ハ別ニ上納シ更ニ第二號切符ニ  
納證書ヲ添ヘテ現金上納先キへ送致ス現金納入所ハ第一號切符到達シ現金已ニ納付済ナルト

キハ其旨ヲ記入シテ該切符ヲ返還ス第三號切符ハ之ヲ官廳ニ留置キ上納先ヨリ現金受領證到  
達ノ上ハ不用ノ印ヲ捺シ爲替方へ送致スヘシ

二 支拂金

爲替方ニシテ支拂ヲナスニハ現金ヲ請取リテ之ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ其現金ヲ請取ルノ  
順序ハ上納ノ手續ト同一ニシテ即チ出納寮ヨリ府縣出張官ニ對シ切符ヲ交付シ爲替方其切符  
ヲ受取リ第一國立銀行ニ至リテ之ヲ現金ト引換ヘ且三種ノ切符ニ必要ノ事項ヲ記載シ出張官  
へ提出ス出張官ハ之ニ送り證書ヲ添ヘテ各府縣へ送致スルモノトス

以上ノ所説ニ依テ之ヲ見レハ府縣ハ常時東京へ官吏ヲ出張セシメテ相互ノ取次ヲナサシメ府縣  
爲替方ハ直接ニ大藏省ト關係スルコトナシ而シテ府縣爲替方カ人民ヨリ納金ヲ受ケ又ハ人民へ  
支拂ヲナスニハ如何ナル手續ニヨリシヤハ毫モ明記スルモノナシト雖モ前述シタル大藏省第一  
國立銀行金銀取扱規則ヲ準用セシコト疑ナシ

大藏省 第百八號 (明治六年七月五日)

府

縣

金銀取扱ノ議ハ太政官第二百三十七號ヲ以テ大藏省第一國立銀行約定書添御達相成候ニ付テ  
ハ右ニ照準結約可致ハ勿論ニ候得共各府縣爲替方之儀ハ大藏省金銀取扱向トハ自ラ異同有之  
全難照準趣モ有之旁右爲替方取設之手續キ竝規則トモ別紙之通相達候間是マテ掛屋竝爲替方  
等取設有之分竝以往取扱候分トモ總テ右手續書之通早々施行可致候尤其風土ニヨリ實際速ニ  
施行相成兼候儀モ有之候ハ、其情狀巨細可申出候且以往ハ漸々此規則ヲ以テ施行可致見込相  
立別段可申出候依之別紙手續書相添此段相達候事

爲替方ヲ設ル手續

第一條

此爲替方ヲ設クルニハ各府縣下ニ在ル巨商家農其外何人ヲ論セス身元十分儘成者ヲ選ヒ大藏省ノ許可ヲ得之レヲ命ス可シ若シ其選ニ當ル者他ノ府縣其外數箇所ノ用向取扱ヒ身代不相應ノ金銀ヲ運用シ其財力不足ニシテ他日故障出來種々ノ手數ヲ釐出シ終ニ官ノ損失ヲ生スルモ測リ難ケレハ豫メ其患害ヲ防護スルコトヲ尤モ注意スヘシ

但府縣ニ於テ既ニ人選シ十分善シト稱スル者トイヘトモ伺出ノ上大藏省ノ都合ヲ以テ尙又其是非ヲ審案シ且其地位ノ遠近港津ノ便否ニヨリテハ或ハ之ヲ取捨シ或ハ他ノ人選ヲナシ之レヲ命スルコトアル可シ

第二條

此爲替方ヲ命シ金銀ノ取扱ヲナサシムルニハ概大藏省ニ於テ第一國立銀行ト約定スル金銀取扱ヒ規則書ニ倣ヒ右條款ヲ斟酌シ各府縣令參事及ヒ其主任ノ官員ト爲替方主任ト嚴密ニ約定ヲ爲シ其簿記計算ノ方法竝爲替納拂ノ順序等手堅ク取扱ヒヲ爲サシム可シ

第三條

此爲替方ハ其府縣管下ノ貢納金或ハ大藏省ヨリ請取セシ所ノ其管内出納ノ金銀等ヲ掌リ當ニ之ヲ運用保持スルニヨリ假令身元儘成者トイヘトモ萬一不慮ノ事出來候歟又ハ自家商業ノ盛衰等ニ依リ如何様ノ儀ニテ官ノ損失ヲ生スルモ測リ難ケレハ精確ノ引當品ヲ預リ置キ時宜ニヨリテハ之レヲ處分シ悉皆取揚ク可キ手續キヲナシ親類戶長等ノ與印ノアル證書ヲ取置クヘ

シ

但右引當品ハ其者所持スル公債證書此公債證書ハ一般融通スル建家地面共地券ノ類當時適當ノ實價ヲ以テ積算シ又ハ當時他ノ儘成質物ヲ取置キ現金ノ貸出高等詳細取調ヘ右證書ノ類差出候歟總テ府縣每歲凡貢納スヘキ金高及ヒ大藏省ヨリ請取ルヘキ高トモ見積リ其概略合高三分ノ一又ハ四分ノ一ノ質物ヲ取置キ爲替或ハ預ケ金トモ運用ノ高ヲ計リ譬ヘハ十萬金ノ質物アリテ十萬金ヲ爲替スル時ハ右爲替先請取證ヲ落手シ然ル後又十萬金ヲ爲替スルカ又ハ預ケ金ノ高若シ質物高ニ盈ツル時ハ速ニ之ヲ處分シ常ニ右質物ニ超過セサル丈ケノ請合ヲナサシムヘシ且右質物ハ時ニ於テ之レヲ増減シ或ハ此品ト彼物ト變換スルトモ差支ナカルヘシ七年大藏省第十五號達ヲ以テ合高三分ノ一又ハ四分ノ一ヲ三分ノ一ト確定シ次ナカレヘシテ同年同省乙第十一號達ヲ以テ預ケ金高相當ノ質物取置キニ改メ八年同第百三號ヲ以テ改正ス

第四條

此爲替方ハ多數ノ金銀納拂ヲ取扱ヒ其危險ノ請合ヲナサシムルニヨリテハ租稅其外上納ノ金銀ハ改賃包賃等ヘ對シ納人ヨリ其金高千分ノ一ヲ出サシメ手續料ト爲シ直ニ爲替方ノ所得ト爲サシムヘシ且每府縣置金其外堤防諸營繕等ノ臨時費用ニ充ツル金トモ大藏省ヨリ請取他ノ渡方ヲナサシムルニ付尙又其現拂出金高此拂出金トモ大藏省ヨリ請取他ノ渡方ヲナサシムルニ付尙又其現拂出金高相濟總テ手續料ト爲シ每歲兩度ニ計算シ之レヲ各府縣常費ノ内ヨリ用所費員ニ拂金ノ百分一ヲ與ヘテ手續料ト爲シ每歲兩度ニ計算シ之レヲ各府縣常費ノ内ヨリ仕拂追テ清算勘定ヲ爲スヘシ

但右爲替方ニ於テ納拂手續料ヲ得ル上ハ府縣廳ヘ出仕スル爲替方手代等ヘ別段手當給料ニ

ハ及ハス素ヨリ不足金賈金等ハ辨納セシメ且ツ此地ヨリ彼地へ回金彼地ヨリ此地へ上納爲替等總テ金高百圓以上ハ相當ノ爲替賃ヲ渡シ百圓未滿ノ爲替入費ハ渡サ、ル可ク下ニ於テ便宜爲替取扱ヒ爲替規則書ニ從ヒ速ニ運用ヲ爲サシムヘシ

第四條 此爲替方ハ多數ノ金銀納拂ヲ取扱ヒ其危險ノ請合ノナサシムルニヨリテハ租稅其他上納ノ金銀ハ改買包賃等ヘ對シ納人ヨリ其金高千分ノ一ヲ出サシメ手數料ト爲シ直ニ爲替方ノ所得トナサシム可シ且毎府縣定額金常費概費其他堤防諸營繕等ノ臨時費用ニ充ツル金トモ大藏省等ヨリ請取他ノ渡方ヲナサシムルニ付尙又一箇年金千五百圓ヲ與ヘテ之ヲ官金取扱給料トナシ各屬常費ノ内ヨリ月割ヲ以テ拂渡スヘシ

但爲替方ニ於テ手數料或ハ給料ヲ得ル上ハ府縣廳へ出仕スル手代ノ給料ヲ始メ總テ納拂等ニ係ル諸費ハ一切給與ニ及ハス素ヨリ不足金賈金等ハ辨納セシメ且此地ヨリ彼地へ回金彼地ヨリ此地へ上納爲替等總テ金高百圓以上ハ相當ノ爲替賃ヲ渡シ百圓未滿ノ爲替入費ハ渡サ、ル可ク下ニ於テ便宜爲替取扱ヒ爲替規則書ニ從ヒ速ニ運用ヲナサシムヘシ(明治七年六月大藏省達第六十)

爲替方ニ於テ手數料或ハ給料ヲ得ル上ハ府縣廳へ出仕スル手代ノ給料ヲ始メ總テ納拂等ニ係ル諸費ハ一切給與ニ及ハス素ヨリ不足金賈金等ハ辨納セシメ且此地ヨリ彼地へ回金彼地ヨリ此地へ上納爲替等總テ金高百圓以上ハ相當ノ爲替賃ヲ渡シ百圓未滿ノ爲替入費ハ渡サ、ル可ク下ニ於テ便宜爲替取扱ヒ爲替規則書ニ從ヒ速ニ運用ヲナサシムヘシ(明治七年六月大藏省達第六十)

第五條

往復爲替ノ手數料ハ第一里程ノ遠近其外通商ノ便否等ニヨリ各地共自ラ異同アリテ一定ナシ難ケレハ毎府縣ニ於テ實際ニ臨ミ其爲替方ト相談ノ上不相當ナキ其元額ニヨリニ付キハ金百圓或ハ發着日數ノ長短ヲ取調ヘ豫メ其幾分カ約定書へ書載シ置クヘシ

第六條

上納金他租稅金又ハ返納金其ハ其員數ノ多寡ニ拘ラス領收ノ都合ニヨリ爲替切符ヲ以テ上納取扱ヒ請取金ハ其都度東京出張ノ府縣官ヨリ同様送達セシムヘシ

第七條

上納金ハ都テ東京爲替ノ規則ニ候ヘトモ各地方ノ都合ニヨリテハ便宜大阪爲替取扱設ケ同處第一國立銀行預リ證書ヲ以テ是迄ノ通上納取計ヒ候テモ差支ナカルヘシ

第八條

此爲替方ヲ申付ル上ハ其府縣へ名代ノ者差出候歟又ハ東京ニ於テ本店之レナク更ニ出店ヲ設クル等其便宜ニ從ヒ尤本人ノ見込ミニ任セ儘成名代ヲ選ヒ兼テ姓名印影共相認メ差出シ置キ萬一其者不都合セシトモ勿論本人之ヲ引請其損失等ハ悉皆償辦セシムヘシ  
但此爲替方ハ一人ニ限ラス兩三人協力合心前條ノ手續キヲ以テ銘々ノ質物差出サセ替ヘハ一人ハ東京ニ於テ取扱ヒ一人ハ府縣ニ於テ取扱フトモ或ハ一人兩所ニ名代人ヲ置クトモ又ハ出店スルトモ差支ナガル可シ

第九條

右手續キニ從ヒ人名取極メノ上ハ第二條ノ通約定書相認メ質物明細書共相添ヘ左ノ雛形ニヨリ之ヲ大藏省へ伺ヒ出ツヘシ

何府管下何國第何區何小區何番地  
何業渡世

何 何 某

同  
 何 某  
 同處又ハ東京大阪何々  
 本店 取扱人  
 何 何 某  
 同  
 出店 取扱人又ハ代人  
 何 何 某

右當縣府爲替方申付度取調候處身元相應之者ニ候間來何月ヨリ條例之通取扱ヒ申付度依テ賃物記載書並約定書共相添此段相伺候也

明治何年何月 參事 令

大藏卿 輔殿

爲替規則

第一條

爲替切符ハ東京本店又ハ出張店並各府縣下出張ノ者兩所ニ於テ表式ノ如ク墨青紅ノ界紙ヘ定文字ヲ入レ之ヲ簿冊ニ作リ號ハ第一號番ハ第二號ト爲ス岡ノ如ク切リ放シノ標線上ニ雙方重立タル者調印シル此調印ハ他日切符ト爲シタ之ヲ東京本店又ハ出張店ト各府縣下出張先ト雙方ヘ引替置ク可シ

第二條

各地ニ於テ爲替セントスルニハ兼テ請取置ク所ノ三種ノ切符地紙乃チ簿冊文字ヘ其請取タル改濟ノ金額及ヒ各種ノ金品年月日番號等夫々空位ニ記入シ爲何府縣ノ印ヲ捺シ且ツ其仕出シ處取扱ヒ人ノ名下ト標線上最前押切り印ノアル下ヘ實印ヲ捺點シ三種トモ右標線ヨリ切り放シ本帳トナル殘紙ヘ金額及番號年月日並其取扱人實印等ヲ捺シ置ク可シ此三種ノ切符第一號ヲ以テ本證ト爲シ二號三號ハ準證ト爲ス可シ而シテ三種トモ取揃ヘ府縣ハ其廳東京ハ府縣出張ノ官員ヘ納ム可シ

第三條

各府縣廳ニテハ此三種ノ切符ノ内第一號ヘ納證書ヲ添ヘ此切符ハ甲ノ字東京出張所ヘ送達シ租税金ハ租稅寮其他土木紙幣出納等其種類ニ依リ上納ノ手續ヲ爲シ別便ニ後一號ノ切符差立ノ第二號ノ切符乃チ乙ノ字ヘ納證書ヲ添ヘ第一號ノ切符ハ何月何日ニ差立テタル旨ヲモ書添ヘ租稅或ハ土木紙幣出納等ヘ相納ム可シ又東京ニテ大藏省ヨリ請取金モ前同様ノ手順ニ倣ヒ各府縣出張ノ官員出納寮ノ切符ヲ請取之ヲ右爲替方ヘ相渡シ爲替方ハ此切符ヲ以テ第一國立銀行ニ至リ現金ト引換ヘ改濟ノ上右三種ノ切符ヘ前同様記入シ出張ノ縣官ヘ相渡シ出張ノ縣官ハ則各府縣ヨリ上納スル時ノ手續ニ倣ヒ右切符ヘ送り證書ヲ添ヘ印便差立ッ可シ

第四條

第三號ノ切符ハ其仕出シ元上納金ハ東京出張ノ官員留メ置キ第一號切符ニテ既ニ相達シ上納金ハ租稅寮又ハ土木紙幣出納ノ請取證書請取金ハ各府縣廳ノ請取證書落手ノ上ハ何レニテモ右

三號ノ切符ハ不用ノ印ヲ捺點シ爲替方へ返達ス可シ爲替方ニテハ此不用ノ切符ニ消印ヲ加ヘ雙方最前原紙請取ノ方へ返ス可シ

第五條

上納金ハ租稅寮又ハ土木紙幣出納等ニテ第二號ノ切符相達セハ第一號ノ切符既ニ相達スルヤ否ヲ檢閲シ納濟ナレハ其納證書へ第一號ニテ納濟云々ヲ記載シ縣官へ渡シ縣官ハ之レヲ本縣へ送達ス可シ又請取金モ其本府縣廳ニテ同前手續キヲ以テ第二號ノ切符相達セハ第一號切符ノ既ニ達スルヤ否ヲ檢シ達濟ナレハ送り證書へ其旨ヲ記載シ同様其元へ返シ且ツ第二號ノ切符ハ何レニテモ不用ニ屬スル時ハ必ス消印ヲ加へ返達スヘシ

第六條

上納金請取金トモ其届ケ先キニテ檢閲セシ時若シ第一號ノ切符到着セス請取ノ手續キニ至ラサル時ハ即刻元ノ順序ヲ逐ヒ仕出シ元へ申シ送り嚴密ニ穿鑿ヲ遂ケ最前到着スル第二號ノ切符ヲ落手セシ日ヨリ十日ヲ待合セ猶且ツ一號ノ切符到着セスハ第二號ヲ以テ請取ノ手續キヲナシ其旨速ニ報知スヘシ

但事故アリテ數日ヲ經テ第一號ノ切符到着セハ雙方トモ消印ノ上其事柄ヲ詳記シテ以テ返達スヘシ

(爲替切符表式ハ之ヲ略ス)

明治七年十二月二十二日大藏省達乙第四十號ヲ以テ府縣ニ令シ小野組負債ノタメ閉店セシニヨリ一時管下ノ富商家農等ニ官金ヲ寄託スルコトヲ停止シ若シ寄託スルトキハ必ス抵當品ヲ徵取シ制規ニ據リテ處理セシム次テ明治八年一月十四日大藏省達乙第二號ヲ以テ府縣ヲシテ富商家

農ノ資産確實ナル者ヲ選擇シ抵當品ヲ徵取シテ官金ヲ料理セシムルコト、セリ而シテ同月二十三日ニ至リ更ニ同省番外達ヲ以テ大阪府兵庫縣其他三十四縣ニ令示シ從來小野組島田組ニ爲替方ヲ命セシモノハ更ニ第一國立銀行ニ命セシム

三月二十日大藏省達乙第三十八號ヲ以テ府縣爲替方支障ノ際金銀ヲ料理スル方法ヲ改正シ各廳出納課ノ官吏二名若クハ三名ニ命シテ之ヲ取扱ハシメ鑑定封緘ノ金銀ニシテ人民受領後贖金又ハ不足金アルコトヲ開申スルモ官ニ於テ處分セス鑑定員モ亦辨償セス而シテ上納金錢ノ内若シ贖金若クハ不足金アリテ全ク鑑定人ノ疎略錯誤ニ出ツレハ辨償スヘキ請書ヲ徵ス其他金銀取扱ノ經費ハ出納課擔當官吏ノ月俸ヲ除ク外鑑定人以下ノ給料ヲ合シテ一箇年金千五百圓ヲ超過ス可カラサルモノトス

十月二十二日大藏省達乙第百三十六號ヲ以テ府縣爲替方ヲシテ府縣稅ヲ料理セシムル場合ニ於ケル條約案ヲ具シ大藏省ニ稟決セシムルコト、シ同時ニ抵當品其外心得方ナルモノヲ示セリ蓋シ該取扱方ニ付テハ從來一定ノ制規ナク府縣廳ノ見込ヲ以テ銀行又ハ爲替方等へ出納ヲ取扱ハシメタルニ過キサリシニ因ル

同年十月三十一日太政官達第百八十八號ヲ以テ院省使廳府縣ニ令シ從來諸上納金及返納金共第一國立銀行へ現金相預ケ銀行預リ證書ヲ出納寮へ假納致シ出納寮假預リ證書ヲ以テ上納スルノ順序ヲ廢シ大藏省納金局へ現金相預ケ其預證書ヲ以テ上納セシム蓋シ新ニ大藏省出納寮ニ納金局ヲ設置セラレタルニ因ルナリ後稅金預リ所ヲ設クルニ及ヒ此等ノ納金ハ同所ニ於テ取扱フコト、ナレリ

明治九年九月九日大藏省達乙第七十六號ヲ以テ府縣各廳ニ於テ銀行又ハ爲替方へ金錢ノ出納ヲ料理セシムル者ハ本年十月ヨリ滿二箇年ヲ以テ期限トシ滿期ニ至リ預ケ金ノ決算ヲナシ有餘ノ金ハ悉皆完納セシム但年限中ト雖モ事故アルトキハ解約シ又滿期後再約スルトキハ其節更ニ協議スヘキモノトス

明治十年七月九日府縣及官院省使ニ令達シテ從來ノ各廳爲替方條約ヲ廢止シ更ニ命令書案十八箇條ヲ定メ各廳ヲシテ之ニ照準シ大藏省ニ協議ヲ經テ爲替方ヲ命スルモノトス該命令書案ニヨレハ官廳ニ收納スル金錢ハ總テ爲替方ニ於テ之ヲ領受シ其數額事由及納主ノ氏名等ヲ記載セシ預リ切符ヲ納主ニ交付ス納主ハ之ニ上納證書ヲ添へ其主務課ニ就テ上納ノ順序ヲナス而シテ爲替方ハ甲乙ノ兩帳簿ニ其金額等ヲ登記シ爲替方證印ノ後府知事若クハ縣令ニ提出ス知事令ハ之ニ契印シ前ノ預リ切符ハ爲替方ニ還付シ甲帳簿ハ其廳ニ領受シ乙帳簿ハ爲替方ニ下付ス次ニ交付金ハ其廳ノ切符料紙ニ其金額及人名等ヲ記載シ之ヲ領受者ニ交付ス領受者ハ此切符ヲ爲替方ニ提示シ爲替方ニ於テハ之ヲ査閲シ現金ト交換ス又預ケ金ハ毎月兩回收支ヲ計算シ預リ帳ト上納帳トヲ對照シ殘金ヲ調査スヘシ又鑑定終了ノ金錢中若シ賸金不足金アラハ爲替方ニ於テ辨償セシメ盜難又ハ水火ニ罹リ預ケ金爲替金ヲ亡失セハ總テ本店ノ負擔トシ但非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルトキハ限外トス其他預ケ金ニ對シ同額ノ公債證書地券及有抵當ノ貸金證書等ヲ以テ抵當トスヘキコト官廳ハ毎年六月十二月ノ兩回ヲ以テ本店ニ金千五百圓支店ニ金三百六十圓ヲ下付スルコト及人民ヨリ領受スル上納金鑑定費及爲替手數料ノ割合等ヲ規定セリ

太政官達第五十號 (明治十年七月九日)

府 縣

明治六年七月第二百三十七號ヲ以テ各廳ニ於テ金錢爲替出納等爲取扱候者ト條約取結方ノ儀相達候處右ハ相廢シ更ニ別冊案文ニ準據シ命令書取調大藏省へ伺ノ上可申付此旨相達候事

(別冊)

命令書案

何府管下何國何郡何町何番地  
何々銀行  
(或ハ)同何渡世  
何 誰 某

右當府爲替方ヲ命シ(本廳及ヒ何々支廳ノ)金錢鑑定竝ニ納拂ヲ爲取扱候ニ付諸規則左ニ

第一條

一 爲替方ハ管下(何府縣)何國何郡何町何番地本店ヲ根據トナシ何府管下何國何郡何町何番地支店(支店ニ於テ取扱ヲ要セサル府縣ハ本店ノ)ニ於テ當廳ニ收納スヘキ金錢ノ鑑定及ヒ他ニ拂渡スヘキ金錢ノ取扱ヲナサシムルニ付誠實ニ之ヲ勤ムヘシ

第二條

一 當廳へ收納スル金錢ハ總テ爲替方ノ詰所ニ於テ眞贋鑑定ノ上之ヲ請取り其員數事由及ヒ納主ノ姓名等ヲ記載セシ預リ切符ヲ納主へ渡ス納主ハ此預リ切符ニ納證書ヲ添へ主務ノ課へ持參シ上納ノ手續ヲナスヘシ而シテ爲替方ハ甲乙ノ兩帳簿ヲ設ケ置キ  
甲府縣 金錢預ケ帳 乙爲替方金錢預リ帳

其金員等ヲ兩帳簿へ一樣ニ登記シ爲替方證印ノ上知事之ニ割印シ最前ノ切符ハ爲替方へ下戻シ甲ハ當應へ領受シ乙ハ爲替方へ下付スヘシ

第三條

一 當應ヨリ諸方へ渡金ハ兼テ當應ニ設ケアル切符地紙ニ渡金ノ員數竝其渡先ノ人名等ヲ記載シ之ヲ受取主ニ渡ス受取主此切符ヲ持參スレハ爲替方ニ於テハ切符ヲ査閱シ直チニ現金ト交換スヘシ而シテ此拂金ハ爲替方へ預ケ金ノ内ヲ當應へ受出スモノナレハ是亦甲乙ノ二帳ヲ設ケ置キ

甲府廳 金錢受取帳 乙爲替方金錢上納帳

其金員等ヲ兩帳へ一樣ニ登記シ證印割印等總テ前條ノ式ヲ了へ當應ヨリ振出シタル切符ヲ返納スヘシ

但爲替方ヨリ直ニ當應へ受出ストキモ此手續ニ從フヘシ且本文ノ切符現金ト交換ノ上ハ其表面ニ渡濟ノ印ヲ捺シテ再ヒ運用ヲナスヘカラス

第四條

一 預ケ金ハ毎月兩度受拂ノ計算ヲナシ預リ帳ト上納帳トヲ照査シ殘金ノ取調ヲナスヘシ尤當應ノ都合ニヨリテハ臨時計算ヲナサシムルコトアルヘシ

但毎日預リ金ノ種類内譯明細ニ精算シテ日計表ヲ作り翌日之ヲ當應へ差出スヘシ

第五條

一 毎月一兩度又ハ當應ノ都合ニヨリ臨時官員ヲ派出シ預ケ金ニ關スル諸帳簿ノ記載方出納

ノ順序及金錢ノ在高等ヲ精査スヘクニ付諸帳簿其外各種ノ貨幣内譯共常ニ錯亂セサル様注意スヘシ

第六條

一 爲替方ニ於テ取扱フヘキ各貨幣ノ内紙包スヘキモノハ其雛形竝一種ノ封印ヲ刻ミ置キ當應預ケ金ニ限リ此印ヲ用ル爲メ印面中隱微ニ標信ヲ付シ右印影兼テ當應へ差出シ置キ且封緘上ニ記載スル年月日及ヒ改人包人ノ姓名印鑑トモ能ク其位置ヲ定メ置キ贋封ノ患ヲ防クコトニ注意シ必ス異様ノ封緘ヲナスヘカラス但當應ノ外本文封緘ノ儘受渡ヲナスヲ許サス然レトモ受取主ニ於テ之ヲ信用シ其儘受取ルハ格別ナリトス

第七條

一 改濟金錢ノ内若シ贋金或ハ不足金アルトキハ其贋金不足金ハ爲替方ニ於テ辨償スヘシ但シ其贋金不足金古金銀ナルトキハ明治七年九月第九十三號布告舊金銀貨幣價格表ニ照シ通貨ヲ以テ上納スヘシ(明治十八年大藏省第百三號布告ヲ以テ價格表改正)

第八條

一 預ケ金ノ現種類ニ拘ハラズ當應ノ都合ニヨリ洋銀又ハ各貨幣ノ交換ヲ命スルトキ外國貨幣ハ時ノ相場ヲ以テ交換スヘシ尤其他ノ貨幣共總テ引換ニ付手数料等ハ下付セサルヘシ(明治十二年太政官第四十四號達ヲ以テ本條削除)

第九條

一 爲替方ニ於テハ儘ナル名代人ヲ選ミ其者ノ印鑑竝金錢出納ニ用フル印影類ハ總テ當應へ



差出シ置クヘシ然ル上ハ當應ニ於テ右印鑑ヲ證憑トシテ受渡ヲナスヘシ若シ右ノ者預ケ金ヲ引負スルカ又ハ其他ノ不都合アレハ其責ハ全ク本店ニ歸シ不足金ハ勿論右ヨリ生スル損失ハ總テ本店ヨリ辨償スヘシ

但當應主務ノ官員其外出納ニ關スル印鑑ハ爲替方ニ下付スヘシ  
第十條

一 盜難又ハ水火難アリテ預ケ金竝爲替金ヲ紛失スルモ總テ本店ノ請負タルヘシ  
但非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルノ證アルトキハ此限ニアラス  
第十一條

一 當應預ケ金ニ對シ抵當トシテ公債證書 此公債證書ノ價格ハ當分株債公債證書ハ百圓ニ付シヘ又ハ地券 此地券代價ノ評價ヲ以テ積算スラ建物の評價ヲ以テ積算スヘシ又ハ有抵當ノ貸金證書等 此貸金證書ハ公債證書地券建物等積算ナル實入書アル證書ニ限ルヘシ但此代價貸金高ヨリ高價ナルトキハ至正ノ實價ヲ積算シ成規ノ手續ヲ經テ之ヲ差出シ置クヘシ尤モ右抵當品ハ爲替方ノ都合ニヨリ彼ト此ト交換スルコトヲ許スヘシ

但本文彼ト此ト交換スルヲ許スト雖モ貸金證書又ハ建物ヲ以テ地券又ハ公債證書ト交換スルヲ許サス尤モ公債證書又ハ地券ヲ以テ貸金證書及ヒ建物ニ換ユルハ妨ケナシトス

第十一條 (明治十二年太政官第五十一號達ヲ以テ本條ノ如ク改正)

一 當應預ケ金ニ對シ抵當トシテ公債證書ヲ成規ノ手續ヲ經テ差出シ置クヘシ  
第十二條

一 預ケ金ハ常ニ本應金何萬圓何々支應金何萬圓(支應ナキトキハ本應以下)ヲ以テ極度トス故ニ前條ニヨリ右同額ノ抵當品ヲ明細書ヲ添ヘ當應(若シ大藏省ナ)ヘ差出シ置クヘシ然レトモ此預ケ金極度ヨリ増減スルトキハ抵當品モ亦隨テ増減スヘシ(若シ五圓以上爲替相動ムル者三號ニヨリ下)尤此爲替方ハ二十(應)以上爲替方ヲ相動ムルニ付三(割)迄ノ増減ハ其儘差置クヘシ

但預ケ金極度ヨリ増加シ増抵當品差出シ難キトキハ其増加ノ金圓一時當應ヘ引揚ヘシ  
第十三條

一 管下人民ヨリ諸上納金等ノ内未タ本納ノ手續ニ至ラスシテ假預ケノ分ハ別ニ一帳簿ヲ設ケ夫々順序ヲ立テ金種類竝納主等詳細ニ記載シ別段ニ預リ置クヘシ  
第十四條

一 預ケ金ハ勿論假預リ金ト雖モ爲替方ニ於テ自己ニ融通運用スルコトヲ許サス若シ之ニ違背スルコトアレハ律ニ照シテ處分スヘシ  
第十五條

一 爲替方ニ於テ若シ預ケ金ヲ引負スルコトアルトキハ兼テ差出シ置タル抵當品ヲ差押ヘ速ニ辨償ノ手續ヲナサシムルハ勿論其引負ニ於テ生スル損分トモ悉皆辨償セシムヘシ  
第十六條

一 爲替方ニ於テハ金錢受拂竝預ケ金爲替金ノ保險ヲナサシムルタメ毎年本店ヘ金千五百圓支店一箇所ニ付金三百六十圓六月十二月兩度ニ下付スヘシ(支店ナキ向ハ毎年ノ下金千五百圓且

人民ヨリ上納スル金錢ハ納主ヨリ改貨及包貨トシテ其金高千分ノ一ヲ領收スルヲ許ス之ニヨリ本廳及支廳へ出頭セシムル手代ノ給料等ハ別段給與セサルヘシ(明治二十一年七月六日國稅上納ニ對スル改包止マ)

第十七條

一 各地方へ爲替ヲ命シタルトキ無期限ノ分ハ爲替切符該地へ到達後何日(二日又ハ三日ト限リ)相納ムヘシ右手數料ハ有期限無期限共一口金五十圓未滿ハ下渡サス五十圓以上百圓未滿ハ遠近ニ拘ハラズ金一錢百圓以上ハ百圓ニ付十里毎ニ金何錢(二錢トシテ二錢五厘迄ヲ別ニ増手數料トシテ)里程ニ拘ハラズ五十圓以上五十圓毎ニ金一錢ト定メ毎年六月十二月ニ拂渡スヘシ

但本文爲替金平常預ケ金ノ外別段下渡候節(五圓以上爲替相動ムル)第十二條抵當品増減ノ制限ヨリ超過セル金圓ハ更ニ抵當品ヲ差出スヘシ若シ抵當品差出シ難キ時ハ當廳ノ都合ニ依リ便宜ノ處分ヲナスヘシ

第十七條

(明治十三年八月十六日太政官達第...)  
一 各地方へ爲替ヲ命シタルトキ無期限ノ分ハ爲替切符該地へ到達後何日(二日又ハ三日ト限リ)相納ムヘシ右手數料ハ有期限無期限共一口金五十圓未滿ハ下渡サス五十圓以上百圓未滿ハ遠近ニ拘ハラズ金一錢百圓以上ハ百圓ニ付十里毎ニ金何錢(二錢トシテ二錢五厘迄ヲ別ニ)里程ニ拘ハラズ五十圓毎ニ金一錢ヲ増シ毎年六月十二月ニ拂渡スヘシ

第十七條

(明治十七年六月十四日太政官達第...)  
一 各地方へ爲替ヲ命シタルトキハ無期限ノ分ハ爲替手形該地へ到達後何日(二日又ハ三日ト限リ)相納ムヘシ右手數料ハ有期限無期限トモ一口金百圓未滿ハ遠近ニ拘ハラズ金一錢百圓以上ハ百圓ニ付十里毎ニ金何錢(二錢トシテ二錢五厘迄ヲ別ニ)里程ニ拘ハラズ五十圓毎ニ金一錢ヲ増シ毎年六月十二月ニ拂渡スヘシ

第十八條

一 此命令ハ滿二箇年ヲ以テ限リトナス滿期ニ到レハ預ケ金ノ決算ヲ爲シ有餘ノ金ハ悉皆上納スヘシ

但年限中ト雖トモ若シ事故アルトキハ何時ニテモ放免シ預ケ金ノ決算ヲナサシムヘシ  
右之條々堅ク遵守可致事

年號月日

何府知事 苗 字 名印

御請書

今般御府爲替方被 仰付前書御下命ノ趣逐一奉畏候就テハ手代末々ニ至ル迄嚴重申付決シテ違背仕間敷候依テ御請申上候也

何銀行頭取

年號月日

何 之 何 某  
何府爲替方

何府知事 苗字名殿

何 之 何 某

太政官達第五十一號 (明治十年七月九日)

官 院 省 使

明治六年七月第二百三十六號ヲ以テ各廳ニ於テ金錢爲替出納等爲取扱候者ト條約取結方ノ儀相連候處右ハ相廢シ更ニ別冊府縣へ相連候案文ニ照準命令書取調大藏省へ照會ノ上可申付尤保險手數料ノ儀ハ常ニ預ケ置候金高百萬圓迄ハ百分ノ三右ヨリ超過スル時ハ其超過ノ金高ハ百分ノ二ト定メ可下渡此旨相連候事

(別冊ハ前ノ第五十號達ニ同シ)

後明治十一年十二月二十八日税金預所ヲ設クルニ及ヒ明治六年七月以後府縣爲替方ノ取扱ニカカル國稅ノ收納ハ全ク其職掌ヨリ離脱シ府縣爲替方ハ主トシテ府縣費即チ地方稅ノ出納而已ヲ掌理スルニ至レリ而シテ十二年四月二十二日大藏省達乙第二十四號ヲ以テ府縣ヲシテ地方税金爲替方命令書ハ十年第五十號公達命令書案ニ照準シ施行ノ上届出テシム

明治十二年十二月四日各地方爲替方ニ於テ爲替ヲ施行スル時ニ際シ現金ヲ送納スルヲ許可シ爲替金同一ニ見做シ成規ノ爲替手數料ヲ給與シテ運送費ヲ給與セス其保險其他ノ責任ハ命令書案第九條第十五條ニ照準セシム

明治十七年二月二日郵便爲替超過金預ケ入順序ヲ定メ爲替方ニ達示ス

降ツテ明治二十年二月三日ニ至リ大藏省令第二號ヲ以テ國庫金取扱所及現金支拂所ヲ國庫金出納所ト改稱スルニ及ヒ爲替ノ名稱ハ全ク廢絶セリ蓋シ從來歲入金ハ國庫金取扱所ニ納入セシメ

歳出金ハ現金支拂所ニ於テ料理セシメ收入支出ヲ全ク二部ニ區分シタルモ此ニ至リ中央金庫出納ノ外ハ悉ク日本銀行ヲシテ出納ヲ取扱ハシムルコトナリタレハナリ

### 第四款 税金預所

明治十一年七月二十二日太政官布告第十七號ヲ以テ郡區町村編制法ヲ發布シ次テ同月二十五日同達第三十二號ヲ以テ府縣官職制ヲ定メ郡區長ヲシテ徵稅事務ヲ取扱ハシム仍テ同年十二月二十八日大藏省達乙第七十二號ヲ以テ國稅領收順序ヲ定メタリ即チ戶長ニ於テ收束シタル税金ハ之ヲ税金預リ人ニ交付シ其預リ切符ヲ以テ郡區長ニ納付シ郡區長ハ之ヲ收稅委員ニ送付ス而シテ大藏省ニ於テハ各地方適宜ノ場所ヲ擇ヒテ税金預所ヲ設置シ税金預リ人ヲ命スルモノニシテ此ニ於テ從來府縣爲替方ノ取扱ニ係レル國稅ヲ税金預所ノ管掌トナシ其收支及貨幣ノ鑑定ニ當ラシムルニ至レリ且現金出納機關ハ從來主トシテ出納寮ノ管理スル所ナリシカ税金預所ノ設置セラル、ニ及ヒ同所ハ租稅出納二局ノ管理トナレリ次テ明治十二年二月十七日租稅金預リ所命令書案ヲ定ム該規程ニヨレハ税金預リ人ハ某地本店ヲ根據トシテ某地ニ税金預リ所ヲ設置シ大藏省出納局ノ指揮ニ從ヒ諸税金ノ鑑定保管及預リ金ノ配賦ヲ掌ルモノニシテ戶長又ハ其代理人ノ携へ來レル諸税金ヲ検査領收シ其受寄ノ金額ハ日々計算シテ金庫ニ保藏シ且日計表ヲ作りテ隔日ニ大藏省租稅局收稅委員ニ報告シ收支計表ヲ作りテ毎旬出納局ニ報告スヘキモノトス其亡失金ノ辨償抵當品ノ提供及爲替手數料等ニ付テ規程セリ

### 命令書案

右租税金預リ方ヲ命シ何縣何區及ヒ何府何郡ヨリ收納スヘキ國税金ノ鑑定竝ニ納拂ヲ爲取扱候ニ付諸規則左ニ

第一條

税金預リ人ハ何府管下何國何區何村何番地本店ヲ根據トナシ何府縣管下何國何區何村何番地ヘ預リ本店ヲ税金預リ所トナシ及ヒ何地ヘ税金預リ所ヲ云々ト記載スヘシ税金預リ所ヲ設置シ大藏省出納局ノ指揮ニ隨ヒ諸税金ノ鑑定竝ニ預リ方及ヒ預リ金ノ配賦ヲ取扱ハシムルニ付誠實ニ之ヲ勤ムヘシ

第二條

諸税金錢ハ甲乙接續セル納稅切符ヲ添ヘテ戶長又ハ其代理人持參スヘキニ付甲納稅切符郡區役所ノ印影乙納稅切符戶長名印ヲ其印鑑ニ照シテ之ヲ檢シ其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シテ之ヲ受取(實金錢ハ明治九年太政官第五十號布告ニ照シ處分スヘシ)其員數種類稅名及ヒ郡區町村戶長又ハ其代理人ノ姓名ヲ税金預リ元帳ヘ記入シ而シテ其持參人ノ目前ニ於テ乙納稅切符金員ニ預リ人ノ證印ヲ捺シ其切符ト元帳金員ト割印シテ預リ濟ヲ證シ切符ヲ持參者ニ返付スヘシ

第三條

諸税金錢内預ケヲ要スルコトアリテ稅目金員何郡區町村分ノ内譯ヲ記載シタル戶長名印ノ書付ヲ添ヘテ戶長又ハ其代理人持參スルトキハ第二條ノ手續ニ據テ其金員ヲ受取税金預リ元帳ヘ記入シ其書付金員ニ預リ人ノ證印ヲ捺シ尙ホ預リ元帳ヘ割印ヲナシ之ヲ持參者ニ返付スヘシ

第四條

前條内預リノ金員ヲ纏メテ其町村ノ納額ニ滿ツレハ甲乙接續セル納稅切符而已ヲ戶長又ハ代理人持參スヘキニ付第二條ノ手續ニ據テ其金員ニ預リ人ノ證印ヲ捺シ尙ホ預リ元帳ヘ割印ヲ捺シ曩キニ返付シ置キタル數葉ノ書付ヲ取り其預リ證印ヲ塗抹シ然ル後其納稅切符ト共ニ其書付ヲ持參者ニ返付スヘシ

第五條

預リ濟ノ金額ハ日々計算シテ金庫内ヘ保護シ且ツ日計表ヲ作り每隔日之ヲ大藏省租稅局收稅委員ニ報告收支計表ヲ作り毎旬日之ヲ大藏省出納局ヘ報告スヘシ但シ收稅委員ハ各預リ所ヘ出張シテ税金預ケ金ニ關スル諸帳簿ノ記載方及ヒ預リ方ノ順序及ヒ金錢ノ在高等ヲ精査スヘクニ付諸帳簿其外各種ノ貨幣内譯共常ニ錯亂セサル様注意スヘシ

第六條

預リ金ヲ上納セシムヘキトキハ大藏卿ノ命令ヲ以テ出納局長ヨリ相達スヘクニ付預リ人ハ其違書ヲ遵守シテ爲替ヲ取組ミ或ハ收稅委員ニ引渡シテ現金遞送ノ順序ヲナシ上納致スヘシ其

何縣管下何國何區何村何番地  
何々銀行  
(或ハ)同土族商何渡世  
何誰某

上納済トナルモノハ豫メ上納帳ヲ製シ置キ其金員税目ヲ記載シテ收税委員ノ證印ヲ受ケ上納  
済ノ證トナスヘシ

但シ出納局長ヨリ相達スル證票雛形及ヒ同局長印鑑收税委員印鑑トモ豫テ大藏省ヨリ下付  
スヘシ

第七條

預リ金錢ノ内紙包スヘキモノハ其包様雛形竝一種ノ封印ヲ刻シ税金ニ限リ此ノ印ヲ用ユル爲  
メ印面中隱微ニ標信ヲ付シ右印影竝預リ人名代人印鑑納税切符ニ押捺スル印鑑共豫テ租税局  
出納局へ差出シ置キ且ツ封緘上ニ記載スル年月日及改人包人ノ姓名印鑑共能ク其位置ヲ定メ  
置必ス異様ノ封緘ヲナスヘカラス

但シ時宜ニ因リ預リ金ノ内ヲ以テ各廳へ遞送ヲ命シ上納セシムルトキ本文封緘ノ儘受渡ヲ  
ナスヲ許サス然レトモ受取主ニ於テ之ヲ信用シ其儘受取ルハ格別ナリトス

第八條

改済金錢ノ内若シ贖金不足金アルトキハ其贖金不足金ハ預リ所ニ於テ辨償スヘシ但シ其贖金  
不足金古金銀ナルトキハ明治七年第九十三號布告舊金銀貨幣價格表ニ照シ通貨ヲ以テ上納ス  
ヘシ

第九條

税金預リ所ヲ各地ニ配置シ預リ人ハ隨ナル名代人ヲ選ミ其配置セル各預所へ一人宛出張セシ  
メ置第七條ノ通り姓名印鑑等大藏省竝町村戸長へ差出シ置クヘシ然ル上ハ右印鑑ヲ證憑トシ

テ金錢取扱ヲナスニ付若シ右ノ者預リ金ヲ引負スルカ又ハ他ノ不都合アレハ其責ハ全ク預リ  
人ニ歸シ不足金ハ勿論右ヨリ生スル損失ハ總テ預リ人ヨリ辨償スヘシ

第十條

盜難又ハ水火難等アリテ預リ金竝爲替金ヲ紛失スルトモ總テ預リ人ノ請負タルヘシ

但シ非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルノ證アルトキハ此ノ限ニアラス

第十一條

預リ金ニ對シ抵當トシテ公債證書此ノ公債證書ノ價格ハ當分株公債證書ハ百圓ニ付百圓新  
利付六百圓七分利付八百圓六分利付七百圓五分又ハ地券割減シテ代價ハ新地券高二又ハ  
有抵當ノ貸金證書等此ノ貸金證書ハ公債證書或ハ地券ノ抵當ニテ公債證書ハ成規ノ價至正ノ  
實價ヲ積算シ成規ノ手續ヲ經テ之ヲ出納局へ差出シ置ヘシ尤右抵當品ハ預リ人ノ都合ニ寄リ  
彼ト此ト交換スルコトヲ許スヘシ

但シ地券又ハ有抵當貸金證書ヲ以テ公債證書ト交換スルヲ許サス尤公債證書ヲ以テ地券及  
ヒ有抵當貸金證書ニ交換スルハ妨ケナシトス

第十二條

預リ金ハ何郡何町預リ所何萬圓何區何町預リ所何萬圓ヲ以テ極度トス故ニ前條ニ據リ右同額  
ノ抵當品ヲ明細書相添へ出納局へ差出シ置クヘシ（該抵當品ハ大藏省ノ都合ニ依リ其府縣廳  
但シ預ケ金極度ヨリ増加シ増抵當差出シ難キトキハ其増加ノ金員ハ別段保護預ケヲ命スル  
カ又ハ現金送納ヲ命スヘシ）

第十三條 戶長ヨリ諸上納金等ノ内未タ本納ノ手續ニ至ラスシテ假預ケノ分ハ別ニ一帳簿ヲ設ケ夫々順序ヲ立テ金種類竝納主等詳細ニ記載シ別段ニ預リ置クヘシ

第十四條 預リ金ハ勿論假預リ金ト雖トモ預リ人ニ於テ自己ニ融通運用スルコトヲ許サス若シ之ヲ違背シ或ハ引負金等爲ストキハ裁判所ヘ送付シ律ニ照シテ處分スヘシト雖モ時宜ニ寄ラハ先ツ第十五條ノ償還方ニ著手スルコトモアルヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ先ツ當省ニテ償還方ニ著手シ辨償ノ手續ヲ爲サシムルトキ若速ニ辨償ノ目的ナキトキハ兼テ差出置タル抵當品ヲ引揚ケ入札拂ノ上其代價ヲ以テ償還ニ充テ不足アレハ尙辨償ヲナサシメ剩餘アレハ之ヲ返付スヘシ且其引負ニ就テ生スル損分ハ總テ預リ人ノ引請タルヘシ

但抵當品入札拂ヲ行フトキハ其旨預リ人ヘ通知シ開札ノ節立會ヲ要スヘシ若預リ人ニ於テ出席ナサ、ル場合ニ於テ入札ノ價位當省ニ於テ相當ト認ムルトキハ直ニ落札人ヘ賣渡スヘシ然レトモ此價格ニ付預リ人ニ於テハ後日異論ヲ陳フヘカラス

第十六條 預リ所ニ於テハ金錢受拂竝預ケ金ノ保險ヲナサシムル爲メ毎年何郡何村預リ所一箇所ニ付金何百圓(預リ所ノ數毎ニ箇所)六月十二月兩度ニ下付スヘシ且戶長又ハ其代理人ヨリ預ケ込ムト

コロノ税金錢ハ其納主ヨリ改賃及包賃トシテ其金高千分ノ一ヲ領收スルヲ許ス之ニ因リ各預リ所ヘ出頭セシムル手代ノ給料等ハ別段給與セサルヘシ

第十七條 各地方ヘ爲替ヲ命シタルトキ無期限ノ分ハ爲替切符到達後何日限リ(二日又ハ三日ト)相納ムヘシ手數料ノ儀ハ有期限無期限トモ左ノ割合ヲ以テ下渡スヘシ

- 一 ト口金五十圓未滿ハ給セサルヘシ
- 一 同五十圓以上百圓未滿ハ里程ニ拘ラス金一錢ヲ給スヘシ
- 一 同百圓以上ハ百圓毎ニ里程十里ニ付金二錢ヨリ二錢五厘迄ヲ目途ト定メ之ヲ給スヘシ其端數ニ係ル金員ハ此割合ヲ以テ給スヘシ
- 一 同百圓以上ト雖モ里程一里未滿ハ給セス一里以上十里未滿ハ金一錢五厘ヲ給スヘシ
- 一 十里以上更ニ十里ニ及フ迄ノ端里數ハ總テ勿捨トス
- 一 ト口金百圓以上ハ増手數料トシテ五十圓毎ニ里程ニ拘ラス金一錢(付金ト口金百圓ニ割合)ヲ給スヘシ
- 一 手數料ハ毎年六月十二月ニ下渡スヘシ

但シ本文爲替金平常預ケ金之外別段預ケ金致シ候節ハ更ニ抵當品ヲ差出スヘシ若シ抵當品差出シ難キトキハ大藏省ノ都合ニ依リ便宜ノ處分ヲナスヘシ

第十八條 此ノ命令ハ滿二箇年ヲ以テ限リトス滿期ニ到レハ預リ金ノ決算ヲ爲シ悉皆上納セシメ抵當ハ

下戻スヘシ

但滿二箇年ノ期ニ至リ尙都合ニ寄リ二箇年ヲ命スルコトアルヘシ又年限中ト雖モ若シ事故アルトキハ何時ニテモ放棄シ預リ金ノ決算ヲ爲サシムヘシ

右之條々堅ク遵守可致事

年號月日

大藏卿

(請書々式略ス)

後明治十二年五月七日大藏省達乙第二十六號ヲ以テ府縣ヲシテ稅外收入及ヒ諸返納金其他經費殘餘ノ還納等大藏省へ上納相成候分ハ國稅金領收順序ニ準シ納方取計ハシムルコト、セリ然ルニ稅金預リ人ヲシテ此等納金ヲ領收セシムルハ其名實相添ハサルヲ以テ明治十二年五月二十九日之ヲ改メテ大藏省爲替方トナセリ

### 第五款 大藏省爲替方

明治十二年五月二十九日稅金預リ所ヲ大藏省爲替方ト改稱シ同時ニ命令書案ヲ改正セリ而シテ其職掌ハ稅金預リ所ヲ承繼セシモノナレハ其當初ハ敢テ稅金預リ所ノ事務ト異ナル所ナク國稅金及稅外收入其他返納金ヲ收入スルノ機關タリシコト明カナリ今左ニ其命令書案ヲ掲ケン

#### 命令書案

何縣管下何區何村何番地  
何々銀行

(或ハ同<sup>士族</sup>何渡世

何誰某

右大藏省爲替方ヲ命シ何縣何區及ヒ何府何郡區ヨリ收納スヘキ國稅金及大藏省ニ納ムル稅外納金錢ノ鑑定並納拂ヲ爲取扱候ニ付諸規則左ニ

#### 第一條

何縣管下何國何區何村何番地何々銀行(又ハ)何縣管下何國何區何村何番地ニ於テ(其銀行)又ハ(其)於テ爲替方ヲ命スルモノハ單ニ前文ノ國郡番地何々銀行(又ハ)何縣管下何國何區何村何番地ニ於テ爲替方ヲ命スルモノハ何々銀行又ハ何縣管下何國何區何村何番地ニ於テ)大藏省爲替方ヲ命シ出納局ノ指揮ニ隨ヒ諸收納金ノ鑑定並預リ方及ヒ預リ金ノ配賦ヲ取扱ハシムルニ付誠實ニ之ヲ勤ムヘシ

#### 第二條

凡ソ爲替方へ預ケ入ル納金ハ其納者ヨリ甲乙接続セル納金證書若クハ内預ケノ書付ヲ添ヘ持參スルモノトシ爲替方ハ之レニ調印シテ受取濟ヲ證シ別ニ受取證書ヲ交付セサルヲ例トス就テハ現金ノミヲ持參シテ右切符證書々付等ヲ添サルモノアラハ爲替方ハ其段相斷リ必ス之レヲ出サシメテ後領收ノ順序ヲナスヘシ

#### 第三條

諸稅金錢ハ甲乙接続セル納稅切符ヲ添ヘ戶長又ハ其ノ代理人持參スヘキニ付甲納稅切符郡區役所ノ印影乙納稅切符戶長名印ヲ其印鑑ニ照シテ之ヲ檢シ其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シテ之ヲ受取價金<sup>ハ明治九年太政官第五十七號布告ニ照シ處分スヘシ</sup>其員數年度稅名及ヒ郡區町村戶長又ハ其代理人ノ姓名ヲ預リ金

元帳へ記入シテ其持參人ノ目前ニ於テ乙納稅切符金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ尙元帳金員へ切符ト割印シテ預リ濟ヲ證シ切符ヲ持參者ニ返付スヘシ(明治十二年十一月二十五日大藏省令)

第四條

諸税金及大藏省へ納ル稅外納金ニシテ甲乙切符ヲ用キス納金證書(納金證書トハ其納金添書ニ年月日ヲ記載セシメノ)ヲ添へ現金ヲ持參スルモノハ官廳及諸其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シテ之レヲ受取り七號ノ布告ニ照ラシテ分スヘシ員數名目及ヒ納人ノ住所姓名等ヲ預リ金元帳へ記入シテ其持參人ノ目前ニ於テ納金證書金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ尙元帳金員へ其證書ト割印シテ預リ濟ヲ證シ證書ハ持參者ニ返付スヘシ

第五條

諸税金其他稅外納金錢内預ケテ要スルコトアリテ名目金員何郡區町村分ノ内譯又ハ納人ノ姓名ヲ記載シタル戶長又ハ納人名印ノ書付ヲ添へ戶長若クハ代理人又ハ納人持參スルトキハ第三條第四條ノ手續ニ據テ其金員ヲ受取預リ金元帳へ記入シ其書付金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ尙元帳金員ノ下へ割印ヲナシ之レヲ假之ヲ持參者ニ返付スヘシ

第六條

前條内預リノ金員ヲ纏メテ其町村又ハ納人ノ納額ニ滿ツレハ甲乙接續セル納稅切符又ハ納金證書ヲ戶長若クハ代理人又ハ納人持參スヘキニ付(證金アリテ證書ト共ニ持參スルモノハ第三條ノ手續ニ據テ其金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ尙元帳金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ尙元帳金員へ乙切符又ハ納金證書ト割印ヲナシ何ケ度ニモ内預ノ金員アリハ別ニ示セシ證金員ノ上へ割印シテ滿員納濟ヲ證キニ返付シ置キタル數葉ノ書付ヲ取り其預リ證印並元帳金員曩日ノ假割印ヲ塗抹シ然ル後其甲乙切符又ハ納金證書ト共ニ其書付ヲ持參者ニ返付スヘシ

第七條

預リ濟ノ金額ハ日々計算シテ金庫内へ保護シ且ツ日計表ヲ作り毎隔日之ヲ大藏省租稅局收稅委員ニ報告シ又收支計表ヲ作り毎旬日之ヲ大藏省出納局へ報告スヘシ但シ第十三條出張場所ニテ預リタル金額モ合算シテ各計表ヲ作り報告スルハ勿論ナリトス

但シ出納局員又ハ收稅委員ハ各爲替方へ出張シテ預ケ金ニ關スル諸帳簿ノ記載方及ヒ預リ方ノ順序及ヒ金錢ノ在高等ヲ精査スヘクニ付諸帳簿其外各種ノ貨幣内譯共常ニ錯亂セサル様注意スヘシ尤檢査ヲ要スルトキハ右兩局官員タルノ證據ヲ見サル間ハ之ヲ斷ルヘシ

第八條

預リ金ヲ上納セシムヘキトキハ大藏卿ノ命令ヲ以テ出納局長ヨリ相達スヘクニ付爲替方ハ其違書則チ配賦證票ヲ遵守シテ爲替ヲ取組ミ(其爲替手形ハ收稅委員へ引渡スヘシ尙又金或ハ收稅委員ニ引渡シテ現金送送ノ順序ヲ成シ上納致スヘシ其上納濟トナルモノハ豫メ上納帳ヲ製シ置キ其金員ヲ記載シテ收稅委員ノ證印ヲ受ケ上納濟ノ證トナスヘシ)(明治十二年十一月二十日ノハ以下ノ制リ而シテ其爲替手形又ハ現金ヲ收稅委員へ引渡ストキハ假令取證書ヲ交付スヘキニ付キ曩キノ假爲替又ハ現金送付先へ到達シ上納濟ノ上同委員ヨリ本請取證書ヲ交付スヘキニ付キ曩キノ假テ取證ノ返戻左トナスヘシト收ム)但シ出納局長ヨリ相達スル證票雜形及ヒ同局長印鑑收稅委員印鑑トモ豫テ大藏省ヨリ下付



スヘシ(同日收稅委員ノ下ニ請取)

第九條

前條ノ順序ニ據リ爲替ヲ以テ預ケ金ヲ上納セシムルトキ此ノ爲替金額ハ預ケ金ノ内ヨリ下渡スヘシ尤既ニ下渡シテヨリ爲替向へ上納濟迄其爲替金ハ假令如何様ノ事故アリテ損失ヲ生スルトモ其金額及ヒ之ニ屬セル費用ハ第十一條十二條ノ通悉皆爲替方ヨリ辨償シ萬一右場合ニ於テ辨償方遲滯スルトキハ豫テ預リ金ニ對シタル抵當品有餘ヲ以テ之ニ振向ケ辨償セシムヘク尙不足ノ分ハ第十九條二十條ニ準シ處分スヘシ

第十條

預リ金ノ内現金ヲ各廳へ遞送セシムルトキ途中護衛ノ儀ハ收稅委員ノ管掌ニアリト雖モ遞送向ニ於テ現金見改受渡ノ節立合トシテ其爲替方手代一人收稅委員へ付添相越スヘシ

第十一條

預リ金錢ノ内紙包スヘキモノハ其包樣難形竝一種ノ封印ヲ刻シ預リ金ニ限リ此印ヲ用ユル爲メ印面中隱微ニ標信ヲ付シ右印影竝爲替方名代人及ヒ金錢受渡主任ノ者姓名印鑑切符證書等ニ押捺スル印鑑共豫テ租稅局出納局へ差出シ置キ且封緘上ニ記載スル年月日及ヒ改人包人ノ姓名印鑑共能ク其位置ヲ定メ置必ス異様ノ封緘ヲナスヘカラス

但シ時宜ニ因リ預リ金ノ内ヲ以テ各廳へ遞送ヲ命シ上納セシムルトキ本文封緘ノ儘受渡ヲナスヲ許サス然レトモ受取主ニ於テ之ヲ信用シ其儘受取ハ格別ナリトス

第十二條

改濟金錢ノ内若シ賸金不足金アルトキハ其賸金不足金ハ爲替方ニ於テ辨償スヘシ但シ其賸金不足金古金銀ナルトキハ明治七年第九十三號布告舊金銀貨幣價格表ニ照シ通貨ヲ以テ上納スヘシ

第十三條

爲替方ヲ配置シ預リ場ノ區域ヲ定ムルモ猶地勢ニ因リ區域内遠濶ナルハ豫テ出張場所ヲ定メ置其爲換方ヨリ派出シテ式ノ如ク預リ方ヲ取扱ハシムヘシ尤出張場所殊ニ遠隔ノ地又ハ渡海等アル分ハ別段ノ詮議ヲ以テ出張ノ手當金ヲ給スルコトモアルヘシ

第十四條

爲換方ハ第十一條ノ通り名代人及金錢受渡主任ノ者姓名印鑑ヲ差出シ置ク上ハ右印鑑ヲ證憑トシテ金錢取扱ヲナスニ付若シ右ノ者預リ金ヲ引負スルカ又ハ他ノ不都合アレハ其責ハ全ク爲替方ニ歸シ不足金ハ勿論右ヨリ生スル損失ハ總テ爲替方ヨリ辨償スヘシ

第十五條

盜難又ハ水火難等アリテ預リ金竝爲替金ヲ紛失スルトモ總テ爲替方ノ請負タルヘシ但シ非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルノ證アルトキハ此限ニアラス

第十六條

預リ金ニ對シ抵當トシテ公債證書此ノ公債證書ノ價格ハ當分秩高公債證書ハ百圓ニ付百圓利付百圓七分利付八十二圓六分利付七十三圓五分利又ハ地券別此券代價ハ新地券高二又ハ有抵當ノ貸金證書等此貸金證書ハ公債證書或ハ地券ノ抵當ニ限ルヘシ但此代價積ハ價格地面ノ新地

高ニ拘ラス純テ抵當品ノ價格ヲ以テ積算ス尤抵當品ノ價至正ノ實價ヲ積算シ成規ノ手續ヲ經格貸金高ヨリ高價ナルトキハ貸金高ヲ以テ積算スヘシ  
テ之ヲ出納局ヘ差出シ置クヘシ尤右抵當品ハ爲替方ノ都合ニ因リ彼ト此ト交換スルコトヲ許スヘシ

但シ地券又ハ有抵當貸金證書ヲ以テ公債證書ト交換スルヲ許サス尤公債證書ヲ以テ地券及ヒ有抵當貸金證書ニ換ユルハ妨ケナシトス

第十六條 (明治三十三年一月十三日)

預リ金ニ對シ抵當トシテ公債證書ヲ成規ノ手續ヲ經テ之ヲ出納局ヘ差出シ置クヘシ尤右抵當公債證書ノ種類ハ爲替方ノ都合ニヨリ交換スルコトヲ許スヘシ

但公債證書ヲ抵當トシタル貸金證書ニ限リ該負債主ノ承諾證書ヲ添ヘ其抵當公債證書一同抵當ニ差出スコトヲ許ス此ノ抵當價額ハ證書面貸金高ニ拘ラス都テ公債證書ノ價格ニ因ルヘシ尤價格貸金高ヨリ高價ニ當ルモノハ貸金高ヲ以テ積算スヘシ

第十七條

預リ金ハ何郡何町爲替方何萬圓何區何町爲替方何萬圓ヲ以テ極度トス故ニ前條ニ據リ右同額ノ抵當品ヲ明細書相添ヘ出納局ヘ差出シ置クヘシ  
但シ預ケ金極度ヨリ増加シ増抵當差出シ難キトキハ其増加ノ金員ハ別段保護預ケヲ命スルカ又ハ現金送納ヲ命スヘシ

第十八條

諸税金其他上納金等ノ内未タ本納ノ手續ニ至ラスシテ假預ケノ分ハ別ニ一帳簿ヲ設ケ夫々順

序ヲ立テ金員竝納主等詳細ニ記載シ別段ニ預リ置クヘシ

但シ本條假預リノ分ハ別段ノ計表ヲ以テ收稅委員ヘ報告スヘシ

第十九條

預リ金ハ勿論假預リ金ト雖モ爲替方ニ於テ自己ニ融通運用スルコトヲ許サス若シ之ヲ違背シ或ハ引負金等爲ストキハ裁判所ヘ送付シ律ニ照シテ處分スヘシト雖モ時宜ニ依ツテハ先ツ第二十條ノ償還方ニ着手スルコトモアルヘシ

第二十條

前條ノ場合ニ於テ先ツ當省ニテ償還方ニ着手シ辨償ノ手續ヲ爲サシムルトキ若シ速ニ辨償ノ目的ナキトキハ兼テ差出シ置タル抵當品ヲ引揚入札拂ノ上其代價ヲ以テ償還ニ充テ不足アレハ尙辨償ヲナサシメ剩餘アレハ之レヲ返付スヘシ且其引負ニ就テ生スル損分ハ總テ爲替方ノ引請タルヘシ

但抵當品入札拂ヲ行フトキハ其旨爲替方ヘ通知シ開札ノ節立會ヲ要スヘシ若シ爲替方ニ於テ出席ナサル場合ニ於テ入札ノ價位當省ニ於テ相當ト認ムルトキハ直ニ落札人ヘ賣渡スヘシ然レトモ此價格ニ付爲替方ニ於テハ後日異論ヲ陳フヘカラス

第二十一條

爲替方ニ於テハ金錢受拂並預ケ金ノ保險ヲナサシムル爲メ毎年何郡何町爲替方ヘ金何百圓(替方ノ數毎ニ箇所並)六月十二月兩度ニ下付スヘシ且戶長又ハ其代理人ヨリ預ケ込ム所ノ金錢ハ其納主ヨリ改貸及ヒ包貸トシテ其金高千分ノ一ヲ領收スルヲ許ス之ニ因リ各爲替方手代等ノ

給料並豫テ定メタル出張場所派出ノ旅費等ハ別段給與セサルヘシ  
但第十條ノ如ク納齋廳ヘ立會手代旅費ハ別段給付スヘシ

第二十二條

各地方ヘ爲替ヲ命シタルトキ無期限ノ分ハ爲替切符到達後何日限リ(適宜ニ定ムヘシ)相納ムヘシ  
手數料ノ儀ハ有期限無期限トモ左ノ割合ヲ以テ下渡スヘシ

- 一 ト口金五十圓未満ハ給セサルヘシ
- 一 同五十圓以上百圓未満ハ里程ニ拘ラス金一錢ヲ給スヘシ
- 一 同百圓以上ハ百圓毎ニ里程十里ニ付金二錢ヨリ二錢五厘迄ヲ目途ト定メ之ヲ給スヘシ  
其端數ニ係ル金員ハ此割合ヲ以テ給スヘシ
- 一 同百圓以上ト雖モ里程一里未満ハ給セス一里以上十里未満ハ金一錢五厘ヲ給スヘシ
- 一 十里以上更ニ十里ニ及フ迄ノ端數ハ總テ勿捨トス
- 一 ト口金百圓以上ハ増手數料トシテ五十圓毎ニ里程ニ拘ラス金一錢(付金ト口金百圓割合ニ)ヲ給スヘシ
- 一 手數料ハ毎年六月十二月ニ下渡スヘシ

第二十三條

此命令ハ滿二箇年ヲ以テ限リトス滿期ニ至レハ預リ金ノ決算ヲ爲シ悉皆上納セシメ抵當品ハ下戻スヘシ

但シ滿二箇年ノ期ニ至リ尙都合ニ寄リ二箇年ヲ命スルコトアルヘシ又年限中ト雖モ若シ事

故アルトキハ何時ニテモ放免シ預リ金ノ決算ヲ爲サシムヘシ

右之條々堅ク遵守可致事

年 月 日

大 藏 卿

明治十三年三月二十四日大藏省爲替方過誤納金下戻手續ヲ定メ納者ヨリ諸納金ヲ爲替方ニ寄託シタル後過納アリテ返還ヲ要スルトキハ郡區長ヨリ收稅委員ニ照會シ委員ヨリ爲替方ニ申達シ順序ヲ經テ返還セシムルモノトス

同年十一月五日大藏省爲替方任免事務受渡手續ヲ定メ爲替方滿期若クハ請願ニ依リ解務ヲ請ヒ他ノ銀行會社等其爲替方ニ代リ奉務ヲ請願セハ其銀行會社ノ資本營業ヲ檢査シ適當ト認ムルトキハ爲替方ト爲スヘキヲ稟議シテ其旨ヲ内達シ爲替方本店ニ充ツヘキ家屋倉庫ノ圖及抵當品ノ明注書ヲ徵取シテ命令書案ヲ裁定スルモノトス但シ破産閉店等ニ係リ新ニ爲替方ヲ命スルカ若クハ新任ヲ請フ銀行會社等ヲ不適當ト認ムルモノハ限外トス而シテ新舊ノ事務ヲ交割スルノ際ハ豫メ時日ヲ定メ府縣收稅委員等ニ之ヲ達示シ出納局員一名ヲ其地ニ派遣シ諸般ノ事務ヲ監視セシム其他事務交割ノ順序ヲ詳示セリ

而シテ明治十三年末ニ至リ爲替方事務更正ノ議漸ク起リ遂ニ十一月二十七日大藏省爲替方條例及同當務心得ヲ制定シ十四年一月ヨリ實施セリ此ニ於テ大藏省爲替方ハ地方ニアリテ中央官廳所屬ノ現金支拂及國庫ノ收入事務ヲ掌ルニ至リ且爲替方ハ從來租稅出納兩局ノ中間ニ介立シテ兩ナカラ管理ヲ受ケシモ是ニ至テ再ヒ出納局ノ專管ニ歸シテ收稅委員ノ關涉ヲ脱シ其規程大ニ

整齊シタルタメ出納上ノ便益大ナルニ至レリ而シテ同年十月取調委員カ條例ト共ニ大藏卿ニ提出セシ附言ハ該條例編纂ノ主旨ヲ知ルニ足ルヲ以テ左ニ之ヲ掲ケン

大藏省爲替方條例附言

大藏省爲替方預金取扱ノ義出納局長ノ建議ニヨリ曾テ稟議ヲ經ルノ後之カ方案ヲ調定スヘキノ命ヲ奉ス且ツ其主意タル專ラ納金ヲ運用スルニ便ニシテ爲替方ヲ管理スルノ宜ヲ得ルヲ要スト因テ謂フ該件ヲシテ果シテ其主意ニ適セシメントセハ必ヤ租稅出納兩局ノ間其負擔ヲ分チ責任ヲ定メ以テ各其事ニ從ハシムルニ在リト乃チ其預金ニ於ケル收稅委員ノ干涉ヲ解キ專ラ出納局ニ管掌セシムルヲ旨トシ其他ハ既定ノ例規ニ就キ冗ヲ削リ繁ヲ去リ編次條列シテ大藏省爲替方條例七章九十條ヲ草シ謹テ高裁ヲ仰ク則チ爲替方ノ手續多シト雖モ從前ノ規則令連類繁ナリト雖モ庶幾クハ其終始順序ヲ見テ其便否得失ヲ定ムルニ足ランカ而シテ收稅委員ノ預ケ金ニ於ケル手續ノ如キハ掲ケスシテ自ラ觀ルヘキナリ

抑モ從前ノ例規ヲ案スルニ凡ソ諸納金ハ納人之ヲ爲替方ニ預ケ其證印ヲ得テ郡區長ヲ經由シ以テ收稅委員ニ致ス委員ハ其預金出納局長ノ定メタル配賦ノ員額ニ滿ルヲ待チ而シテ爲替方ヲシテ之ヲ各所ニ送納セシメ尋テ送納先ノ證書ヲ得テ之ヲ租稅局ニ呈シ始メテ出納局ニ假納ノ順序ヲナスニ至ルモノトス故ニ出納局ハ右ノ順序ヲ履行セサルノ間ハ專ラ其預金ヲ管理スルヲ得ス運用ノ便ヲ爲サント欲スルモ得ヘケンヤ

且夫レ爲替方ハ出納局ノ管轄スル所ニシテ其預リ金ハ專ラ收稅委員ノ管理スル所ト爲ル是以テ苟モ出納局ニ於テ預金ノ上ニ關シテ些ノ措置ヲ爲ントスレハ且之ヲ爲替方ニ令シ又收稅

委員ニ達ス而シテ收稅委員更ニ爲替方ニ指揮シテ後始メテ之ヲ施行スルヲ得故ニ爲替方ハ出納局長ノ令ヲ受ルト雖モ委員ノ指揮ヲ得ルニアラサルハ又之ヲ如何トモスル能ハス且委員ノ所在必シモ爲替方ニ接近セサレハ管ニ往復ノ時間ヲ費スノミナラス或ハ彼此ノ意思相吻合セサルモノアルヲ免レサル如キ萬般ノ事皆此ニ準セサルナク手續ノ煩雜ニシテ行事ノ不便ナル管理ノ方法未タ全ク其宜ヲ得タリト謂フ可ラサルナリ

蓋シ處務ノ規程ナルモノ固ニ立法ノ主意如何ニ由テ定ル故ニ爲替方ヲシテ單ニ納金ヲ鑑定シ之ヲ監主スルノミニ止ラシメハ從前ノ規程モ亦タ必ス不可トスルニ非ス反テ出納局ノ干涉ヲ解クヲ可ナリトセンノミ然ルニ今其主意タル敢テ從前ノ趣向ニ止ラストスレハ則チ其法モ亦隨テ更正セサルヲ得ス仍テ既定ノ成規ヲ稽ヘ順序ノ便宜ヲ案シ改メテ其負擔ヲ分チ爲替方ノ預リ金ハ全ク出納局ノ所管ニ屬シ租稅局ハ其預濟ノ證ヲ以テ出納局ノ假納濟ニ充テ以テ直ニ上納ヲ爲スヲ得セシメントス則チ租稅局ハ現金管守ノ冗務ヲ省キ出納局ハ預金運用ノ便宜ヲ得ルモノニシテ稅金ヲ徵收スルト預リ金ヲ管理スルト其責任モ亦自ラ定ル所アルヘシ蓋シ高

論ノ本旨ヲ奉承セントスレハ此ヲ舍テ又他策ナキヲ信スルナリ  
或ハ謂フ收稅委員ハ親ク其地ニ就テ之ヲ監視セシニ今出納局ハ遠ク其地ヲ隔テ之ヲ管理セントス其精粗難易素リ同日ノ論ニ非ルニ似タリト亦タ其說ナキニアラサルナリ然レトモ委員ノ地方ニ在ルヤ必シモ爲替方ニ接近スルニ非ス其距離遠キハ四五十里ニ及フモノアルヲ以テ常ニ其店ニ就テ之ヲ監視檢束スルヲ得ス況ヤ一縣幾多ノ爲替方各所ニ分在ス一二ノ委員屢々此ニ往來シ得ルモノニアラサルヲ故ニ苟モ爲替方ヲシテ奸詐ヲ爲サシメンカ委員ト雖モ免ル

ル能ハサルモノアラシ何ソ獨リ出納局ニ責ムヘケンヤ且其他ノ檢束法ニ於テハ却テ此レ彼ヨリ善ナルモノアルヲ信スレハ或説モ亦タ深ク慮ルニ足ラサルヘシ

此條例ニ於テハ大意收稅委員ノ干渉ヲ解キ出納局ノ直管トスルニ在リ而シテ尙從前ト異ナルモノアリ即チ預金ノ高ヲ酌量シテ抵當ノ額ヲ増減スルヲ得ルト送納金ノ員額ヲ制限セス保護預ヲ廢スルノ類是ナリ蓋シ抵當ハ預金ノ高ニ適應スヘキモノナルヲ預金ノ多寡ヲ計ラスシテ徒ニ一定不易ノ額ヲ徵收シ置ハ理ノ宜キ所ニアラス且預ケ金送納ノ事タル時々其在高ヲ計較シ毎ニ其抵當額内ニ在テ爲替ヲ取組ミ又ハ現金ヲ送納セシメハ自ラ抵當外ノ爲替若クハ預金ノ増嵩セサルヲ得ヘシ乃チ從前ノ如ク多數ノ金額ニ滿ルヲ待テ後爲替ヲ取組ム如キノ手數ヲ要セサレハ隨テ爲替送納ノ後未タ送納先ノ證書ヲ得サルカ爲メニ更ニ多數ノ金額ヲ預リ徒ニ之ヲ守視スル如キノ弊ナク其檢束方ニ於テモ却テ切實ナルニ庶幾ン復タ何ソ保護預ケヲ要セシ此之ヲ更正セントスル所以ナリ

出納局長ノ建議タル別ニ局員ヲ各所ニ派出シ以テ爲替方ヲ監視セシメントス此其本意ニシテ亦已ムヲ得サルモノアルニ似タリト雖モ其費用ヲ要スル僅少ナラス本年度ノ如キハ最モ容易ニ施行スヘカラサル所ナリ況ヤ今爲替方ハ直ニ之ヲ管理シ預金ハ自ラ之ヲ檢束スルヲ得而シテ其取扱ノ方法ハ概ネ從前ノ慣行ニ依リ却テ多少ノ簡便ナルニ至レリ何ソ必シモ多數ノ局員ヲ派遣スルヲ爲ン尤モ全國中爲替方ノ多キ或ハ幾個ノ事ニ習熟セサルモノアルカ如キ到底派出員ヲシテ取締ヲナスヲ要スルコトアレハ其際請テ之ヲ發シ或ハ臨時檢査ノ爲メ之ヲ發スル等ハ固ヨリ妨ケナカルヘシ但其費用ノ如キハ出納局經費豫算中ニ在ルモノヲ以テ之ヲ支辨ス

ルヲ得ン復素リ臨時ノ事ノミ從前亦既ニ之レ有ル所ナリ今日此條例ヲ制定スルニ就テ始テ之ヲ要用トスルモノニ非ス且此條例ハ必ス多數ノ局員ヲ派出スル建議ノ如キニアラサレハ行ハレスト爲スモノニ非ルナリ伏テ察裁ヲ祈ル

明治十三年十月

大谷少書記官

今爲替方條例ノ要旨ヲ述フレハ左ノ如シ

- 一 總則 税金稅外金等凡ソ各地方ヨリ租稅領收順序ニヨリテ上納セル金額ヲ領收シ且其支出ヲ便ニスル爲メ各地ニ於テ適宜ノ銀行會社ニ爲替方ヲ命ス而シテ爲替方ハ出納局ノ所管ニシテ諸上納金ヲ預リタル時ハ即日預リ金受拂日計表ヲ以テ出納局ニ報告スヘク又出納局長ノ令達ヲ得ルニ非サレハ預リ金ヲ支出スルヲ得サルモノトス
- 二 納金預入 爲替方ニ寄託スル納金ハ其納者ヨリ納稅切符又ハ納金證書若クハ内預ケノ文書ヲ添付シテ携來ルモノトス故ニ爲替方ハ之ニ捺印シテ領收終了ヲ證明シ領收證書ヲ交付セサルヲ例トス又税金ヲ寄託スルタメ甲乙接續セル納稅切符ヲ添付シテ戶長又ハ其代理人之ヲ携來ルトキハ爲替方ハ其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シテ之ヲ領收シ預金元帳ニ記入シ乙納稅切符金額ニ爲替方ノ證印ヲ捺捺シ元帳金額ト切符トニ割印シテ領收完了ヲ證シ甲乙切符ハ持參者ニ還付スルモノトス
- 三 預金支出 爲替方ニ於テ預金ヲ拂出ス場合ハ出納局長ノ配賦達示ニ從ヒ各所ニ送納シ若クハ其證票ニヨリ各人ニ支出スルト收稅委員ノ指揮ニ從ヒ過誤納金ヲ返還スルトノ二トス而シテ出納局長ノ達示ニ依リ送納シ竝ニ支辨シタルモノハ爲替方ニ於テハ總テ上納トシテ計上

スルモノトス又爲替方ノ預リ金ヲ配賦スルニハ出納局ニ於テ先ツ租稅局ヨリ申牒セル毎月徵收ノ豫算書ニヨリ毎收稅區ニテ某月某日マテニ寄託スヘキ金額ヲ概算シテ其送納ヲ達示スルモノトス而シテ此配賦ハ出納局ノ便宜ニ因テ之ヲ定ムルモノニシテ爲替方ニ於テ之ヲ拒ムヲ得ス

四 金員送納 爲替方ニ於テ預金ヲ送納スルハ爲替ヲ以テスルト現金ヲ送納スルトノ二途ニシテ出納局ノ指揮ニ從ヒ之ヲ取扱フモノトス然レトモ爲替ヲ專要トシ現金ヲ送付スルハ稀有ノ場合トシ且爲替方ノ請願ニヨリ手限現送ヲ許可スルコトアルヘシ又預ケ金ノ内爲替ヲ以テ送納セシムルニハ出納局長ヨリ配賦證書ニ爲替送納ノ旨ヲ記載シ又ハ故ラニ其旨ヲ達示ス爲替方ニ於テハ其金額ヲ一旦預金ヨリ受領シ其金額ヲ記載セル爲替手形ヲ以テ出納局長ヨリ指定セル納所ニ郵送スヘシ而シテ其送納地ニ於テ其振込即指名店ニ到達スル時ハ二日若クハ三日間ニ其府縣廳内ニ就キ上納シ決シテ廳外ニ於テ授受スルヲ得ス且爲替ヲ執行スルトキハ定規ノ手数料ヲ給與ス

五 抵當 爲替方預金ニ對シ抵當トシテ公債證書又ハ公債證書抵當ノ貸金證書ヲ出納本支局或ハ爲替方所在ノ府縣廳ニ徵收ス而シテ抵當ハ爲替方毎ニ其額ヲ定ムト雖モ或ハ預ケ金ノ増減ニ從ヒテ之ヲ増減スルヲ得且其額ハ概三箇月間ノ預金額五分ノ一ヲ徵收スルヲ例トシ其増減ヲ計算ス又抵當品ハ出納本支局内へ徵收スルヲ一般元則トスレトモ爲替方ノ請願ニヨリテ其本店所在ノ府縣廳ニ徵收セシムルコトアリ其他爲替方ニ給與スヘキ保險料爲替手数料現金運搬費及貨幣鑑定料爲替方ニ關係アル帳簿及證券ノ事ヲ規定セリ

大藏省爲替方條例 (明治三十三年十一月二十七日制定)

目次

|         |      |
|---------|------|
| 第一 總則   | 二十四條 |
| 第二 納金預入 | 十三條  |
| 第三 預金拂出 | 十一條  |
| 第四 金員送納 | 九條   |
| 第五 抵當品  | 十一條  |
| 第六 給與   | 十條   |
| 第七 命令書  | 十條   |
| 第八 帳簿計表 | 十一條  |
| 爲替方條例總則 |      |
| 第一條     |      |
| 第二條     |      |
| 第三條     |      |

大藏省爲替方ハ税金稅外金等凡ソ各地方ヨリ租稅領收順序ニ由テ上納セル金額ヲ預リ且ツ其受拂ヲ便ニスル爲メ各地ニ於テ適宜ノ銀行會社ニ命シテ之ヲ取扱ハシムル者トス

爲替方ハ出納局ノ所管ニシテ轉移及ヒ其取扱上ノ事件ヲ處置スルハ大藏卿ノ指揮ヲ承ケテ出納局長之ヲ執行ス尤モ其設置廢停等重要ノ件ニ至テハ大藏卿ヨリ命令スヘシ

爲替方ハ租稅局ニ於テ定メタル各地方ノ收稅區内ニ就キ之ヲ置ク者トス故ニ其位置變換等ハ必ス租稅局ニ協議シテ後之ヲ施行スヘシ尤モ爲替方ノ任免等ハ施行ノ際租稅局ニ通知スヘシ

第四條

爲替方出張取場所ハ豫メ出張ノ日限定メアリト雖モ納税ノ實況ニヨリ臨時出張ヲ要スルトキハ收税委員ヨリ直ニ爲替方ニ指揮シ出張セシムルコトヲ得ヘシ

第五條

爲替方ニ於テ定規ニ遵ヒ税金税外金等凡ソ各地方ヨリ上納金ヲ預リ之ヲ出納局ニ報告セシ上ハ出納局長ハ其本局又ハ出張局ニ於ケル一般ノ假納金ト同一ノ順序ヲ以テ之ヲ處置スルヲ得故ニ爲替方ヲ檢束シ其現金ヲ管守セシムルハ總テ出納局長ノ責任トス

第六條

爲替方ニ於テ諸上納金ヲ預リタル時ハ即日ニ預リ金受拂日計表ヲ以テ之ヲ出納局ニ報告シ收税委員ハハ隔日毎ニ預リ金報告書ヲ發シ旬日毎ニ其合計書ヲ作り之ヲ通牒スヘシ且ツ三箇月毎ニ預金勘定證書ヲ作りテ出納局長ヘ差出シ該局長ノ認可證ヲ受クヘシ

第七條

前條爲替方ノ預金合計書ハ出納局長ノ預リ證書ト見做シ納入スルヲ得ヘシ

第八條

爲替方ハ出納局長ノ令達ヲ得ルニ非サレハ預リ金ヲ拂出スヲ許サス且ツ同局長ノ令達ヲ得レハ何時モ之ヲ上納スヘシ決シテ猶豫延滞スルヲ得ス但シ過誤納ニ係ル金額ヲ下戻スモノニ限リ收税委員ノ指揮ニ依テ拂出スヲ得ヘシ

第九條

爲替方ハ諸上納金ヲ預リ其受拂ヲ取扱フニ就テハ之カ抵當品ヲ差出サシムヘシ而シテ其増減變換等ハ總テ出納局長ノ指揮ニ由ルヘシ

第十條

爲替方ヘハ爲替金ニ屬スル手数料並保險料及出張場所往復手當ヲ給ス而シテ此諸費ハ總テ出納局ノ經費ニ屬スヘシ

第十一條

爲替方金庫ハ各府縣巡查ヲ以テ日夜護衛セシムルコト、ス其出張場所ニテ預入タル金額ヲ本店ヘ送致スル時ハ最寄警察本分署ヘ申立途中護衛ヲ受クヘシ

第十二條

爲替方預リ金錢ヲ封緘スル時ハ其様式並捺印ノ場所ヲ定メ置クヘシ決シテ異様ノ封緘又ハ捺印ヲ爲ス可カラス但各廳其他ヘ送納又ハ拂渡ヲ爲サシムルトキ封緘ノ儘受渡ヲナスヲ得ス尤受取主ニ於テ其爲替方ヲ信任シ受取ルハ格別ナリトス

第十三條

爲替方ハ預リ金ヲ爲スニ就テ豫メ名代人及金錢受渡主任ノ者ヲ定メ其姓名印鑑ヲ出納局及ヒ租税局ニ差出シ置クヘシ兩局ニ於テハ右印章ヲ認メ爲替方取扱ノ證憑トスルニ付若シ右ノ者ニ於テ不都合アルトキハ其責ハ爲替方ニ擔任シ此ニ依テ生スル不足金又ハ損失等總テ爲替方ヨリ辨償スヘシ

第十四條

爲替方預リ金ハ勿論爲替金及ヒ現金送納ノ分共未タ上納濟ニ至ラサル内盜難又ハ水火災其他如何ナル事故ヲ以テ之ヲ紛失スルトモ凡テ爲替方ノ請負ニシテ其紛失ノ金額ハ勿論凡ソ此ニ屬スル費用ハ悉皆爲替方ニ於テ辨償スヘシ

第十五條

爲替方ニ於テ出納局長ノ令達ヲ受ケタル上其送納ヲ怠リ又ハ順序ヲ履行セス其他凡ソ大藏卿ノ命令出納局長ノ指揮ニ違戾シ引負金等ノ不都合アル時ハ裁判所ニ送付シ相當ノ處分ヲ受クヘシ尙ホ此ニ依テ生スル不足金又ハ損失等ハ總テ之ヲ辨償セシムヘシ

第十六條

爲替方ニ於テ取扱不都合ニ依リ引負スル金額ハ勿論盜難水火災ノ損失其他凡ソ其辨償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ速ニ辨償ノ目的ナキトキハ抵當品ヲ引揚ケ公賣代價ヲ以テ償還ニ充テ不足アレハ尙ホ其資産ニ就テ追徴シ剩餘アレハ返付スヘシ且ツ此ニ就テ生スル費用ハ總テ爲替方ノ引請タルヘシ

第十七條

抵當品入札拂ヲ行フ時ハ其旨爲替方へ通知シ開札ノ節立會ヲ要スヘシ若シ爲替方ニテ出席セサル場合ニ於テ入札ノ價位相當ト認ムル時ハ直チニ落札人へ賣渡スヘシ然レトモ此價格ニ付爲替方ニ於テハ後日異論ヲ陳フヘカラス

第十八條

爲替方ハ本店及ヒ出張所ノ二様ニテ事務ヲ取扱ハシムルモノトス尤モ出張場所ヲ定メ定品ヲ

命スルモアリト雖モ其取扱ニ於テハ通常ノ出張所ト異ナルコトナシ尤モ出張所ハ皆ナ本店ノ管理スルモノニシテ獨立シテ事ニ任スルヲ得ス且ツ爲替方ニ於テ郡區役所ノ爲替方ヲ兼スルカ或ハ自他ノ都合ニ因リ定役場所ノ外ニ出張シ預入ヲ取扱ハンコトヲ請フ時ハ總テ本店又ハ定設ノ出張所ニ於テ取扱フモノト視做シ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十九條

爲替方ト爲ル此ノ銀行ト彼ノ銀行又ハ會社ト結合シテ爲替事務ニ從ハント請フトキハ其事狀ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ雙方共ニ連帶シテ其責ニ任スヘキモノナルヲ以テ之ヲ處置スルニ於テハ他ノ單一ノ爲替方ト異ナルコトナシ故ニ假令如何ナル事由アリトモ爲替方ノ事務及ヒ其責任ヲ分ツコトアルヘカラス

第二十條

前條ノ如ク銀行會社又ハ兩銀行合併シテ爲替方トナルトキハ一收稅區内ニ在ル銀行又ハ會社ノ本店若クハ出張所ノ内一所ヲ以テ該爲替方ノ本店ト定メ事務ヲ取扱ハシムヘシ一收稅區内ニ於テ爲替方本店二箇所ヲ設置スルヲ得ス

第二十一條

爲替方本店ハ大藏省爲替方ト記シタル適度ノ板札ヲ掲ケシム出張所ハ大藏省爲替方出張ト認メタル小札ヲ掲ケタルモ妨ケナシトス

第二十二條

爲替方願伺届等ノ書面ハ總テ出納局長へ宛差出スヲ則トス而シテ其事項ノ例規アルモノハ出



納局長之ヲ專行シ至要又ハ重大ニ涉ル分ハ卿輔へ稟議シテ執行スヘシ

第二十三條

國立銀行ニシテ爲替方ヲ勤ムルモノハ預金受拂日締帳ヲ以テ之ヲ銀行帳簿へ登記スヘシ而シテ銀行局ノ検査ヲ受ケ考課狀ヲ以テ報告スル等ハ該局ノ規則ニ隨フヘシ

第二十四條

出納局ハ臨時官員ヲ派出シ爲替方ニ就テ其帳簿並預金ヲ検査セシム時機ニ依テハ他ノ官員ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ爲替方ハ其検査員タルヘキ證據書ヲ持スル者ニ對シテハ其検査ヲ拒ムコトヲ得ス

納金預入條例

第一條

凡ソ爲替方へ預ケ入ル納金ハ其納者ヨリ納稅切符又ハ納金證書若クハ内預ケノ書付ヲ添へ持參スルモノトシ爲替方ハ之ニ關印シテ受取濟ヲ證シ別ニ請取證書ヲ交付セサルヲ例トス就テハ現金ノミヲ持參シテ右切符證書々付等ヲ添へサルモノアラハ爲替方ハ其旨ヲ斷リ必ス之ヲ出サシメテ後チ預入ノ順序ヲナスヘシ

第二條

納稅切符ハ甲乙接續ノ切符ニシテ戶長取扱ニ係ル稅金ヲ上納スルニ用ヒ納金證書ハ當人ノ直納ニ係ル稅金ヲ納ムル時ニ用ユ内預書付ハ諸稅納金ノ内納額ニ滿タサルノ間始ク其幾分ヲ預クルトキニ用ユルモノトス

第三條

凡ソ稅金ヲ預ケ入ルニ甲乙接續セル納稅切符ヲ添テ戶長又ハ其代理人持參スルトキハ爲替方ハ其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シテ之ヲ受取預金元帳へ記入シ乙納稅切符金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ且ツ元帳金員へ該切符ト關印シテ預リ濟ヲ證シ切符ハ甲乙共ニ持參人ニ返付スヘシ

第四條

納金ノ内納稅切符ヲ用ヒス納金證書ヲ添へ現金ヲ持參スルトキハ其眞贋ヲ鑑定シテ之ヲ受取預金元帳へ記入シ證書金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ元帳金員ト關印シテ預リ濟ヲ證シ該證書ヲ持參人ニ返付スル等ノ手續ハ前條ニ同シ

第五條

内預書付ヲ以テ納金ヲ持參スルモノアルトキハ第三條ノ手續ニ據リテ之ヲ預リ金元帳ニ記入シ其金員ノ下ニ假關印ヲ捺シテ預リヲ證シ持參者ニ返付スヘシ爾後其納額ヲ完納スルトキ納人ハ齎キノ内預ケヲナシタル金員ヲ合算シテ納稅切符又ハ納金證書ヲ作り内預ケ書付ヲ添へ持參スルコト、ス乃チ爲替方ニ於テハ此切符又ハ證書裏面へ内預金員月日ヲ列記シ前ノ内預ノ時ノ元帳金員ニ關印ヲ捺シ齎キノ内預書付ハ不用ニ屬シ共ニ返付スヘシ

第六條

預リ金元帳ハ郡區役所分ケヲ以テ記載スルモノトス因テ其ノ郡區町村納者ノ姓名ヲ記入シ且ツ毎項金員ノ肩ニ番號ヲ付スヘシ此番號ハ各郡區役所毎ニ之ヲ設クルヲ以テ其番號ノ首ニ其郡區名ノ頭字ヲ置クコト、ス尤内預金ニ於テハ始ク之カ番號ヲ付セス他日其金額ヲ完納スル

ニ方リ其未納ノ金員ニ付シタル番號ヲ以テ前ノ缺號ノ所ニ填記スヘシ若シ未納ノ金員ヲ持參セス姑ラク内預ノ額ヲ以テ納稅切符又ハ納金證書ニ認メ納入ヲ要スルモノハ右切符證書持參ノ日ノ元帳相當ノ番號ヲ據ノ缺號ノ所ヘ記入シ而シテ其切符又ハ證書裏面ヘ内預ノ金員月日ヲ記シ缺號ヲ填記スル等ハ渾テ前ニ準ス

第七條

凡ソ納金者ノ内金額ヲ爲替方ニ預濟ノ後納稅切符又ハ納金證書ヲ紛失シタル時別ニ切符又ハ證書ヲ作り裏面ニ其事由ヲ記載シ郡區長ノ證印ヲ捺シテ持參スレバ爲替方ニ於テハ更ニ其金員ニ捺印シ且最前ノ元帳金員ニ就キ切符又ハ證書遺失ニ付何月何日再割印ノ旨ヲ記シテ割印シ之ヲ納人ニ返付スヘシ

第八條

爲替方ハ納金ヲ預ルトキニ於テ其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シ若シ贋金錢アルトキハ明治九年太政官第五十七號布告ニ照シ處分スヘシ若シ爲替方ニ於テ誤テ贋金錢ヲ納入シタル時之ヲ辨償スルハ無論ノコト、ス

第九條

爲替方ニ於テ預リ濟ノ金額ハ日々集計シテ元帳ノ合高ヲ受拂日締帳ニ列記シ當日拂出シタル金員ト對比シテ受拂日計表ヲ作り即日之ヲ出納局ニ報告スヘシ其出張取場所ニ於テ預リタル分モ算入スルハ勿論ナリトス

第十條

爲替方ニ於テ日々預リタル金員ハ其元帳ニ據リ日計表(即稱日報告表)ヲ製シ隔日毎ニ之ヲ收稅委員ニ通牒シ更ニ旬日毎ニ之カ合計書ヲ作りテ該委員ヘ送致スヘシ

第十一條

納金ハ爲替方本店ノ外出張取場所ニ於テ之ヲ預ルヲ得ルト雖モ出納局ヘ報告シ收稅委員ヘ通牒スルハ必本店ニ於テ取纏メ之カ順序ヲ履行スヘシ故ニ出張取ニ於テハ毎日收入セシ金員ヲ本店ニ通知スヘシ

第十二條

爲替方出張取場所ニ於テ預リタル金員ハ速ニ其本店ニ通知スルヲ緊要トス尤モ出納局ニ於テハ受拂日計表ニ掲載シタル出張取預入ノ分ハ其遠近里程ヲ斟酌シ五日乃至十日間ヲ過クレハ既ニ本店ニ現在スルモノト認メ配賦送納等ノ所置ヲナスヘシ爲替方ハ出張先ヨリ未タ送達セサルヲ口實トシテ其令違ヲ拒ムヲ得ス

第十三條

爲替方本店又ハ出張取場所ニ遠隔セル所在ノ納人ニシテ爲替方ト組合約定アル銀行又ハ會社等ノ爲替券ヲ以テ爲替方ニ送致スルトキ爲替方ニ於テ一旦其金員ヲ拂渡シテ後更ニ納金トシテ定規ノ如ク預入レノ順序ヲ爲ス如キハ相對ノ取扱ニ出ルヲ以テ出納局ニ於テハ之ヲ禁遏セサルヘシ

預金拂出條例

第一條

爲替方ニ於テ預金ヲ拂出スハ出納局長ノ配賦令達ニ遵ヒ各所ニ送納シ又ハ其證票ニ依リ諸人ニ拂渡スト收稅委員ノ指揮ニ從ヒ過誤納金ヲ下渡戻ストノ二途ニ外ナラサル者トス尤モ出納局長ノ達ニ依リ送納竝ニ拂渡シタルモノモ爲替方ニ於テハ總テ上納ト認メ勘定ノ整理ヲ爲スヘシ

第二條

爲替方ノ預リ金ヲ配賦スルハ出納局ニ於テ先ツ租稅局ヨリ申牒セル毎月徵收ノ豫算書ニ據リ毎收稅區ニテ何月何日迄預入ヘキ金額ヲ概計シテ金何程ハ某縣ヘ何程ハ出納局又ハ支局ヘ送納スヘキ旨ヲ令達スヘシ此配賦ハ出納局ノ都合ニ依テ之ヲ定ムルモノニシテ爲替方ニ於テハ之ヲ拒ムヲ得ス尤モ萬一已ムヲ得サル分ハ詮議ヲ經テ彼是變換ヲ許可スルコトアルヘシ故ニ其請願アルトキハ配賦令達ノ際速ニ之ヲ申請スヘシ

第三條

預リ金ノ配賦ヲ令達シタル上ハ其額内ニ於テ何ケ度ニモ爲替ヲ取組ミ之ヲ送納セシメ決シテ抵當額ニ溢ル、預リ金ヲ爲替方ニ存在スルヲ許サス故ニ出納局ニ於テハ日々爲替方ヨリ送納セル預金受拂日計表ニ據テ現在ノ預ケ金多寡ト送納ノ景況トヲ點檢シ時々爲替方ニ指揮スルコトアルヘシ預金ノ配賦ハ出納局ノ都合ニ依テハ其送納先ヲ變換シ金額ヲ増減スルコトアルヘシ

第四條

出納局ニ於テ預リ金ノ配賦ヲ令達スルトキハ同時ニ其旨ヲ詳悉シテ配賦ヲ受クル各廳ヘ通達

シ置ヘシ各廳ニ於テハ爲替方ヨリ金額ヲ送納シタル時其通達ヲ受ケタル全額又ハ内納ニ拘ハラス其納付セル額ニ對シ出納局長ニ宛タル預リ證書ヲ爲替方ニ附與シ且其旨ヲ出納局ニ通報セシムヘシ尤モ出納本局ヘ納付セル分ハ該局ヨリ爲替方ヘ對シ領收證書ヲ附與スヘシ

第五條

爲替方ニ於テ出納局ノ配賦令達ヲ受タル時ハ其納金ノ預入アルニ隨ヒ何ケ度ニモ之ヲ送納シ決シテ抵當額外ノ預金ヲ存在セサルヲ緊要トス且其送納ノ順序ヲナシタル上ハ直ニ之ヲ受拂日締帳ニ登記スヘシ而シテ追テ送納先ヨリ交付セル領收證又ハ預リ證ヲ得ルニ及ヒ配賦令達ノ書面ト連續シテ保存シ以テ勘定整理ノ時出納局ニ差出スヘシ但シ配賦送納ニ於テハ一口毎ニ之ヲ日締帳ニ記載シ其送納向ト爲替送納又ハ現金送納トノ區分ヲ詳明ニスルヲ緊要トス尤モ配賦ノ金額ハ專ラ爲替ヲ以テ送納スルモノトス然レトモ時機ニ依テハ現金ヲ送納セシムルコトアリ此場合ニ於テハ出納局ヨリ特ニ之ヲ令達スヘシ

第六條

大藏省ニ於テ各官廳又ハ他ノ諸人ニ仕拂ヘキ金員ノ内臨時某地ニ於テ受取方ヲ要スルトキハ其地所在ノ爲替方預金ヲ以テ交付スルヲ得此場合ニ於テ出納局ハ拂渡證票ヲ作り該官廳又ハ當人ニ交付シ且納付證票ヲ爲替方ニ送付スヘシ

第七條

爲替方ニテ官廳又ハ諸人ヘ臨時拂渡ス爲メ出納局長ノ納付證票ヲ得タルトキハ拂渡證票ヲ持參スルトキニ於テ此ニ對照シテ拂渡シ受拂日締帳ニ登記スヘシ尤此臨時拂渡ノ分ハ證票幾葉

アリトモ毎件別載スルヲ要セス單ニ當日拂渡ノ合高ヲ掲ケ證票何葉ノ爲メ拂出ノ旨ヲ記載スルコト、ス而シテ其證票ハ夫々納附票ト連綴シテ保存シ勘定ノ證ニ供スルハ前條ノ如シ且ツ此拂渡證票ヲ持參スルアルモ納附票致達セサルノ時ニ於テハ決シテ拂渡スヲ得サルコト、ス

第八條

預金ノ配賦變換臨時拂渡共ニ出納局ノ都合ニ依テハ電信ヲ以テ之ヲ達スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ別ニ配賦令達又ハ納付證票ヲ送付セサルニ因リ其電信原書ヲ以テ之ニ換ヘ其臨時拂渡ノ分ハ姑ク受取人ノ假領收證書ニ對シテ金員ヲ拂渡シ追テ出納局ヨリ式ノ如ク拂渡證票ノ裏面ニ電信ニテ渡濟ノ印ヲ捺シテ受取人ニ渡スヲ以爲替方ニハ嚮ノ假證書ト交換スヘシ

第九條

税金稅外金其他諸納金ノ内過誤納ノ爲メ下戻ヲ要スルモノハ爲替方ハ收稅委員ノ指揮ニ依テ預リ金ノ内ヨリ拂出スヘシ此場合ニ於テハ收稅委員ハ先ツ下戻スヘキ金員及ヒ納人ノ姓名ヲ認メタル通知切符ヲ以テ爲替方ニ送付シ且之ニ割符セル下戻切符ヲ以テ郡區長ヲ經テ誤過納者ニ交付スルコト、ス但シ郡區長ニ於テ嚮ニ納人ヨリ差出シタル納稅切符又ハ納金證書ヲ收稅委員ニ送致セサル前ニ在レハ其金員ヲ更正シ或ハ消却シテ下戻切符ト一同過誤納者ニ交付スヘシ若シ納稅切符又ハ納金證書ヲ既ニ收稅委員ニ致シタル後ニ在レハ委員ハ下戻切符ニ納稅切符又ハ納金證書領收濟ノ印ヲ捺シテ交付スルコト、ス

第十條

爲替方ニ於テ收稅委員ヨリノ下戻切符ヲ持參スルモノアル時通知切符ニ照ラシ差違ナケレハ預リ金ノ内ヨリ之ヲ拂渡スヘシ但納稅切符又ハ納金證書ヲ更正シ又ハ消却シタル分下戻切符ト併セテ持參シタルトキ其消却シタル分ハ單ニ嚮ノ證印ヲ塗抹シテ返付シ其更正シタル分ハ嚮ノ證印ヲ塗抹シテ更ニ更正ノ金員ニ證印ヲ捺シテ返付スルコト、ス而シテ此下戻金ハ臨時拂出金ト同シク當日下戻ノ合高ヲ以テ日籍帳ニ登記シ通知下戻ノ兩切符ヲ連綴保存スル等ハ總テ第七條ニ準シテ取扱フヘシ

第十一條

爲替方ニ於テ拂出シタル金額ハ受拂日籍帳ニ於テ日々預入ノ高トヲ對比計算シテ受拂日計表ニ掲ケ之ヲ出納局ニ報告スルハ納金預入條例第九條ニ準據スヘシ

金員送納條例

第一條

爲替方ニ於テ預金ヲ送納スルハ爲替ヲ取組ミ現金ヲ送納スルノ二様ニシテ出納局長ノ指揮ニ從テ之ヲ取扱フヘシ尤モ爲替取組ミヲ專要トシ現金ヲ送納スルハ稀ニアルヘキモノトス且爲替方ノ請願ニ依リ手限現送ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條

預金ノ内爲替ヲ以テ送納セシムルハ出納局長ヨリ配賦證票ニ爲替送納ノ旨ヲ記シ又ハ故ラニ其旨ヲ令達スルコト、ス爲替方ニ於テ其金額ハ一旦預金ヨリ受取其金員ヲ記載セル爲替手形ヲ以テ出納局長ヨリ指定セル納先へ郵送スヘシ而シテ其送納先ニ於テ其振込ミ店ニ相達スル

時ハ二日乃至三日間ニ金員ヲ持參シ該廳内ニ就キ上納スヘキモノトス決シテ廳外ニ於テ受渡スルコトヲ得ス且爲替ヲ取組マシムルトキハ定規ニ依テ手数料ヲ給スヘシ

第三條

爲替方ニ於テハ爲替ヲ取組タル後ト雖モ送納先ニ於テ現金ヲ取付ケ領收證又ハ預リ證ヲ送付セシ上ニ非サレハ全ク上納済ト爲スヲ得ス尤モ送納先ニ於テハ爲替手形ト引換ニ現金ヲ取付タル上ハ直ニ領收證又ハ預リ證ヲ送付スヘシ

第四條

爲替手形ヲ郵送ノ途中ニテ紛失シ到著ノ證據ナキ時ハ送納先ヨリ其旨ヲ振出店ヘ相達スヘシ該店ニ於テハ其手形ヲ廢紙トシ改テ振出手形ヲ送付スヘシ若シ此場合ニ於テ右ノ手形ヲ以テ金員ヲ詐取スルモノアルトモ勿論爲替方ノ損分ニ歸スヘシ

第五條

預金ノ内爲替送納ノ金種類ハ金銀貨幣ヲ除クノ外他ノ通貨ヲ以テ送納スルヲ得金銀貨幣ハ必ス同種類ヲ以テ出納本支局ノ内ヘ送納スヘシ若シ爲替振込店ニ於テ同貨ニ差支アルトキハ姑ラク之ヲ見合セ更ニ爲替ニ取組カ又ハ便宜之ヲ納付スヘシ

第六條

預金ノ内出納局ノ都合ヲ以テ現金ヲ送納セシムルニ就キ配賦證票ニ其旨ヲ記シ又ハ故ラニ其旨ヲ令達スルトキハ爲替方ハ其金員ヲ取纏メ手代一名乃至二名付添送納先ヘ護送スヘシ而シテ送納先ノ領收又ハ預證ヲ得ル等ハ第三條ニ準シテ取扱フコト、ス且出納局ヨリ命シテ現金

ヲ送納セシムル分ハ定規ニ依リ運賃並手代ノ旅費ヲ給スヘシ

第七條

現金運搬ニ就テ途中沿道各府縣ノ巡查一名乃至二名ヲ以テ護衛セシムルコト、シ各府縣ハ豫メ大藏省ヨリ通達スヘシ仍テ爲替方ニ於テ現金送納ノ令達ヲ得レハ所在ノ警察署ニ出頭シ出納局長ノ納付證票ヲ證據トシ途上護衛及ヒ沿道ノ各府縣警察本分署ヘノ遞送狀ヲ受ケテ發途セシムヘシ

第八條

預金ノ内現金送納ヲ命スルニ出納局ノ都合ニ依テハ電信ヲ以テ令達スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ電信原書ヲ以テ直ニ各般ノ順序ヲナスヘシ

第九條

預ケ金ノ内爲替送納ヲ令達セラレタルモ爲替方ノ都合ニ依テ手限現送ヲ請願スルトキハ其事情ニ因テ之ヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ在テハ爲替手数料ヲ給シ其他ノ費用ハ一切給スルコトナシ尤モ途上ノ護衛其他ノ取扱ハ令達シタル現金送納ニ準シテ取計フヘシ

抵當條例

第一條

爲替方預金ニ對シ抵當トシテ公債證書又ハ公債證書抵當ノ貸金證書ヲ出納本支局或ハ其爲替方所在ノ府縣廳ニ徵收スヘシ

第二條

公債證書抵當價格ハ大藏省ニ於テ定メタル價格ニ據ルヘシ公債證書ヲ抵當トナシタル貸金證書ノ抵當價格ハ證書面貸金高ニ拘ハラズ公債證書ノ價格ニ據ルヘシ尤其價格貸金高ヨリ尚價ニ當ルモノハ貸金高ヲ以テ積算スヘシ

第三條

抵當ハ爲替方毎ニ其額ヲ定ムト雖モ或ハ預金ノ増減ニ隨ヒ之ヲ増減スルヲ得且ツ抵當額ハ概ネ三箇月間ノ預金高五分ノ一ヲ徵收スルヲ則トシ増減ヲ取計フヘシ例ヘハ甲年十二月ヨリ乙年二月迄ノ間ハ地租ノ第四期納ニ當リ預金額最高ノ期トシ三箇月間ノ預リ高三十萬圓ト見積リタル時ハ抵當實額六萬圓ヲ徵收ス之ヲ該爲替方ヨリ差出スヘキ抵當ノ本額ト定メ其餘ハ更ニ三箇月ノ預入高ヲ積算シテ減省スルヲ得尤モ其都度出納局長ヨリ之ヲ令達スヘシ故ニ出納局長ノ見込ニ依テハ或ハ之ヲ減省セサルコトアルヘシ

第四條

抵當ヲ徵收スル時ハ明細仕譯書ヲ添テ差出サシムヘシ尤モ該仕譯書ハ印紙貼用ヲ要セス而シテ此ノ公債證書ハ爲替方ヲ勤ムル銀行會社ノ所有ニ非スシテ其役員又ハ株主一己ノ記名又ハ他ヨリ借入レ預リ置キタル分或ハ證書面墨付破壊等ノ分或ハ當省布達ニ掲クル紛失ノ證書等ハ抵當ニ差出スヲ許サス但爲替方所有ノ品ニ乏シク已ムヲ得サル場合ニ於テ役員株主又ハ他人ヨリ借受又ハ預リタル公債證書ヲ抵當ニ差出サンコトヲ要スル者其所有主ヨリ抵當ノ效用ヲ徵スヘキ明文アル承諾證書ヲ添テ出納局長へ請願スルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條

公債證書抵當ノ貸金證書ヲ抵當ニ差出ストキハ該負債主ノ承諾證書ヲ添ヘ其貸金證書抵當公債證書ヲ併セテ徵收スヘシ

第六條

正貨紙幣又ハ古金銀ヲ以テ一時ノ抵當ニ差出スコトヲ得ヘシ但正貨紙幣ニハ普通價格古金銀ハ七年第九十三號布告ヨリ相當價格ヲ以テ徵收スヘシ

第七條

抵當品ハ出納本支局内へ徵收スルヲ則トス尤爲替方請願ニ因テハ其本店所在ノ府縣廳ニ徵收セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ出納局長ハ先ツ抵當仕譯書ヲ差出サシメ之ヲ以テ該府縣廳ニ通達シ府縣廳ニ於テハ其通達書ト仕譯書ヲ照合シテ之ヲ徵收シ徵收濟ノ上ハ其旨出納局ニ通報スヘシ若シ其通達書及ヒ仕譯書ニ照合セサルカ或ハ他ノ事故アルトキハ必ス出納局長ニ照會シテ之ヲ處置スヘシ

第八條

抵當品ヲ出納局ニ徵收シタルハ該局長ヨリ預リ證書ヲ下渡シ出納支局又ハ府縣廳ニ徵收シタルハ支局長又ハ府知事縣令ノ預リ證書ヲ下附スルコト、ス爲替方ハ其寫ヲ以テ出納局へ届出ツヘシ

第九條

抵當品ハ彼ト是ト交換ヲ許スト雖トモ先ツ其交換ニ差出スヘキ抵當品ノ仕譯書ヲ以テ出納局

ニ願出ツヘシ其出納支局又ハ府縣廳ニ徵收シアル分モ出納局ヘ願出同局ノ指令ヲ得テ其抵當品徵收ノ廳ニ就キ交換ヲ乞フヘシ但シ爲替方所有ノ公債證書ヲ以テ交換ヲ差出ス分ニ限り至急ヲ要スルトキハ公債證書種類金額ノミヲ以テ電信ニ附シ願出ルモ妨ケナシ但交換濟ニ至ラハ速ニ仕譯書及預リ證書寫ヲ差出スヘシ

第十條

公債證書ノ利賦金切落シハ別段出納局ヘ願出ニ及ハス直チニ現品徵收ノ廳ニ就キ主任官員ノ立會ヲ乞フテ之ヲ受取ルヘシ尤モ當籤ノ公債證書アルカ又ハ貸金證書返濟期限ニ際スル分ハ速ニ出納局ヘ申立交換ノ順序ヲ爲スヘシ但シ舊公債證書ハ賦金切落シ高四分ノ一相當ノ代抵當ヲ差出スヘシ

第十一條

預ケ金配賦送納ヲ怠リ又ハ爲替金不納等ノ事故アルトキハ出納局ニ於テ其事由調査ノ上總則第十六條ノ處分方ニ著手シ抵當品ヲ引揚ケ公賣ヲ行フモノトス

給與條例

第一條

爲替方ヲ命スルトキハ預金ノ額ニ依テ保險料ヲ給ス即チ一年間預金總額三十萬圓未滿ハ四百圓三十萬圓以上十萬圓每二百五十圓ヲ増シ九十萬圓以上百圓ヲ増シ百萬圓以上千五百圓ニ止ムルヲ則トス

第二條

爲替ヲ取組マシムル時ハ之カ手数料ヲ給ス尤モ一口五十圓未滿ハ下渡サス五十圓以上百圓未滿ハ遠近ニ拘ラス一錢ヲ給シ百圓以上ハ百圓ニ付里程一里以上十里未滿ハ一錢五厘ヲ給シ十里以上十里毎ニ二錢ヨリ二錢五厘迄ヲ給ス又一ト口滿百圓ナレハ増手数料トシテ里程ニ拘ラス二錢其以上五十圓毎ニ一錢ヲ増シ拂渡スヲ則トス

第三條

現金ヲ以テ送納ヲ命スルトキハ其金員ニ係ル荷造費運搬費竝附添手代ノ旅費ヲ給ス但シ荷造運搬費ハ現費拂證書ニ因テ給與シ手代ノ旅費ハ旅費定則第十章ニ據テ支給スヘシ

第四條

爲替方出張所手當ハ定詰ヲ命シタル分一箇月金六圓ヲ給シ節々出張ノ分ハ片道六里以上ヨリ一日十里詰ヲ以テ日當六十錢ヲ給ス十里以上ノ端里數一里未滿ハ給セス其以上十里ニ及フ迄ハ又一日分トス但出張先滯留日當ハ給セサルヲ則トス尤モ途中川留雪支等ニテ滯留シ其地戶長或ハ通運會社ノ證書アルモノハ一日手當金三十錢ヲ給スヘシ

第五條

出張所途中渡海アル分ハ陸路ノ比準ヲ以テ海陸ノ里程ヲ併算シテ手當金ヲ給スヘシ

第六條

爲替方ニ於テ地方廳ノ協議ニ應シ或ハ自己ノ都合ヲ以テ定詰ヲ申立認可シタル分ハ最前ノ出張度數ヲ平均シ相當ノ手當金ヲ定メテ支給スルモノトス然レトモ里程六里未滿ノ場所ハ給セス

第七條

爲替方ニ於テ地方廳並ニ郡區役所ノ協議ニ應シ又ハ他ノ都合ニ寄リ出張場所定設外ニテ預リ方取扱ノ義請願ニ依リ認可シタル分ハ手當金ヲ給セサルコト、ス

第八條

前各條ニ掲クル爲替方へ給與ノ諸費ハ總テ出納局ノ經費中ヨリ支辨スヘシ

第九條

前條ニ掲クル諸給與ノ外爲替方ニ於テ貨幣鑑定料トシテ預入ノ金額毎ニ千分一ノ手数料ヲ受取ルコト、ス即チ諸税金及諸返納金ハ納人ヨリ直ニ之ヲ受取リ古金銀ヲ以テ税金ヲ納ムル分ハ官ヨリ之ヲ仕拂フヘシ尤モ稅外諸收入金諸經費還納金官吏公務上返納金罰俸金ノ類官廳回付金及海關稅ヲ除キ外國人ヨリ收納金ノ如キハ爲替方ニ於テ取扱フ事アリトモ該手数料ヲ支拂フコトナキモノトス

第十條

一ト口五十錢未滿ノ金員ヲ納ムル者ハ千分一手數料ヲ拂フニ及ハス因テ戶長ニ於テ取束ネ納入スル税金ノ類ハ總額ノ内五十錢以上ノ納金ト五十錢未滿ノ分トヲ區分シ戶長ヨリ之ヲ爲替方ニ證明スレハ五十錢未滿ノ金員ヲ經メタル額ニ當ル者ニ就テハ此手数料ヲ仕拂フヲ要セス帳簿計表條例

第一條

爲替方ニ關係アル帳簿計表及ヒ證票等ハ左ノ十種トス

納稅切符及納金證書

納金預入元帳

隔日報告表旬月合計書(即チ預金證書)

預金受拂日締帳

預金受拂日計表

預金配賦證票

預金納付證票並拂渡證票

過誤納下戻通知切符

過誤納下戻切符

預金受拂勘定證書

第二條

納稅切符ハ甲乙接續シ租稅局ニ於テ定ムル所ニシテ凡ソ戶長取扱ニ係ル税金ヲ納ムルニ用ユルモノトス爲替方ニ於テ此切符ニ依テ納金ヲ預ケ入レ其乙號ノ切符ニ證印ノ上元帳ト割印シ即時ニ納人ニ返付ス其様式第一圖ノ如シ但シ納金證書ハ凡ソ當人ノ直納ニ係ル税金ヲ納ムルニ用ユルモノニシテ其金員年度稅名及ヒ納人居住ノ郡區町村地號姓名ヲ詳記ス其様式ハ第一圖第二號ノ如シ且ツ其取扱ハ總テ納稅切符ニ同シ

第三條

納金預入元帳ハ爲替方ニ於テ納金預入毎ニ之ニ記入シ納稅切符又ハ納金證書ト割印シ預リ濟



ヲ證スルモノニシテ其様式第二圖ノ如シ

第四條

隔日報告表ハ爲替方ニ於テ諸納金預入高ヲ每隔日ニ收稅委員ニ報告スルモノニシテ旬日合計書ハ旬日毎ニ嚮ノ報告表ノ金額ヲ合計シ收稅委員ニ送致シ即チ出納局ノ假納證書ト同視セラレヘキ者トス其様式第三圖ノ如シ

第五條

預金受拂日締帳ハ爲替方ニ於テ日々各元帳ノ預金合高ト送納拂出ノ高トヲ記載シ受拂ノ差引ヲ明瞭ニスルモノニシテ出納局ニ呈出スル日計表ノ原帳トス其様式第四圖ノ如シ

第六條

預金受拂日計表ハ受拂日締帳ニ據テ製スル者ニシテ日々出納局ニ呈出シ預金ノ受拂ヲ證明報告スル者其様式第五圖ノ如シ

第七條

配賦證書ハ預金ノ内各所ニ送納セシムルノ令達ニシテ出納局ヨリ爲替方ニ送付シ爲替方ニ於テハ之ニ據テ其預金ヲ證書初筆ヨリ逐次各所ニ送納シ納先ノ領收證又ハ預リ證ヲ得テ此ト連續保存スル者ナリ其様式第六圖ノ如シ

第八條

預金納付證書ハ臨時拂渡ノ時其案内證書ニ充テ時々出納局ヨリ爲替方ニ送付スル者ニシテ拂渡證書ハ出納局ヨリ預金ヲ臨時拂渡ノ爲メ各廳又ハ諸人ニ對シ振出ス者トス各廳又ハ諸人ハ

之ヲ爲替方ニ致シテ金員ヲ受取り爲替方ハ嚮ノ納付證書ト連續保存シテ上納濟ノ證憑ニ供ス其様式ハ納付證書ニ接續シテ割印アリ第七圖ノ如シ

第九條

過誤納下戻通知切符(一)ニ乙切符ト稱ス(過誤納金ノ下戻ヲ要スル時收稅委員ヨリ爲替方ニ送付スル者ニシテ爲替方ハ之ヲ受ケ納入ヨリ下戻切符持參スルヲ待テ之ト照合シ金員ヲ拂渡シ兩切符ヲ連續保存スル者トス其様式ハ第八圖ノ如シ

第十條

過誤納下戻切符(二)ニ丙切付ト稱ス(收稅委員ヨリ郡區長ヲ經テ納人ニ交付シ納人ハ之ヲ持シテ爲替方ニ就キ金員ヲ受取ル者トス爲替方ハ嚮ノ通知切符ニ照合シ差違ナキヲ認メテ後金員ヲ拂渡シ切符ハ通知切符ニ連續保存シ勘定ノ證憑ニ供スル者ナリ其様式ハ通知切符ニ接續シテ割印アリ第九圖ノ如シ

第十一條

預金受拂勘定證書ハ三箇月分ヲ以テ一期トシ每一期ニ差出スモノニシテ先ツ其期內ノ預リ金高ヲ掲ケ次ニ其拂出金高ヲ記シ差引勘定ヲ證明ニスル者トス而シテ其拂出金ニ關スル出納局長ノ拂渡證書ヲ添テ出納局長ニ差出ストキハ該局長ヨリ勘定保證ノ與書鈐印シテ下付スル者ナリ其様式第十圖ノ如シ

(第一圖ヨリ第十圖マテ様式略ス)

大藏省爲替方條例中加除更正 (明治十四年七月十六日)

爲替方條例中(納付證書)ノ四字ハ都テ(拂渡案内證書)ノ六字ニ改ム  
爲替方條例總則

第六條ノ末ヘ(又右勘定證書ト共ニ下戻未渡金受拂合計書ヲ差出スヘシ)ノ二十五字ヲ加フ

第九條 (正改)

爲替方ヘ預ケ金ノ高ハ其收稅區域前年度毎年七月ヨリ翌年六月マテノ實收入ヲ以テ其年度ノ預ケ高ト定メ之ニ對シ抵當品ヲ徵收スヘシ而テ其徵收増減變換等ハ總テ出納局長ノ指揮ニ由ルヘシ  
第十一條中送致スル時ハノ下ヘ(爲替方ノ都合ニ依リ)ノ九字ヲ加フ

第十四條

本文如舊

但非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルノ證アルトキハ實際詮議ノ上處分スヘシ

預金拂出條例

第十條 (正改)

爲替方ニ於テハ豫メ過誤納下戻未渡金差引帳一ニ未渡帳ト云フ設ケ置收稅委員ヨリ通知切符到達ノ日ニ於テ年度ヲ區別シ其切符合高ヲ以テ日締帳拂部ニ登記シ而テ該切符一葉毎ニ右未渡帳ヘ受入又其切符面ヘ對スル現金ハ下戻未渡金トシテ預リ金ノ内ヨリ引出シ別段預金ニ備ヘ置他日下戻切符ヲ持參スル者アル時通知切符ニ照合シ現金ヲ下戻シ其下戻切符ニ據リ未渡帳ヲ拂出スヘシ且又該未渡帳ニ基キ下戻未渡金差引表(一ニ未渡表ト云)ヲ製シ右受拂アル度毎ニ出納局ヘ差出スヘシ但納稅切符又ハ納金證書ヲ更正シ又ハ消却シタル分下戻

切符ト併テ持參シタル時其消却シタル分ハ單ニ彙ノ證印ヲ塗抹シテ之ヲ返付シ其更正シタル分ハ彙ノ證印ヲ塗抹シ更ニ更正ノ金員ニ證印ヲ捺シテ返付スルコト、ス又通知下戻ノ兩切符ハ連續保存シ勘定整理ノ時下戻未渡金受拂合計書ニ添ヘ出納局ヘ差出スヘシ

第十一條 (加道)

爲替方ニ於テハ豫メ過誤納下戻未渡金差引帳(一ニ未拂帳ト云フ)ヲ設ケ置收稅委員ヨリ通知切符到達ノ日ニ於テ年度ヲ區別シ其切符合高ヲ以テ日締帳拂部ニ登記シ而シテ該切符一葉毎ニ右未渡帳ヘ受入又其切符面ニ對スル現金ハ下渡未渡金トシテ預リ金ノ内ヨリ引出シ別段預金ニ備ヘ置他日下戻切符ヲ持參スルモノアル時通知切符ニ照合シ現金ヲ下戻シ其下戻切符ニ據リ未渡帳ヲ拂出スヘシ且又該未渡帳ニ基キ下戻未渡金差引表(一ニ未渡表ト云)ヲ製シ右受拂アル度毎ニ出納局ヘ差出スヘシ但納稅切符又ハ納金證書ヲ更正シ又ハ消却シタル分下戻切符ト併テ持參シタルトキ其消印シタル分ハ單ニ彙ノ證印ヲ塗抹シテ之ヲ返付シ其更正ノ金員ニ證印ヲ捺シテ返付スルコト、ス又通知下戻ノ兩切符ハ連續保存シ勘定整理ノトキ下戻未渡金受拂合計書ニ添ヘ出納局ヘ差出スヘシ

第十二條 (條改)

(舊第十一條ノ通り)

金員送納條例

第一條末文(且爲替方ノ請願ニ依リ手限現送ヲ許可スルコトアルヘシ)ノ二十四字ハ(尤爲替方ノ都合ニ依リ手限現送ヲ爲スハ苦シカラス)ノ二十三字ニ改ム

第四條中(送納先ノ三字ハ)振込店ノ三字ニ改ム

第九條 (正改)

預金ノ内爲替送納ノ令達ヲ受ケタル分ノ都合ニヨリ手限現送ヲナスモ出納局ニ於テハ爲替納ト同視スヘキモノニ付爲替手数料ヲ給シ其他ノ費用ハ一切給與セサルヘシ  
抵當條例

第三條 (正改)

抵當ハ爲替方毎ニ其額ヲ定メ年計預金ノ多寡ニ隨ヒ差等アルヘシ且抵當額ハ毎年十二月ヨリ翌年三月迄ノ四箇月間ノ預ケ額十分ノ一ヲ以其本額ト定メ以降更ニ毎四箇月間預ケ額ノ多寡ニ依リ右ノ比準ヲ以本額ヨリ減省スヘシ故ニ其都度出納局長ヨリ令達スルモノトス尤該局長ノ見込ニ依テハ或ハ之ヲ減省セサルコトアルヘシ  
給與條例

第一條 (正改)

爲替方ヲ命スルトキハ預ケ金ノ額ニ依テ保險料ヲ給ス即チ一週年間預ケ金總額三十萬圓迄ハ五百圓ヲ給シ其以上ハ金額一萬圓毎ニ千分一ヲ給スハ先ツ三萬圓ニ對スル保險料五百圓ニ限セ七百萬圓ヲ給スヘシニ尤萬圓未滿ノ額ハ除算シ又百萬圓以上ノ額ニハ増給セサルヲ則トス

但保險料ハ前年度實收額ニ據リ算出シテ給スルモノトス

第二條中(二錢ヨリ二錢五厘迄)ノ九字ヲ(二錢五厘)ノ四字ニ改ム

第九條中(海關稅ヲ除キ)ノ六字ヲ删除ス

帳簿計表條例

第一條ノ末ヘ左ノ三行及ヒ本文中十ノ下(三)ノ字ヲ加フ

過誤納下戻未渡金差引帳

過誤納下戻未渡金差引帳

過誤納下戻未渡金受拂合計書

第九條 (正改)

過誤納下戻通知切符(一ニ乙切符ト稱ス)ハ過誤納金ノ下戻ヲ要スル時收稅委員ヨリ爲替方ニ送付スルモノニシテ爲替方ハ之ヲ受ケ其切符面ノ金高ハ預金部ヲ拂出シ未渡金ノ部へ受入レ置納人下房切符ヲ持參スル時之ト照合シテ未渡金ノ内ヨリ拂渡シ而シテ右ノ兩切符ヲ連綴保存スルモノトス其様式第八圖ノ如シ

第十二條 (加道)

下戻未渡金差引帳ハ爲替方ニ於テ下戻通知切符ヲ得タル時該切符一葉毎ニ受入下戻切符ヲ以テ現金拂渡ノ節又一葉毎ニ拂出シ差引勘定ヲナシ出納局へ呈出スル未渡金差引表ノ原帳トナスヘシ其様式第十一圖ノ如シ

第十三條 (加道)

下戻未渡金差引表ハ未渡金差引帳ニ據テ製スルモノニシテ前條受拂アル毎ニ出納局へ呈出

シ未渡金受拂高及殘高ヲ報告スルモノトス其様式第十二圖ノ如シ

第十四條 (加道)

下戻未渡金受拂合計書ハ前條未渡金差引表ノ三箇月分ヲ合計シ勘定證書面下戻金ノ勘定ヲ明カニシ而シテ該三箇月間ニ於テ現金渡濟ノ通知下戻兩切符ヲ添へ差出スモノトス其様式第十三圖ノ如シ

(圖中追加更正及ヒ圖ハ略ス)

大藏省爲替方當務心得(明治三十三年十一月二十七日制定)

第一項 大藏省爲替方條例ニ據リ出納本局ニ於テ之ヲ管轄スル勿論ナリト雖モ取締上便宜ノ爲メ本局及各出張所ノ向寄ニ隨テ爲替方ノ所管區畫ヲ假定スル左ノ如シ

本局直管

- 東京府下 神奈川縣下 新潟縣下
  - 埼玉縣下 群馬縣下 千葉縣下
  - 茨城縣下 栃木縣下 三重縣下
  - 愛知縣下 靜岡縣下 山梨縣下
  - 岐阜縣下 長野縣下
- 大阪出張所々管
- 京都府下 大阪府下 兵庫縣下
  - 堺縣下 澁賀縣下 石川縣下
  - 島根縣下 岡山縣下 廣島縣下
  - 山口縣下 和歌山縣下 徳島縣下

高知縣下 愛媛縣下

仙臺出張所々管

- 福島縣下 宮城縣下 岩手縣下
  - 青森縣下 秋田縣下 山形縣下
- 長崎出張所々管
- 長崎縣下 福岡縣下 大分縣下
  - 熊本縣下 鹿兒島縣下

第二項 出張所々管ノ爲替方ニテ帳簿記載方其他例規アル廉ニ於テ質疑ヲ爲スヘキ分ハ本局長名宛ヲ以テ所管ノ出張所へ伺書ヲ差出スヘシ定規アルモノハ出張所首長ノ名印ヲ以テ直ニ指令スルコトアルヘシ

第三項 爲替方預リ金配賦並配賦先變換方及ヒ抵當品増減交換等ノ事項其他例規外ノ諸願伺書ハ必ス直ニ本局へ呈出スヘシ

第四項 爲替方諸願伺書ハ正副二通ヲ差出スヘシ

第五項 爲替方受持區域内ノ郡區長印鑑ヲ請求シテ其參照ニ供スヘシ

第六項 局長及ヒ所管ノ出張所首長印鑑並收稅委員印鑑ハ本局ヨリ下付スヘシ

第七項 爲替方印鑑類ハ總テ一ト通リツ、本局並所管ノ出張所へ差出シ又金錢受渡主任ノ者印鑑及ヒ計表等へ用ユル印鑑ハ收稅委員へ二通(内一通ハ差出スヘク且又金錢受渡主任者印鑑並納稅切符等へ割印スル印鑑ハ府縣廳及爲替方受持區域内ノ各郡區役所へ一通ツ、差出シ置ヘシ尤金錢受渡主任交代又ハ改印等ノ節ハ其旨ヲ記シ速ニ前記ノ各所へ差出スヘシ

第八項 二名以上連帶ヲ以テ一收稅區域ノ爲替方ヲ勤ムル者爲替方ノ事ニ關シ諸願伺届等ノ書面ヲ差出ストキハ必ス連署タルヘシ

第九項 爲替方ニ於テ爲替方本店及出張場所ヲ其市街又ハ町村内ニテ移轉セントスルトキハ移轉當日ヨリ凡三十日前ニ移轉スヘキ地番號及金庫家屋等ノ繪圖面ヲ以テ本局ヘ伺出指令ヲ得テ後チ移轉スヘキモノトス

但水火災等ニ罹リ移轉セサル可ラサルハ其移轉向キ地番號及金庫家屋等ノ繪圖面ヲ以テ速ニ本局竝所管ノ出張所ヘ届出ヘク且其地番號ヲ府縣廳及ヒ收稅委員ヘ届出ヘシ

第十項 預金令達現送及手限現送トモ一日十里詰ヲ以テ旅中ノ日數ヲ計リ一曜日數ハ著翌日若シハ翌々日上納スルモノトス若シ又途中ニ於テ川留雪支等アリテ遲達セシトキハ其地戶長又ハ警察本分署或ハ通運會社ノ證書ヲ以テ其事由ヲ詳明シ送納向キヘ申立ヘシ

第十一項 預ケ金幅帳又ハ多額等ニシテ當日鑑定シ能ハサル分ヲ其納人ヨリ假預ケニ爲サント乞フ者アラハ別ニ一帳簿ヲ製シ之ニ記載シ假預リ證書ヲ交付シテ後チ預リ置クモ若シカラス然リト雖モ此假預リハ三日ヲ過クヘカラス

第十二項 收稅委員ヘ差出ス隔日報告表ハ預入金有之毎日之ヲ調製シ二日分ヲ纏メテ其翌朝差立ルモノトス且此報告表ハ收稅委員ニ於テ一箇月三度ノ月及二十日ハ其和日ニ句切リ調査スルモノナレハ譬ヘハ出張場所ニテ初旬内ノ預リ金報告其翌旬ニ至リ爲替方本店ヘ到達スルトキハ初旬報告ノ追加トシテ別表ヲ製シ收稅委員ヘ送付スヘシ尤出張場所二箇所以上有之分数箇所ノ出張場ヨリ到達セル初旬分ノ預入高ハ一紙ニ掲ケ報告スルモ妨ケナシ

第十三項 預金旬日合計書ハ本店出張場所ヲ併セ一旬間ノ預リ高ナレハ該一旬間ニ於テ過誤納下戻アルトキハ其高ヲ減シ殘額ヲ合計ニ掲ケ下戻高ヲ外書ニナスヘシ

第十四項 爲替手数料荷造運搬費出張場所往復手當及保險料等ハ總テ毎年六月十二月兩度ニ下付スヘキモノトス故ニ毎項別紙ノ領收證書ヲ以テ本局ヘ請求スヘシ尤證書金員ノ側ニ何年度(會計年度ヲ云即チ甲年七)上下半期(十二月度ノ分ハ上半期六)分ト記載スヘシ

第十五項 各帳簿ハ一週年毎ニ新帳ヲ製シ之ニ記入スヘシ且帳簿計表等ノ番號モ亦之ニ準シ一週年毎ニ改ムルモノトス

第十六項 爲替方納金預入條例第六條ニ掲ケタル元帳番號ト同一ノ頭字番號ヲ納稅切符納金證書等ノ金員ノ右傍ニ朱書スヘシ

第十七項 預リ金元帳誤記及過誤納下戻竝切符證書等遺失紛失燒失ノ節訂正方ハ第一圖々式ノ通り心得ヘシ若シ又右ニ照準シ難キ事故アル分ハ其時々取扱方伺出ヘシ

第十八項 收稅委員ヘ送付セシ隔日報告表中金員郡區名等ノ相違發見スルトキハ更正ノ報告表ヲ差出シ最初ノ分ハ取消ヲ乞フヘシ

第十九項 收稅委員ヘ報告セシ旬日間預リ高ニ相違ノ廉アルトキ更正ノ旬日合計書ヲ以テ最前ノ分ト引換ヲ乞フヘシ

第二十項 預金拂出條例第七條ニ掲ケタル納付證票拂渡證票竝同第十條ニ掲ケタル收稅委員下戻切符同通知切符共都テ其裏面ヘ現金渡濟ノ印ヲ捺シ各連綴シタル上ハ日々第二圖ノ書式ニ據リ日計ヲ爲シ日締帳記載ノ便ニ供スヘシ

- 第二十一項 配賦證票ハ收入見込高ヲ以テ相達スルモノナレハ現實收入額ニ對シ増減ヲ生スヘキニ付其増減額ハ證票面末筆則本局又ハ出張所納ノ内ヲ以テ増減アルヘキモノトス
- 第二十二項 内預ケヲ爲シタル金員追テ完納トナルトキハ第二圖書式ノ通り右ニ對スル納稅切符納金證書ノ裏面ヘ記載割印スヘシ
- 第二十三項 爲替方ニ於テハ未納不納等ハ一切問ハサルモノトス故ニ納稅切符又ハ納金證書ニテ預ケ入ル時ヲ以テ完納ノモノト認定スヘシ
- 第二十四項 出張所々管ノ爲替方ニ於テハ定例ノ報告外ニ毎月三回日十一日二十一日第四圖書式ノ預金受拂報告書ヲ製シ其所管ノ出張所ヘ報告スヘシ  
但本文報告書差立後ニ於テ誤記違算等發覺セハ更正ノ分ヲ差出最前ノ分ハ取消ヲ乞フヘシ
- 第二十五項 預金受拂日締帳及同日計表ハ條例ノ書式ニ準シ西洋式簿記ト爲スモ苦シカラス尤此場合ニ在テハ先ツ書式ヲ製シ二三日分ノ記帳方ヲ顯ハシ以テ本局ヘ伺出ヘシ
- 第二十六項 定例ノ帳簿ノ外補助簿トシテ第五圖書式ノ如ク預金年度譯帳ヲ製スヘシ是ハ各元帳ノ日計及出張場所報告ニ依リ記入スルモノトス
- 第二十七項 前項年度譯帳ニ就テ第六圖書式ノ通り預金年度譯日計表ヲ製シ預金受拂日計表ト共ニ毎日本局ヘ呈出スヘシ
- 第二十八項 出張場ヨリ爲替方本店ヘノ報告表ハ別ニ雛形ヲ示サ、ルニヨリ本局並所管出張所及收稅委員等ヘノ報告ニ差支ヘサルヲ目途トシ爲替方ノ適宜ヲ以テ之ヲ製スヘシ

- 第二十九項 抵當條例第四條ニ掲クル抵當品明細仕譯書ハ第七圖書式ニ據ルヘシ  
但交換ノ節差出ス分モ本文ニ準スヘシ
  - 第三十項 第一圖元帳日計ノ下ニ記載スル年度分界ハ營ヘハ十三年七月ヨリ十四年六月迄ヲ十三年度トス故ニ其年度内ニ預ケ入ル、金員該切符證書等ニ十三年後半期或ハ十四年前半期分ト掲載セルモノハ十三年度本分ナレハ十三年度ニ屬スルハ勿論ナリ而シテ十四年七月ヨリ十五年二月迄ニ十三年度分ヲ追納スルモノハ尙十三年度ニ組入レ十五年三月以後追納ノ分ハ預ケ入レノ日相當ノ年度十五年三月ヨリ十五年六月迄ニ預ケ入レノ分ハ十四年度ヘ組入レ報告スヘシ又十四年度分ヲ十四年六月以前ニ於テ繰上ケ預ケヲ爲スモノアラハ其金員ハ十四年度分トシテ報告スヘシ
  - 第三十一項 前項ニ述ル所ノ預ケ金年度區分方ハ納期アルモノハ其納期ニ依リ是レヲ識別シ納期ナキモノニシテ單ニ何年分ト記スルモノ、如キハ何年何月分ナルヲ納者ニ質シテ其年度ヲ元帳ニ記入スヘシ若シ納者ニ於テ之ヲ辯明シ能ハサルトキハ年度不分明ナル旨ヲ帳簿ニ記載スヘシ (第一圖ヨリ七圖迄書式略ス)  
大藏省爲替方當務心得ノ内更正追加 (明治十四年六月十四日)
- (更正)
- 第七項中各郡役所ヘ一通ツ、ノ下ヘ差出スヘキ分取束ネ收稅委員ヘノ十四字ヲ加フ
  - 第十三項 預金旬日合計書ハ本店及出張場所ヲ併セ一句間ノ預リ高ナレハ該一句間ニ於テ過誤納下戻アルトキハ其高ヲ減シ殘額ヲ合計ニ掲ケ下戻高ヲ外書ニ爲シ毎月十日二十日三十

日大ノ月及ニニ收稅委員へ差出スヘク又出張場所預リ金報告翌旬ニ至リ爲替方本店へ到達ノ分ハ之ヲ集計シテ合計書ノ追加ヲ製シ何月何旬分ノ追加ナル旨ヲ記シテ之ヲ差出スヘシ但合計書及合計書追加別合計書ニ別掲ケタル島嶼ノ分ヲ云々共通シテ順次ニ番號ヲ記入スヘシ

第十四項中領收證書ノ四字ハ「任譯書」ノ三字ニ改ム

第十五項 各帳簿ハ一週年毎半年七月三十一日ヨリ翌年六月三十日マテ毎ニ新帳ヲ製シ之ニ記入スヘシ且帳簿計表等ハ番號モ亦之ニ準シ一週年毎ニ改ムルモノトス

但西洋式帳簿ニ限り一週年毎ニ新帳ヲ製スルニ及ハス

第十八項 收稅委員へ送付セシ隔日報告表中金員郡區名等ノ相違發見スルトキ金員不足ノ分ハ隔日報告表ノ追加ヲ製シ表面へ何月何日分ノ追差出スヘク又金員過剩ノ分或ハ郡區名誤記ノ分ハ其金員郡區名及其事由等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ收稅委員へ申報シ而テ右報告表ノ控へ其金員事由等ヲ朱書スヘシ

第十九項 收稅委員へ差出セシ旬日合計書金員ニ不足アルトキハ其金員ヲ旬日合計書追加トシテ差出スヘク若シ又超過ノ金員アルトキハ其事由ヲ該委員へ申立金員ノ下戻ヲ乞ヒ何月何日合計書金員若干ノ下戻ヲ乞フ旨ノ書面ヲ收稅委員ノ承認ヲ得其後差出スヘキ旬日合計書へ過誤納下戻ノ書式ニ準シ其金員ヲ外書ニ列記シ其下へ何月何旬上旬中下旬ノ合計書へ記載過ノ分ト記シテ差出スヘシ而テ右ノ誤謬ヲ發見シ前述ノ手續ヲ爲シタルトキハ何月何旬合計書預リ高又ハ下戻高何程記載過又ハ不足有之ニ付何月何旬ノ合計書ニ於テ更正シタル旨

別段本局へ申立ヘシ

(新規追加)

第三十二項 爲替方預リ金ノ内金銀貨洋銀古金銀等アルトキハ其種類員數等ヲ預金元帳金員及同計金ノ傍へ朱書シ別ニ補助簿ヲ製シ爲替方ノ適宜ヲ其受拂ヲ詳記スヘシ而テ右出入有之日ニ限り別表ヲ以テ其種類金額受拂ハ本局又ハ何處出張所納又高ヲ申立ヘク且又旬日合計書金員ノ内譯ニ其種類金員等詳細記入シ差出スヘシ

但洋銀古金銀ノ類ハ本局及仙臺出張所々管ノ爲替方ハ本局へ大阪長崎兩出張所々管ノ爲替方ハ大阪出張所へ速ニ送納取計フヘシ

第三十三項 收稅委員へ差出ス隔日報告表ハ逐次番號ヲ肩書スヘク且該表中内預リ金ノ儀ハ各郡區別ニ列載スヘシ

但報告表面野數不足等ニテ一紙ニ列載シ難キトキハ該表面へハ單ニ内預リ金トノミ記載金員合高ヲ掲ケ置其納向郡區譯ヲ別表ト爲スモ苦シカラス

第三十四項 内預リ未納ノ金員ハ前向表中本納ノ部へ組入報告スヘシ尤納稅切符又ハ納金證書持參ノ節現金ヲ添ヘスシテ單ニ疊日證印セシ内預ケ書付ノミヲ添ヘタル分ハ其未納金トナルヘキモノ既ニ内預リヲ以テ報告済ナレハ其分ハ本納部へ組替ノ報告ヲ爲スニ及ハス

第三十五項 前向表中府縣廳直納ノ區へハ地方廳ヨリ預ケ入ルモノ及人民ヨリ地方廳へ直納スヘキモノ人民ヨリ地方廳へ直納スヘキモノ地方廳ニ同ヒ之ニ據リテ區分スヘシ又山林局直轄收入金ノ預ケ入アルトキハ同表ノ末へ山林局直轄收入ノ題號ヲ設ケ之ニ記載スヘシ

第三十六項 出張場所ヨリ日々郵送セル預金報告本店へ到達ノ上ハ速ニ日締帳ニ記入シ而テ該金員ハ日締帳記入ノ月ノ配賦證票ニ對シ各地へ送納取計フヘシ

第三十七項 預金旬日合計書記載方ハ第十三項ノ通りナリト雖モ受持區域内渡海不便ナル島嶼ニ出張場所新潟ノ相川長崎ノ豊原福江伊萬里ノ武生水ノ如キアル爲替方ハ其島嶼ニ限り別合計書トナシ其一句分報告到達毎ニ調製シ何月何旬分ナル旨ヲ記シ差出スヘシ

第三十八項 過誤納金ノ儀ハ下戻ノ順序ヲ經スシテ其納者ヨリ直チニ下戻ノ儀ヲ要求スルコトアルモ爲替方ハ之ヲ受理スヘカラス尤預ケ入即日過誤納ノ儀發見シ元帳締上ケ前ニ於テ下戻請求ノ分ハ現金ヲ拂渡シ元帳金員其他總テ朱ノ二線ヲ畫シ其傍へ消却ノ事由ヲ朱書スヘシ

第三十九項 帳簿計表條例第八條ニ掲ケタル納付證票爲替方へ到達セハ其證票面ニ對スル金員ハ何時拂渡證票ヲ以テ受取方申込ムトモ渡方ニ差支ヘサル様注意スヘシ

第四十項 本局へ差出ス預金受拂日計表ノ儀ハ日締帳ノ寫ヲ日々差出スモノナレハ更正受拂ノ分ト雖モ之ヲ取捨スヘカラス

第四十一項 預リ金受拂勘定證書ハ日締帳ニ據テ現實受拂ノ正額ヲ掲ケ二通二通トモ印スヘシ調製シテ差出スモノトス故ニ日締帳誤記元帳ノ誤記ヨリ起ル訂正ノ爲メ受拂現金ニ關セシタル分ハ之ヲ元額ヨリ除算シ其正額ノミヲ掲クヘシ

第四十二項 過誤納下戻ノ内最前預ケ入ノ月日及納稅切符納金證書ノ番號等ヲ掲サル通知下戻ノ兩切符ヲ收稅委員ヨリ發遣スルコトアリ尤此分ハ預ケ人ノ何某タルヲ問ハス總テ郡區長へ下戻スルモノナルヲ以テ毎項金員ノ傍へ朱書スルヲ得ス故ニ日締帳拂出シノ日相當ノ元帳計金外へ金何程下戻切符第何號ヲ以テ下戻取計ヒタル旨ヲ朱書シ置ヘシ

抑モ爲替方ニ預入レタル金錢ノ拂出ハ爲替方條例中ノ拂出條例ニ據ラサル可ラスト雖モ非當已ムヲ得サルトキハ電信ヲ以テ拂渡ヲ命スルコトアルハ第八條ノ規定スル所ナリ仍テ十二月二十七日爲替方預ケ金電信爲替取扱順序ヲ定メ電信ニ由テ金錢ヲ交付スルトキニ於ケル順序ヲ規定セリ

預金電信爲替取扱順序

第一條 大藏省爲替方條例中預金拂出條例第八條ニ據リ電信ヲ以テ渡金ヲナストキハ出納局ヨリ第一圖ノ文例ニ據リ略語電信ヲ以テ達スヘシ爲替方ニ於テ此達ヲ得ルトキハ速ニ第二圖ノ文例ニ據リ電信ヲ以テ答ヲ爲スヘシ出納局ハ此答電信ヲマタス再ヒ第三圖ノ文例ニ依リ暗號電信ヲ爲シ爲替方ニ於テハ此兩度ノ電信ヲ證トシテ拂渡ヲ爲スヘシ尤此電信ハ電信規則第七號第三章ニ據リ官報ヲ以テ取扱フヘシ

第二條 電信ハ略語並ニ暗號ニ限ルヘシ故ニ此略語暗號ハ爲替方主任者ノ長タルモノ特ニ之ヲ取扱ヒ不取締ナキ様致スヘシ

但シ暗號及略語ハ別ニ達スヘシ

第三條 爲替方ニ於テ電信ニ依テ受取人へ現金ヲ渡シタルトキハ第四圖ノ文例ニ依リ電信ヲ



以テ出納局へ報告スヘシ

但略語暗號ニ及ハサルヘシ

第四條 電信ニ依テ現金ヲ渡ストキハ其受取人ヨリ第五圖ノ如キ假證書ヲ取置追テ出納局ノ拂ヒ出シ證書ト交換スヘシ

第五條 電信文中不審アルトキハ稟問スヘシ若シ此稟問ヲ怠リ爲メニ損失ヲ生スルトキハ悉皆爲替方ノ辨償タルヘシ

第六條 第一條第三條第五條第七條ニ於ケル電信料ハ別途交付スヘキニヨリ電信局ノ請取書ヲ添ヘ六月十二月出納局へ申出ヘシ

第七條 電信ヲ以テ配賦簿ヲ變換スルトキハ第一圖ノ文例ニ據リ略語ヲ以テ達スヘキニヨリ爲替方ハ第一條ノ手續ニ據リ第二圖ノ答書ヲ出スヘシ尤第三圖已下ノ手續ニ及ハサルヘシ  
(書式略ス)

是ヨリ先明治十三年十一月二十七日各地大藏省爲替方ニ對シ來ル十四年一月ヨリ大藏省爲替條例ニヨリ取扱致候ニ就テハ兼テ下渡置候命令書更正相違候迄該條例ニ牴觸ノ項ニ限り不用ト相心得可申旨令達セシカ十四年二月ニ至リ此ニ命令書案ヲ改正セリ

命令書案

何府管下何國何區何郡何村何番地

何 銀行

又ハ

何 會社

右大藏省爲替方ヲ命シ何府管下何區何郡何村ヨリ收納スヘキ國稅及ヒ稅外納金等ノ鑑定並納拂ヲ爲取扱候ニ付左ノ通相心得ヘシ

第一條

何府縣管下何處ニ於テ其收稅區域内ノ納金爲替方ヲ命スルニヨリ出納局長ノ指揮ニ遵ヒ取扱方之儀ハ都テ爲替方條例ニヨリ誠實ニ勤ムヘシ

第二條

爲替方ハ收稅區域ニヨリ放置スト雖モ地勢ニヨリ區域内遠濶ナルハ豫テ出張ヲ定メ置其爲替方ヨリ派出シテ預リ方ヲ取扱ハシムヘシ

第三條

預ケ金ノ高ハ其收稅區域前年度<sup>毎年七月ヨリ</sup>實收入ヲ以テ後年度ノ預ケ高ト定メ<sup>最初ノ一</sup>入ノ<sup>算</sup>之ニ對シ成規ノ抵當品ヲ徵收スヘシ

第四條

爲替方ニ於テ預リ金ヲ引負スルカ或ハ故ナク納金ヲ怠ルトキハ爲替方條例ニ因テ處分スヘシ

第五條

金錢受拂並預ケ金ノ保險ヲナサシムルニヨリ一週年ノ預ケ高ニ對シ成規ノ保險料ヲ下付スヘシ

第六條

爲替方へ下渡ス手数料ノ類ハ總テ六月十二月兩度ニ割合出納局ヨリ下付スヘシ

第七條

預ケ金ハ上納済迄如何様ノ事故アルトモ總テ爲替方ノ請負タルヘシ然ルト雖モ非常ノ變災ヨリ起ル損失ハ實際詮議ノ上處分スヘシ

第八條

此命令ハ何年何月幾日ヨリ何年何月幾日ヲ以テ限リトス滿期ニ至レハ預リ金ノ決算ヲ爲シ悉皆上納セシメ抵當品ハ下戻スヘシ尤滿期ニ至リ猶二箇年ヲ命スルコトアルヘシ年限中ト雖モ事故アル中ハ何時ニテモ放免シ預リ金ノ決算ヲ爲サシムヘシ

明治十四年五月四日大藏省爲替方當務心得ヲ改正追加ス次テ七月一日大藏省爲替方條例中ヲ加除更正シ納付證票ヲ拂渡案内證票ト改稱シ爲替方ノ預金勘定證書ヲ出納局長ニ進致シテ認可ヲ受クルノ際下戻未渡金受拂合計書ヲ進致セシムルモノトシ總則中抵當品ノ條ヲ改メテ爲替方ニ寄託スル金額ハ其收稅區域前年度毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ルノ實收入ヲ以テ其年度ノ寄託額トナシ以テ抵當品ヲ徵收ス而シテ其徵收増減變換等ハ總テ出納局長ノ指揮ニヨルモノトス又金額送納例規中ノ爲替方ノ請願ニ因リ手限現送ヲ許可スルヲ改メ爲替方ノ便宜ニ因リ手限現送ヲナスハ妨ケナシトス又抵當ノ例規中ヲ改メ抵當ハ爲替方毎ニ其額ヲ定ム故ニ年計預ケ金ノ多寡ニ從ヒ差等アリ且抵當額ハ毎年十二月ヨリ翌年三月ニ至ル四箇月間ノ預ケ額十分ノ一ヲ以テ其本額ト定メ其以降更ニ每四箇月間預ケ額ノ多寡ニヨリ此比準ヲ以テ本額ヨリ減省ス故ニ其每回出納局ヨリ達示スルモノトス又給與ノ例規中ヲ改メテ保險料ハ一週年間預ケ金總額三十萬圓以下ハ五百圓ヲ給與シ其以上ハ金額每一萬圓ニ千分ノ一ヲ給與シ一萬圓未滿ハ除算シ百萬圓以上ノ額ニハ増給

セス但シ保險料ハ前年度ノ實收額ニヨリ算出スルモノトシ又爲替手數料毎百圓毎十里ニ二錢五厘トナセリ又帳簿計表ニハ更ニ過誤納下戻未渡金差引帳、過誤納下戻未渡金差引表及同受拂合計書ノ三種ヲ増加セリ

同年九月十七日雜收入及諸返納金其他經費殘餘還納等ノ納付順序ヲ改正シ大藏省爲替方ニ寄託セシム因テ大藏省爲替方取扱順序ヲ改定シ其受寄ノ方法稅外諸收入金科目表ノ様式ヲ示セリ明治十五年六月十三日各廳現金管守並委託規則ニヨリテ管守スル各廳現金ノ收支ヲ料理セシムルカ爲メ各地ニ爲替方ヲ設置シ大藏省爲替方處分條款及現金取扱順序ヲ定ム其處分條款ノ規程ニヨレハ大藏省爲替方ハ大藏卿之ヲ命シ出納局ニ附屬セシメ預ケ金ニ對シ抵當品ヲ徵取ス而シテ該抵當品ハ公債證書若クハ之ヲ抵當トシタル貸金證書ニ限ルモノトス又預ケ金ハ如何ナル事故アリテ損失スルモ爲替方ヲシテ辨償セシメ若シ速ニ辨償シ得スト認ムルトキハ抵當品ヲ公賣シ其價金ヲ以テ償還ニ充テ尙ホ不足アラハ其資產ニ付テ追徵シ且ツ其處分ヨリ生スル所ノ費用モ亦辨償セシム但シ非常ノ變災ニシテ防禦シ克ハサリシ證據アレハ査覈ヲ經テ處分ス又爲替方ニハ其預金額ニ應シテ保險料ヲ給與シ爲替回送ヲ命スル時ハ其手數料ヲ給與スルモノトス

- 一 支拂基金 支拂基金ハ出納局ヨリ現金又ハ出納本支局府縣又ハ他ノ大藏省爲替方ノ拂出切符又ハ銀行等ノ爲替券ヲ以テ之ヲ送致スヘキカ故ニ爲替方ハ直ニ現金ヲ受取リ其經費所屬廳へ報告スヘキモノトス
- 二 支拂順序 會計主務官ニ於テ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ現金受取人ニ交付シ乙號

ヲ案内トシテ爲替方ニ送付スヘシ爲替方ハ甲號切符ヲ以テ現金ヲ請求スルモノアルトキハ案内切符ト對照シ支拂ヲナスヘシ若シ正當切符ト認メ難キモノアラハ現金ヲ渡サス出納局ノ指揮ヲ受クヘキモノトス

三 返納金 返納證書ヲ添ヘテ現金ヲ返納スルモノアルトキハ現金ヲ受領シ返納證書ハ與書證印ノ上返戻スヘク且別ニ管守證書ヲ其應ニ發ス而シテ其現金ハ之ヲ支拂基金トス

大藏省爲替方現金取扱順序

第一條 出納局ヨリ金錢ヲ送致セシトキハ爲替方ニ於テ第一圖ノ回金領收證書ヲ出納局ハ返送スヘシ

第二條 送致スル金錢ハ出納局ノ便宜ニ因リ出納支局若クハ府縣若クハ他ノ大藏省爲替方拂出切符又ハ銀行等ノ爲替券ヲ用ユルコトモアルヘシ

第三條 爲替方ニ於テ前條送致ノ現金ヲ領收シタルトキハ帳簿ニ記入シ即日其受拂ヲ爲スヘキ應ヘ報知スヘシ但拂出切符又ハ爲替券ハ現金ノ取付ヲ怠ル可カラス

第四條 拂金ハ會計主務官ニ於テ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ現金受取人ニ渡シ乙號ヲ案内トシテ爲替方ヘ送致スヘシ

第五條 爲替方ニ於テ乙號切符ヲ得ルトキハ之ヲ保存シ置キ追テ現金受取ノモノ甲號切符ヲ持參スルトキ乙號切符ニ照シ現金ヲ交付スヘシ但萬一不審ノ切符ヲ持參スルモノアルトキハ渡方ヲ見合セ其事由ヲ取糺シ出納局ヘ具申シ指揮ヲ請フヘシ

第六條 其應ヘ返納スヘキ金錢ハ其應ノ返納證書ヲ添ヘ納人ヨリ爲替方ヘ持參スヘシ然ルト

キハ其返納證書ハ與書證印ノ上返戻シ管守證書ヲ其應ヘ差出スヘシ現金ハ返納受入トシテ再ヒ經費金ニ加算スルモノトス

第七條 其應經費外ノ金錢ヲ一時爲替方ヘ預ケ入ルコトアルトキハ其應ヨリ預ケ入書面ノ現金ニ添ヘ送致スヘシ爲替方ハ之ヲ雜入金トシテ受入第二圖ノ預リ證書ヲ交付スヘシ又過納等ニテ拂出ヲ要シ前ノ預リ證書ニ第三圖ノ如ク裏書證印シテ送致スルトキハ之ト引換ニ現金ヲ拂渡スヘシ尤此ノ預ケ金ハ何人ノ持參スルモ總テ其應ヲ預先トスヘシ又其應ヨリ經費金殘餘ヲ大藏省ヘ還納スルトキハ爲替方ヘ仕拂切符ヲ送付スルニヨリ爲替方ハ普通拂金ノ順序ヲ以テ經費金ヲ拂出シ更ニ預入ノ順序ヲナスヘシ

第八條 爲替方ニ於テハ現金ノ受拂ヲ計算スル爲メ左ノ帳簿計表ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

(第四圖) 經費金受拂簿

(第五圖) 未渡金受拂簿

(同) 雜入金受拂簿

(第六圖) 經費金差引簿

(同) 未渡金差引簿

(同) 雜入金差引簿

(同) 經費金差引簿

(同) 雜入金應別簿

(第七圖) 報告表

(同) 決算表

- 第九條 經費金受拂簿ハ領收證書若クハ管守證書ノ原符ニ據リ受入ノ部ニ記載シ又其應ヨリ送付スル乙號切符ヲ以テ拂出ノ部ニ記載スヘシ(此拂出ノ部ハ其番號ノミヲ摘要ニ區分シ)
- 第十條 未渡金受拂簿ハ乙號切符ヲ以テ必ス一廉毎ニ之ヲ受入ノ部ニ記載シ又現金渡濟ノ甲號切符ヲ以テ拂出ノ部ニ記載スヘシ(此拂出ノ部ハ其番號ノミヲ摘要ニ區分シ)但拂出ノ部ニ記載シタルモノハ一廉毎ニ曩日受入ノ部ニ記載アル處ニ溯リ照合シテ一々渡濟ノ月日ヲ其受入ノ部ニ記入スヘシ(其月日記入未濟ノ廉ナラハ即未渡金殘高内譯ニ當ルモノトス故ニ其)
- 第十一條 雜入金受拂簿ハ預リ證書原符ニ據リ一廉毎ニ受入ノ部ニ記載シ又曩ノ預リ證書裏書アルモノニヨリ拂出ノ部ニ記載スヘシ但其拂出ノ部ニ記載シタルモノハ一廉毎ニ曩日受入ノ部ニ記載シタル處ニ溯リ照合シテ一々渡濟ノ月日ヲ其受入ノ部ニ記入スヘシ(其月日記入未濟ノ廉ナラハ即未渡金殘高内譯ニ當ルモノトス故ニ其)
- 第十二條 經費金差引簿及未渡金差引簿雜入金差引簿ハ何レモ其受拂簿ニ據リ各金種類ヲ拾算シテ(金貨一圓銀貨補助銀貨洋銀ハ其種類別ヲ區別シ新銅貨舊貨紙幣)記載スヘシ(種類ノ殘高ヲ併算シテ受拂簿殘高ニ但一廉ノ取扱ニシテ應別簿ヲ置カサルトキハ經費金差引簿ニ限リ其事要ヲ類別(出納局ヨリ同金受入)記載スヘシ
- 第十三條 經費金應別簿及雜入金應別簿ハ其受拂簿ニ據リ應別ニ拾算シテ記載ス(記載ノ殘高ヲ併算シテ受拂簿殘高ニ)尤經費金應別簿ハ其事要ヲ類別(出納局ヨリ同金受入)記載スヘシ但應別簿ハ二應以上取扱爲替方ニ置モノトス
- 第十四條 報告表ハ差引簿(二應以上ノ取引ナルトキ)ニ據リ每五十ノ日(大ノ月及ニ)之ヲ作り翌日其地ヲ發シ出納局ニ差出スヘシ
- 第十五條 決算表ハ差引簿(二應以上ノ取引ナルトキ)ニ據リ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル決算表二通ヲ作り七月十五日迄ニ其地ヲ發シ出納局ニ差出スヘシ出納局長ハ其一通ヘ第八圖ノ如ク裏書ヲナシテ返戻スヘシ之ヲ以テ一週年取扱ノ現金決算ヲ了シタル證トス
- 第十六條 地方ヘ遞送金アルトキハ其應ヨリ支拂切符又ハ裏書シタル預リ證書ヲ送付シテ遞送方ヲ請求スヘシ然ルトキハ普通拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ更ニ第九圖ノ遞送證書ヲ差出シ置便宜遞送ヲナシ其送先領收證書ヲ得テ曩ノ證書ト交換スルモノトス但遞送金ハ爲替方ニ於テ適宜書留簿ヲ設ケ送リ先金員等ヲ記載シ置クヘシ
- 第十七條 爲替方ニ於テ現金渡濟ノ切符ハ簿記既了ノ後甲乙號共渡濟ノ印ヲ捺シ連續シテ之ヲ保存シ出納局長證印濟ノ決算表ヲ得タル後其一箇年分ヲ取束保存シ置クヘシ
- 第十八條 爲替方ハ其店ニ於テ金錢ヲ保管シ而シテ日々其應ヘ出張シテ受拂ヲ取扱フモノトス尤多額ノ仕拂金授受ノ便宜ニ寄ルカ又ハ退廳後至急ヲ要スル仕拂金ハ其店ニ於テ取扱フコトヲ得但名代人及金錢取扱人ノ姓名印鑑ヲ出納局及其應ヘ差出シ置クヘシ
- 第十九條 爲替方ニ於テ金錢ヲ封緘スルハ其様式ヲ定メ置異様ノ封緘ヲ爲スヘカラス但シ他ヘ對シ封緘ノ儘授受スルヲ許サス尤互ニ其封緘ヲ信用シテ授受スルハ便宜ニ任スト雖モ開封ノ上授受シタルモノト同視スヘシ
- 第二十條 現金及諸帳簿ハ臨時出納局官員ヲ派出シテ之ヲ檢査セシム時機ニヨリ他ノ官員ヲ

シテ検査セシムルコトアルヘシ然ルトキハ必ス其證據書ヲ持參スルモノトス  
(書式略ス)

同月二十日大藏省爲替方預ケ金電信報告及配賦ノ方法ヲ定メシヲ以テ預ケ金報告等ノ規程ヲ改正増補セリ

十二月十三日各廳管守金ノ收支ヲ取扱フ大藏省爲替方ヲ改メテ現金取扱方ト稱ス

後明治十六年ニ至リ七月一日以降日本銀行ヲシテ租稅其他ノ納金ヲ取扱ハシムルコト、セルヲ以テ六月十五日各地ニ國庫金取扱所ヲ設置シ爲替方ヲ廢止セリ

大藏省第三十八號 (明治十六年六月十五日)

府

縣

日本銀行へ國庫金取扱ヲ命シ漸次各地へ國庫金取扱所ヲ設置セシメ候ニ付テハ從來諸達書中大藏省爲替方ト記載有之廉ハ國庫金取扱所ト通視可致此旨相達候事

### 第二節 國庫金出納所

#### 第一款 國庫金取扱所

明治十六年四月二十七日日本銀行ニ國庫金ノ取扱ヲ命シ七月一日ヨリ之ヲ實施スルコト、ス是ニ於テカ六月十五日從來ノ爲替方ヲ廢シ各地ニ國庫金取扱所ヲ設置シ次テ現金取扱方ヲ置ク而シテ國庫金取扱所ハ納入機關ニシテ現金支拂所ハ支出機關ナリトス即チ明治十六年五月四日大藏卿ハ日本銀行へ本年七月一日以降各地方ニ於テ國庫へ收入スヘキ租稅其他ノ納金ヲ取扱ハシムルニ付國庫納金取扱順序ニ遵ヒ事務執行可致ト令達シ該取扱規程第一條ニ日本銀行ヲシテ此

順序ニ據リ取扱ハシムル事務ハ國庫へ收入スヘキ納金ヲ預リ之ヲ納付スルニ止マルモノトストセルニヨリテ國庫金取扱所ノ職務ノ納入取扱ニアリタルヲ知ルニ足ルヘシ今左ニ此取扱順序ノ要旨ヲ摘録セン

#### 一 納金

別ニ定ムル條規ニヨリ納者ハ納稅切符又ハ納金證書ヲ添ヘ現金ヲ持參スルヲ以テ取扱所ニ於テハ其現金ヲ受領シ該切符又ハ證書ニ式ノ如ク捺印シ領收濟ヲ證シ別ニ證書ヲ交付スルニ及ハス

#### 二 拂出

イ 普通拂出 預金ハ出納局長ノ達ヲ得ルニ非サレハ拂出ヲナス可ラス而シテ出納局ニ於テ預金ヲ支出セントスル時ハ拂出切符ヲ作り甲號ハ受取人ニ交付シ乙號ハ取扱所ニ回付シ之ヲ日本銀行ニ通達ス此ニ於テ受取人カ切符ヲ持參スルトキハ取扱所ニ於テハ甲乙ヲ對照シ現金ヲ交付ス

ロ 非常拂出 電信ヲ以テ拂渡ヲナストキハ出納局ニ於テハ直ニ電信ヲ以テ取扱所ニ達シ取扱所ハ金額姓名等ヲ對照シ假受取證ト引換ニ現金ヲ交付ス而シテ後日甲乙切符ヲ得ル時ハ切符ニハ渡濟ノ旨記載シ假受取證ハ之ヲ返付スヘシ

#### 三 下戻

イ 稅金 稅金ニ過誤納アリテ下戻ヲ要スルトキハ租稅局出張所ニ於テ下戻切符甲乙丙號三通ヲ作り其乙號ハ直ニ取扱所へ送ルヘシ而シテ過誤納者ハ其丙號切符及以前ノ納稅切

符又ハ納金證書ヲ郡區長ヨリ受取り持參スヘキニ付取扱所ニ於テハ彼此對查ノ上現金ヲ拂渡スヘシ

ロ 稅外金 稅外金ニ過誤納アリテ下戻ヲ要スルトキハ其納金關係ノ官衙ヨリ其金員及預入ノ月日納者ノ姓名等ヲ記載シタル下戻通知書ヲ取扱所へ送ルヘシ而シテ過誤納者ハ以前ノ納金證書ヲ持參スヘキヲ以テ彼此對照ノ後現金ヲ拂渡スヘシ  
國庫納金取扱順序

第一條 日本銀行ヲシテ此順序ニ據リ取扱ハシムル事務ハ國庫へ收入スヘキ納金ヲ預リ之ヲ納付スルニ止マルモノトス

第二條 大藏省ハ地方ノ納金區域及ヒ取扱所設置ノ場所ヲ定メテ之ヲ達スヘシ日本銀行ハ其指示セシ場所へ取扱所ヲ設置シ各事務ヲ區別シテ取扱フヘシ但各區域内へハ便宜其取扱所ニ屬スル出張場ヲ設置セシムヘシ

第三條 納金ハ國稅金領收順序又ハ雜收入金上納順序ニ由リ其納者納稅切符第一圖又ハ納金證書(第二圖)ヲ添へ持參スルモノトス取扱所ニ於テ納金ヲ預ルトキハ其切符又ハ證書ハ式ノ如ク捺印シテ領收濟ヲ證シ別ニ證書ヲ交付スルニ及ハサルモノトス

第四條 納者其納金ヲ預濟ノ後納稅切符又ハ納金證書ヲ紛失セシトキハ更ニ切符又ハ證書ヲ作り裏面ニ事由ヲ記載シ郡區長又ハ其納金ニ關係アル官衙ノ證印ヲ得テ持參スヘクニ付取扱所ハ割印帳金員ニ對照シテ更ニ式ノ如ク捺印スヘシ紛失再三ニ至ルモ亦同シ

第五條 取扱所ニ於テ預ル所ノ金錢ハ納者ノ目前ニ於テ鑑査スヘシ若厩造變造ノ金錢ヲ發見

スルニ於テハ明治九年太政官第五十七號布告ニ照シテ處分スルモノトス

第六條 預金ハ出納局長ノ達ヲ得ルニアラサレハ送納又ハ拂出ヲ爲スヘカラス過誤納下戻ニ限リ租稅局出張所又ハ郡區長若クハ其納金ニ關係アル官衙ノ通達ニ據テ拂出スヘシ但送納暨ヒ拂出下戻共日本銀行ニ於テハ納付トシテ勘定ヲ爲スモノトス

第七條 預金送納ハ出納局長ヨリノ達ニ隨ヒ各取扱所へ通達スヘシ但此通達ハ東京近傍取扱所ノ外電信ヲ以テスルモノトス

第八條 送納金ハ出納局長ヨリ特ニ現送ヲ達スルノ外總テ爲替ヲ以テスヘキモノトス但爲替取組難キ場合ニ在テハ手限現送スルコトヲ許ス

第九條 送納金ハ出納局長ヨリ特ニ期日ヲ指示スルノ外ハ其通達各取扱所へ到著ノ翌日ヨリ三日以内ニ發出スヘキモノトス(休日ハ順延)而シテ爲替送納ハ其手形到達翌日ヨリ三日目ヲ以テ納付期日トシ現送金ハ發出即日ヨリ一日十里詰ヲ以テ(端里數ハ一日トス)到著翌日ヲ納付期日トス但途中川留雪支其他ノ事故アリテ延著スルトキハ郵便局ノ證印又ハ戶長通運會社ノ證書アルニ於テハ納付猶豫スルコトアルヘシ

第十條 取扱所ニ於テ送納金ヲ發出シタルトキハ即日之ヲ日本銀行本店へ電報シ本店ヨリ出納局へ報告スヘシ(東京近傍ハ電報ニ及ハス)且第三圖ノ送金證票ヲ作り直ニ出納本支局へ郵送シ送金手形又ハ現金ハ日本銀行本支店ヲ經テ期日迄ニ該本支局へ納了スヘシ

但現金ヲ納付スルトキハ日本銀行本支店ニ於テ上納書ヲ添付スヘシ

第十一條 納金ハ有合ノ種類ヲ以テスルヲ許ス但金銀貨ハ必ス其種類ヲ以テ納ムヘシ

第十二條 出納局ニ於テ預ケ金ヲ拂金ニ振替諸方ヘ交付スルトキハ拂出切符第四圖ヲ作り其  
 甲印ハ受取者ニ交付シ其乙印ハ直ニ取扱所ヘ回付シ其旨日本銀行本店ヘ通達スヘシ而シテ  
 受取者甲印切符ヲ取扱所ヘ持參スルトキハ甲乙對照シテ現金ヲ交付スヘシ但交付済ノ切符  
 ハ渡済ヲ記スルモノトス

第十三條 電信ヲ以テ拂渡金ヲ爲ストキハ出納局ニ於テ切符ヲ振出スコト前條ノ如クシ且其  
 取扱所ヘ直ニ電信ヲ以テ相達スヘシ爾後報ス取扱所ニ於テ此電報ヲ得ルトキハ直ニ答信  
 ヲ爲シ而シテ受取者渡方ヲ請求スルトキハ其金額姓名等ヲ對查シ假受取證書第五圖ト引換  
 ニ現金ヲ交付シ其旨直ニ出納局ヘ電報スヘシ爾後甲乙切符ヲ得ルトキハ曩ノ電信達ニ照會  
 シ切符ヘハ何月何日ノ電信ニ據リ現金渡済ヲ記シ假受取證書ハ返付スヘシ

第十四條 税金ニ過誤納アリ下戻ヲ要スルトキハ租稅局出張所ニ於テ下戻切符第六圖ヲ作り  
 其乙印ハ直ニ取扱所ヘ送り而シテ過誤納者ハ其丙印切符並曩ノ納稅切符又ハ納金證書ヲ郡  
 區長ヨリ受取取扱所ヘ持參スヘシ取扱所ニ於テ切符ヲ得ルトキハ彼是對查現金ヲ拂渡シ切  
 符ヘ渡済ヲ記スヘシ尤下戻濟ノ上ハ納稅切符納金證書ハ割印帳ニ照シ曩ノ領收印ヲ塗抹シ  
 金額誤納ニ係ル分ハ改正ノ金圓ニ證印ヲ捺シ之ヲ返付スルモノトス但納稅切符納金證書ヲ  
 既ニ郡區長ヨリ租稅局出張所ヘ送致シタル後ニ過誤納ヲ發見セシ分ハ同出張所ニテ下戻切  
 符ニ其旨ヲ記スヘシ此場合ニ於テハ納者切符又ハ證書ヲ持參セサルヘシ

第十五條 稅外金ニ過誤納アリ下戻ヲ要スルトキハ其納金關係ノ官衙ヨリ其金圓暨ヒ預入ノ  
 月日納者ノ姓名等ヲ記載シタル下戻通知書ヲ取扱所ヘ送り而シテ過誤納者ハ曩ノ納金證書

ヲ其官衙ヨリ受取取扱所ヘ持參スヘシ取扱所ニ於テハ該證書ト通知書ト對查現金ヲ拂渡シ  
 證書ヘ渡済ヲ記シ尙割印帳ニ照シテ曩ノ領收印ヲ塗抹保存スヘシ

第十六條 過誤納金下戻ノ際其金額ヨリ預金不足ナルトキハ其旨ヲ斷リ置追テ下戻額ニ滿タ  
 ルトキハ拂出スヘシ但拂出スヲ得ルニ至ルトキハ過誤納者ヘ通知スルモノトス

第十七條 國庫納金ヲ取扱フ爲メニ設クヘキ帳簿計表左ノ如シ

- 納金證割印帳 第七圖
- 預金受拂帳 第八圖
- 預金受拂日計表 第九圖
- 預金受拂電信報告 第十圖
- 預金一句合計書 第十一圖
- 稅外金內譯表 第十二圖
- 預金受拂勘定證書 第十三圖
- 預金年度別表 第十四圖
- 未渡預金差引帳 第十五圖
- 未渡預金受拂勘定證書 第十六圖
- 誤記改正帳 第十七圖

第十八條 納金證割印帳ハ納金アル時一廉毎ニ之ヲ記入シ納稅切符納金證書ト割印シ預済ヲ

證スル日記ナリ其記式圖 尤此割印帳ハ租稅稅外ノ二部ニ分チ尙郡區役所ヲ區別シテ一冊ツ、  
 設クヘシ但出張場ヘ分置スル割印帳ハ其月ヲ經過ノ後之ヲ送致シテ取扱所ヘ供ヘ置者トス  
 第十九條 預金受拂帳ハ各割印帳ノ預金日計高ト送納暨ヒ拂出下戻ノ高ヲ記載シ日々受拂暨  
 ヒ殘高ヲ證明スル出納帳ナリ其記式圖 但出張場ニ於テ受入ヲ爲シタル分ハ毎日取扱所ヘ報  
 告シ其報告書到達ノ日ニ於テ之ヲ記入スルモノトスト雖モ必ス其出張場ニ於テ受入ヲ爲シ  
 タル月日ヲ加書スヘシ

第二十條 預金受拂日計表ハ受拂帳ニ據テ毎日之ヲ作り其記式圖 六日分ヲ取束ネ土曜日毎ニ  
 之ヲ發シ日本銀行本店ヲ經由シテ出納局ヘ差出スヘシ但電信報告ヲ爲サ、ル取扱所ハ毎日  
 差出スヘキモノトス

第二十一條 預金受拂電信報告ハ受拂帳ニ據リ其受拂額ヲ火曜、木曜、土曜日毎ニ日本銀行本店  
 へ電報シ本店ヨリ出納局ヘ報告スルモノトス尤兩日間預入無キ時ハ勿論假令預入アルモ其  
 高五百圓ニ滿タサルニ於テハ次ノ兩日分ト合算報告スヘシ假令ハ月曜、火曜ノ兩日預金五百  
 カ水曜、木曜ノ兩日預金五百圓ト合算シテ土曜日ニ報告スルモ其日高五百圓ニ滿タサル  
 預入ナキ日分ト合算報告スヘキモノトス又其兩日分ト合算シテ土曜日ニ報告スルモ其日高  
 ハ土曜日ニ於テシテ六日間預金下戻金ト報告スヘキモノトス又其兩日分ト合算シテ土曜日ニ  
 日月跨ニナルトキハ其末日及ヒ翌月一日ノ兩日ハ預入ノ有無ニ拘ハラズ每一日ニ報告シ翌  
 二日ヨリ兩日分ツ、報告スルモノトス

第二十二條 預金一句合計書ハ每一句間ノ租稅納金ヲ累計シ出張場ノ納金ハ其預若其句内ニ  
 下戻金アルトキハ之ヲ除算シテ外書ニ顯ハシ毎句後二日以内ニ之ヲ發シ租稅局出張所ヘ差  
 出スヘシ其記式圖 如シ尤稅外但出張場預入ノ分句内ニ報告到達セザルトキハ後日到達ノ  
 上追加合計書ヲ差出スヘシ

第二十三條 取扱所誤謬ヨリ生スル過不足金ニシテ既ニ租稅局出張所ヘ差出セシ一句合計書  
 金員ニ不足アリシトキハ其金員ヲ右合計書追加トシテ差出スヘシ又過剩ナルトキハ事由ヲ  
 該出張所ヘ申立其金員ノ下ケ戻ヲ請ヒ承認書(第八圖)ヲ得テ後日差出スヘキ合計書ニ過誤納下  
 ケ戻ノ例ニ倣ヒ除算スヘシ

第二十四條 一句間預入ノ金額過誤納下戻額ト同數若クハ不足ナルトキハ合計書差出スニ及  
 ハス其旨租稅局出張所ヘ届出ヘシ

第二十五條 稅外金内譯表ハ日計表稅外金ノ納入及ヒ下戻ノ内譯ヲ證明スルモノニシテ割印  
 帳ニ就キ一項毎ニ種目金員ヲ拔萃シ日計表ニ添付出納局ヘ差出スヘシ其記式圖

第二十六條 預金受拂勘定證書暨ヒ未渡預金受拂勘定證書暨ヒ未渡預金受拂勘定證書ハ何レ  
 モ六箇月一月一日ヨリ十二月三十一日マテ七ヲ以テ一期トシ毎期內ノ受拂額ヲ證明決算スルモ  
 ノニシテ何レモ二通ヲ作り其記式圖 其期限後十五日以内ニ各取扱所ヲ發シ日本銀行本店ヘ  
 送致シ本店ハ之ヲ得テ各與書證印ヲ爲シ其到達セシ日ヨリ十五日以内ニ出納局ヘ差出スヘ  
 シ誤譯違算アリテ期限内ニ差出スヘシト出納局ハ之ヲ審査シテ一通ハ保存シ一通ハ與書證印  
 シ能ハサルトキハ其旨ヲ申報スヘシ

第二十七條 預金年度別表ハ納金證割印帳ニ就キ日々ノ合額ヲ掲ケ其記式圖 日計表ニ添へ出



納局へ差出スヘシ

第二十八條 未渡預金差引帳ハ既ニ預金拂出下戻ノ順序ヲ了シ其現金追テ受取者へ交付スルマテノ別預金ヲ記載シ全ク現金ヲ受取者へ交付スルトキ拂ニ立ヘシ其記式圖未渡預金差引表ハ差引帳ニ據リ之ヲ作り出入アル毎ニ之ヲ發シ日本銀行本店ヲ經由シテ出納局へ差出スヘシ其記式圖ノ如シ但出納場ニ於テ下戻タル分ハ其時々取扱所へ報告シ其報告到著ノ日ニ於テ拂ニ立ヘシ

第二十九條 誤記改正帳ハ納金證削印帳ノ誤記又ハ違算アル該帳日計後ニ至リ發見シ之カ腹書ヲナシタルトキハ其事由及金員等ヲ詳細記載シ其記式圖後證ニ供スヘシ

第三十條 納金取扱ニ付給與金ノ科目左ノ如シ

- 一 納金取扱料
- 一 出張場手當
- 一 出張場手當並出張場預金遞送費
- 一 電信料

第三十一條 納金取扱料ハ各納區域ニ就キ支給ヲ定ルモノトス其割合左ノ如シ

- 一 一區域内ノ納額一年間三十萬圓迄ハ五百圓ヲ給ス
- 一 三十萬圓以上百萬圓迄ハ一萬圓毎ニ其金額千分ノ一ヲ給ス（譬如ハ納金年額五十萬圓ニ對スル取扱料五百圓ニ該二十萬圓ノ千分一即二百圓ヲ合セ七百圓ヲ給スルカ如シ）
- 一 三十萬圓以上ト雖モ一萬圓未滿ノ額ハ之ヲ除算シ百萬圓以上ノ額ハ之ヲ給セス
- 一 右給與額ハ每前年度ノ實納額ニ因テ算出スルモノトス

第三十二條 出張場手當金及出張場預金遞送費ハ左ノ割合ヲ以テ支給スヘシ

- 一 出張場手當ハ一箇所ニ付一月金十五圓ノ割ヲ以テ給ス
- 一 出張場預金ヲ取扱所へ遞送スル運搬諸費護送人往復旅費トシテ片道里程ニ付金二十五錢ヲ給ス但片道一里未滿ノ端里數ハ總テ勿捨トス
- 一 出張場預金ヲ取扱所へ遞送スルニ渡海ニアラサレハ至リ難キ場所ハ其海路ハ里程ニ拘ラス實費拂證書ニ據リ運搬費及護送人往復ノ船賃ヲ給ス尤渡海場前後ノ陸地ハ里程ヲ通算シテ前項ニ據リ給ス

第三十三條 送金手数料ハ左ノ割合ヲ以テ支給スヘシ

- 一 一ト口百圓未滿ハ里程ニ拘ラス金一錢ヲ給ス
- 一 一ト口百圓以上ハ百圓ニ付里程十里毎ニ金二錢五厘ヲ給シ其金員ニ端數アルモ此割合ヲ以テ給ス
- 一 一ト口百圓以上ノ金額ト雖モ里程一里以上十里未滿ハ百圓ニ付金一錢五厘ヲ給ス尤一里未滿ノ分ハ給セス
- 一 十里以上更ニ十里ニ及フ迄ノ端里數ハ總テ勿捨トス
- 一 故ラニ現金遞送ヲ命スルトキハ其荷造費並ニ護送人二名分ノ旅費ヲ給ス但荷造費運搬費ハ現費證書ニ據テ支給シ旅費ハ一人ニ付一日金六十錢ヲ給シ滯留スルトキハ日當金三十錢ヲ給スルモノトス

第三十四條 電信料ハ現費ヲ以テ之ヲ支給ス但支給スヘキ電信ノ種類ハ出納局ヨリ達スヘシ

第三十五條 納金取扱ニ付テハ前條々諸給與ノ外貨幣鑑定費ニ充テ千分一手數料ヲ納者ヨリ受領スルヲ許ス然レトモ官衙若クハ外國人ヨリノ納金ニ限リ受領スルヲ得サルモノトス

第三十六條 日本銀行ハ豫メ納金ヲ取扱フ役員ノ印鑑ヲ出納局暨ヒ納金關係アル官衙へ差出置クヘシ出納局暨ヒ官衙ハ其印章ヲ以テ納金授受ノ證據トス

第三十七條 出納局暨ヒ租稅局出張所其他納金關係アル官衙ノ印鑑ハ豫メ下渡置クヘシ日本銀行ハ納金取扱上ハ其印章ヲ證據トスヘシ

第三十八條 納付済ノ納稅切符納金證書ハ出納局又ハ租稅局出張所ヨリ廻付スヘクニ付取扱所ハ夫々元帳へ反照シ相違ノ有無ヲ届出ヘシ

(書式略ス)

各稅關ノ收稅金ハ從來爲替方ヲシテ之ヲ料理セシメ來リシカ明治十七年一月十五日國庫納金海關稅取扱順序ヲ定メ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲナサシムルコト、シ七月一日ヨリ之ヲ施行セリ而シテ該規定ハ大體ニ於テ曩ニ規定セラレタル國庫納金取扱順序ニ同シトス

一 納金

稅關ハ納金上納者ノ上納書ヲ海關稅取扱人ニ回付スルヲ以テ取扱人ハ其上納書ニ照シテ金錢ヲ領收シ上納書ニ捺印シテ領收ヲ證シ直ニ稅關ニ還付ス

二 拂出

預金ノ送納又ハ拂出ハ出納局長ノ達ニヨルヘク同局長ハ時トシテ電信ヲ以テ拂渡ヲ命ス

三 下戻

下戻金アルトキハ稅關ニ於テ下戻切符ヲ作りテ本人ニ下付シ取扱人ハ該切符ニ對シテ金員ヲ拂渡シ切符ニ渡濟ヲ記スヘキモノトス其他帳簿計表及給與金ニ就テ規定セリ

國庫納金<sup>海關</sup>取扱順序

第一條 大藏省ハ取扱所設置ノ場所ヲ定メテ之ヲ達スヘシ日本銀行ハ其指示セシ場所へ取扱所ヲ設置シ且取扱人ヲ稅關へ派出シ各其事務ヲ區別シテ取扱フヘシ

第二條 納金ハ納者ヨリ差出シタル書面ヲ稅關ヨリ取扱人へ回付スヘクニ付取扱人ハ右ノ書面ニ照ラシテ其金錢ヲ預リ其書面ニ式ノ如ク捺印シテ領收濟ヲ證シ直チニ稅關へ返付スヘシ

第三條 取扱人ニ於テ預ル所ノ金錢ハ納者ノ目前ニ於テ鑑査スヘシ若價造變造ノ金錢ヲ發見スルトキ外國人ノ納金ニ係ル分ハ稅關ノ指揮ニ據リ内國人ニ係ル分ハ明治九年第五十七號布告ニ照ラシ之ヲ處分スヘシ

第四條 預金ハ出納局長ノ達ヲ得ルニアラサレハ送納又ハ拂出ヲナスヘカラス尤下戻ニ限リ稅關長ノ通達ニ據テ拂出スヘシ但送納暨ヒ拂出下戻トモ日本銀行ニ於テハ納付トシテ勘定ヲナスモノトス

第五條 預金送納ハ出納局長ヨリノ達ニ隨ヒ各取扱所へ通達スヘシ取扱所ニ於テハ爲替又ハ現金ヲ以テ其指示セシ場所へ送納スヘキモノトス但爲替取組カタキ場合ニ在ツテハ手限り現送スルコトヲ許ス

第六條 送納金ハ出納局長ヨリ特ニ期日ヲ指示スルノ外ハ其通達各取扱所へ到達ノ翌日ヨリ

三日以内ニ發出スヘキモノトス（休日ハ而シテ爲替送納ハ其手形到達翌日ヨリ三日目ヲ以テ納付期日トシ現送金ハ發出即日ヨリ一日十里詰ヲ以テ一端日數ハ到達翌日ヲ納付期日トス但途中川留雪支其他ノ事故アリテ延著スルトキハ戸長又ハ通運會社ノ證書アルニ於テハ納付猶豫スルコトアルヘシ）

第七條 取扱所ニ於テ送納金ヲ發出スルトキハ送金證書第一圖ヲ作り其案内票ハ直ニ送納嚮ヘ郵送シ送金手形又ハ現金ハ上納票ヲ添へ送納嚮ヘ遞送シテ期日迄ニ納了スヘシ

第八條 送納金ハ必ス其種類ヲ以テ納ムヘシ但金銀正貨古金銀等ヲ除クノ外ハ有合ノ種類ヲ以テスルヲ許ス

第九條 出納局ニ於テ預金ヲ拂金ニ振替諸方へ交付スルトキハ拂出切符（第二圖）ヲ作り其甲印ハ受取者ニ交付シ其乙印ハ日本銀行本店ヲ經テ取扱所へ回付スヘシ受取者甲印切符ヲ取扱所へ持參スルトキハ甲乙對照シテ現金ヲ交付スヘシ但交付済ノ切符ハ渡濟ヲ記スルモノトス

第十條 電信ヲ以テ拂渡金ヲ爲ストキ出納局ニ於テ切符ヲ振出スコト前條ノ如クシ且其取扱所へ直ニ電信ヲ以テ相達スヘシ（兩同電報ス）取扱所ニ於テ此電報ヲ得ルトキハ直ニ答信ヲナシ受取者渡方ヲ請求スルトキハ其金額姓名等ヲ對查シ假受取證書（第三圖）ト引換ニ現金ヲ交付シ其旨直ニ出納局へ電報スヘシ爾後甲乙切符ヲ得ルトキハ曩ノ電信達ニ照會シ切符へハ何月何日ノ電信ニ據リ現金渡濟ヲ記シ假受取證書ハ返付スヘシ

第十一條 下戻金アルトキハ税關ニ於テ下戻切符（第四圖）ヲ作り之ヲ本人へ下付スヘクニ付取

扱人ハ右ノ切符ヲ持參スルモノアルトキ豫テ下渡置タル印鑑ニ照ラシ差違ナケレハ其金員ヲ拂渡シ切符へ渡濟ヲ記スヘシ

第十二條 海關稅ヲ取扱フ爲メニ設クヘキ帳簿計表左ノ如シ

納金證割印帳

第五圖

預金受拂帳

第六圖

預金受拂日計表

第七圖

預金一句合計書

第八圖

預金受拂勘定證書

第九圖

誤記改正帳

第十圖

第十三條 納金證割印帳ハ納金アルトキ一廉毎ニ之ヲ記入シ税關ヨリ回付シタル書面ト割印シ領濟ヲ證スル日記ナリ（其記式圖）尤モ割印帳ハ海關稅料出入港手數料雜入稅倉庫收預リ稅ノ二部ニ分チ一冊ツ、之ヲ設クヘシ但納稅者ニ於テ預リ稅ヲ本納スルトキ取扱人ハ税關ノ通達ニ據リ預リ稅ヲ拂出シ海關稅へ組入ルモノトス

第十四條 預金受拂帳ハ海關稅部預リ稅部ノ二冊ヲ設ケ各割印帳ノ預金日計高ト送納嚮ト拂出下戻（預リ稅ハ送ハ送ノ高ヲ記載シ日々受拂暨ヒ殘高ヲ證明スル出納帳ノ其記式圖）ナリ

第十五條 預金受拂日計表ハ各受拂帳ニ據テ毎日之ヲ作り（其記式圖）翌日其地ヲ發シ日本銀行本店ヲ經由シテ出納局へ差出スヘシ

第十六條 預金一句合計書ハ每一句間ノ海關稅納金ヲ通貨ト古金銀ノ二部ニ分チ累計シ若シ

其旬内ニ下戻金アルトキハ之ヲ除算シテ外書ニ顯ハシ毎旬後二日以内ニ税關へ差出スヘシ  
其記式圖ノ如シ尤モ預リ  
税ハ之ヲ作ルニ及ハス

第十七條 一旬間預入ノ海關税金額同下戻額ト同數若クハ不足ナルトキハ合計書差出スニ及  
ハス其旨税關へ届出ヘシ

第十八條 預金受拂勘定證書ハ一週年會計ヲ以テ一期トナシ毎期内ノ海關税金受拂額ヲ證明  
決算スルモノニシテ二通ヲ作リ其記式圖ノ如シ尤モ預リ其期限後十五日以内ニ各取扱所ヲ  
發シ日本銀行本店ハ之ヲ得テ各與書證印ヲ爲シ其到達セシ日ヨリ十五日以内ニ出納局へ差  
出スヘシ其記式圖ノ如シ尤モ預リ出納局ハ之ヲ審査シテ一通ハ保存シ一通ハ與  
書證印シテ返付スヘシ日本銀行ハ之ヲ得テ勘定ヲ完結シタルモノトス但シ此證書ヲ差出ス  
トキ考照ノ爲メ添付シテ差出スヘキ書類左ノ如シ

甲乙拂出切符

第九條ニ掲クル拂渡シ濟ノ分

海關税金下戻切符

第十一條ニ掲クル拂渡シ濟ノ分

第十九條 送納金差引帳ハ送付中ノ預金ヲ證明スルタメ之ヲ置クモノニシテ即チ之ヲ發送ス  
ルトキ海關稅部受拂帳ヲ拂出ト同時ニ之ニ記入シ爾後上納濟領收證書ヲ得テ拂ニ立ツヘシ  
此記式圖  
如クシ

第二十條 納金取扱ニ付給與金ノ科目左ノ如シ

- 一 納金取扱料
- 一 送金手数料 又ハ現送費

第二十一條 納金取扱料ハ其年度ノ實納額ニ因リ納額一年間一萬圓未滿ハ其金額百分ノ五一  
萬圓以上三十萬圓マテハ五百圓其以上百萬圓迄ハ一萬圓毎ニ其金額千分一ヲ給ス三十萬圓  
以上ト雖モ一萬圓未滿ノ額ハ之ヲ除算シ百萬圓以上ノ額ハ之ヲ給セス

第二十二條 送金手数料ハ左ノ割合ヲ以テ支給スヘシ

- 一 一ト口五十圓未滿ハ給セス
- 一 一ト口五十圓以上百圓未滿ハ里程ニ拘ラス金一錢ヲ給ス
- 一 一ト口百圓以上ハ百圓ニ付里程十里毎ニ金二錢五厘ヲ給シ其金員ニ端數アルモ此割合  
ヲ以テ給ス

一 一ト口百圓以上ノ金額ト雖モ一里以上十里未滿ハ百圓ニ付金一錢五厘ヲ給ス尤モ一里  
未滿ノ分ハ給セス

一 十里以上更ニ十里ニ及フ迄ノ端里數ハ總テ刳捨トス

一 右ノ外一ト口百圓以上ノ分ハ増手数料トシテ里程ニ拘ラス金額百圓ナレハ金二錢以上  
五十圓毎ニ金一錢ヲ給ス

一 故ラニ現金遞送ヲ命スルトキハ其費用ヲ給ス其割合ハ別ニ出納局ヨリ達スヘシ

第二十三條 納金取扱ニ付テハ前々條諸給與ノ外内國人ヨリ收入スル税金ニ對シ貨幣鑑定費  
ニ充テ千分一手數料ヲ納者ヨリ受領スルヲ許ス但シ外國人ヨリノ納金ニ限り受領スルヲ得  
サルモノトス

第二十四條 日本銀行ハ豫メ納金ヲ取扱フ役員ノ印鑑ヲ出納局及ヒ税關ニ差出シ置クヘシ出

納局及ヒ税關ハ其印章ヲ以テ納金授受ノ證憑トス

第二十五條 出納局暨ヒ税關ノ印鑑ハ豫メ下渡置クヘシ日本銀行ハ納金取扱上其印章ヲ證憑トスヘシ

(書式略ス)

明治十七年一月二十九日郵便爲替超過金各地國庫金取扱所預入順序ヲ定メ日本銀行ニ達示シ三月一日ヨリ施行セシム

次テ明治十八年四月二十七日ニ至リ國庫金取扱所預リ金上納及拂渡方手續ヲ定メ五月一日ヨリ施行セシム其順序タルヤ國庫金取扱所預リ金ヲ納進スルトキハ國庫金預リ帳ニ記入シ上納書ヲ添ヘテ出納局ニ納附ス次ニ出納局ニ於テ國庫金ヲ支出スルトキハ仕拂切符ヲ受領者ニ交付シ案内切符ヲ日本銀行ニ送付ス而シテ日本銀行ハ直ニ之ヲ國庫金預リ帳ヨリ支出シ受領者仕拂切符ヲ携來ラハ案内切符ニ對照シ現金ヲ交付スルモノトス

國庫金取扱ノ正確ヲ期セント欲セハ勢ヒ臨檢調査ノ必要アルヲ以テ先是明治十七年一月三十一日出納局員派出檢査規程ヲ定メ以テ國庫金取扱所ノ事務ヲ視察セシムルコト、ス

國庫納金取扱順序ニ就テハ爾來明治十七年四月十五日及五月二十三日ヲ以テ其一部ヲ修正削除シ送納金差引帳ヲ廢止シ翌十八年三月三日又修正ヲ加ヘテ七月一日ヨリ實施シ更ニ三月三十日該取扱順序中送納金ハ出納局長ヨリ特ニ期日ヲ指示スルノ外ハ其通報ノ各取扱所ニ到達ノ翌日ヨリ三日以内ニ發送ストアルヲ七日以内ト改正ス次テ明治十九年一月十九日該取扱順序等ニ出納局若クハ出納局長トアルハ今後總テ金庫局長ト解釋セシム蓋シ同月十六日金庫

局ヲ設ケ國庫金收入所ヲ管理セシメタルニ因ルル如ク幾度カ其取扱規程ニ修正ヲ加ヘ以テ處務上ノ整頓ヲ期セシカ遂ニ此月ニ至リ新ニ國庫金取扱所事務順序ヲ定ムルニ至レリ

明治十九年一月國庫金取扱所事務順序ヲ定メ以テ國庫金ニ關スル取扱手續ヲ詳ニセリ今其大要ヲ左ニ説明セン

一 納 入

納人ハ徵稅令書又ハ納額告知書若クハ納付書ヲ添ヘ現金ヲ持參スヘキヲ以テ國庫金取扱所ニ於テハ其現金ヲ領收シ該令書告知書納付書ニ式ノ如ク領受ノ月日ヲ記入シ領收ノ證印ヲ捺シテ納人へ交付スヘキモノトス

二 拂 出

國庫金取扱所ニ於テ納入セル金錢ハ金庫局長ノ令達ニヨリ或ハ之ヲ送納シ或ハ之ヲ拂出スモノトス

イ 通常拂出 通常拂出ハ金庫局長ニ於テ甲乙二様ノ仕拂切符ヲ調製シ甲號ヲ受取人ニ乙號ヲ案内トシテ國庫金取扱所へ廻付スルモノトス故ニ受取人ニ於テ甲號切符ヲ持參セハ取扱所ハ甲乙切符ヲ對照シテ現金ヲ交付シ而シテ交付濟ノ切符ハ渡濟ノ文字ヲ記シ連綴シテ保存スルモノトス  
ロ 至急拂出 至急拂出ヲ要スルトキハ金庫局長ハ電信ヲ以テ令達スルカ故ニ取扱所ニ於テハ直ニ返信ヲナシ而シテ受取人現金ヲ請求セハ其金額姓名等ヲ對照精査シ假受取證書ト引換ニ現金ヲ交付シ其旨金庫局長ニ電報スヘシ而シテ電信渡金ヲ命セラレタルトキモ亦

取扱所ニ於テハ前一項ノ手續ヲナスヘキモノニシテ取扱所ニ於テ其切符ヲ得ルトキハ前ノ電信ト照合シ切符ニハ何月何日ノ電信ニヨリ現金渡済ト記シ切符ハ甲乙連綴保存シ假受取證書ハ返付スルモノトス

ハ 現金ノ送付 受取人ニシテ國庫金取扱所ノ所在地ニ在ラサル爲メニ現金ノ送付ヲ要スルトキハ金庫局ハ其旨ヲ案内切符ノ裏面ニ記載シ送付スルヲ以テ取扱所ニ於テハ該切符到達翌日現金ヲ發送スルモノトス尤モ至急ヲ要スル爲メ電信ヲ以テ令達スル場合ニ於テモ亦同シ

以上ノ外帳簿及報告表決算表等ノコトヲ規定セリ左ニ其事務順序ノ全文ヲ示サン

國庫金取扱所事務順序

- 第一條 國庫金取扱所ハ歳入歳出出納規則ニ據リ其事務ヲ取扱フモノトス
- 第二條 國庫金取扱所並出張所ノ位置及收納所管ノ區域ハ大藏大臣ノ定ムル處ニ依ル者トス
- 第三條 納金ハ徵稅令書又ハ納額告知書若クハ納付書ヲ添ヘ持參スヘキヲ以テ取扱所ニ於テハ其現金ヲ領收シ該令書告知書納付書ニ式ノ如ク領受ノ月日ヲ記シ領收ノ證印ヲ捺シ各納人ニ交付スルモノトス
- 第四條 取扱所ニ於テ領收スル所ノ貨幣ハ納金者ノ目前ニ於テ鑑査スヘシ若シ偽造變造ノ貨幣ヲ發見スルトキハ明治九年太政官第五十七號布告ニ照シ之ヲ處分スルモノトス
- 第五條 第三條ノ領收金ハ金庫局長ノ令達ヲ日本銀行ヨリ傳達スルニアラサレハ送納スルヲ得ス拂出金ハ金庫局長ノ令達ヲ得ルニアラサレハ拂出ヲ得ス

第六條 送納金ハ金庫局長ヨリ特ニ現送ヲ達スルノ外總テ爲替ヲ以テ送納スルモノトス

但爲替取組難キ場合ニ在テハ取扱所ニ限り現送スルコトヲ許ス

第七條 送納金ハ金庫局長ヨリ特ニ期日ヲ指示スルノ外ハ其令達各取扱所へ到達ノ翌日ヨリ三日間以内ニ發達スヘキモノトス(休日ハ順延)而シテ爲替送納ハ其手形到達翌日ヨリ三日目ヲ以テ納付期日トシ現送ハ發送即日ヨリ一日十里詰ヲ以テ(端里數ハ一日トス)到達翌日ヲ納付期日トス

第八條 取扱所ニ於テ送納金ヲ發達シタルトキハ即日之ヲ日本銀行本店へ電報シ本店ヨリ金庫局ニ報告スヘシ且送納金發送ト同時ニ第一號書式ノ送金證書ヲ製シ直ニ金庫局若クハ大阪金庫局出張所へ郵送ス

送金手形振換手形及ヒ貨幣ハ日本銀行本支店へ送付シ本支店ニ於テ納付書ヲ添ヘ期日迄ニ該本局若クハ出張所へ之ヲ納ムルモノトス

第九條 金庫局ニ於テ各取扱所ノ現金ヲ拂出ストキハ第二號書式ノ拂出切符ヲ製シ其甲號ハ受取者ニ交付シ其乙號ハ案内トシテ直ニ取扱所へ回付シ其旨日本銀行本店へ通達スルモノトス而シテ受取者甲號切符ヲ受取所へ持參スルトキハ甲乙對照シテ現金ヲ交付スヘシ但交付済ノ切符ハ渡済ヲ記シ連綴シテ保存スルモノトス

第十條 電信ヲ以テ拂出金ヲ爲ストキハ金庫局ヨリ直ニ電信ヲ以テ令達スヘシ取扱所ニ於テ此電信ヲ得レハ直ニ返信ヲ發シ而シテ受取者現金ヲ請求スルトキハ其金額姓名等ヲ對照精査シ第三號書式ノ假受取證書ト引換ニ現金ヲ交付シ其旨直ニ金庫局へ電報スヘシ金庫局ニ

於テハ電信ヲ以テ拂出金ヲ爲スト同時ニ前條ノ手續ヲ爲スモノトス  
取扱所ニ於テ該切符ヲ得ルトキハ前ノ電信ニ照合シ切符ニハ何月何日ノ電信ニ依リ現金渡  
濟ト記シ切符ハ甲乙連續保存シ假受取證書ハ返付スルモノトス

第十一條 第九條拂出切符ニ對シ其受取先へ現金送付ヲ要スルトキハ其旨ヲ該切符切裏面  
へ記載シ送付スルヲ以テ取扱所ニ於テハ該切符到着翌日之ヲ發送スルモノトス但電信ヲ以  
テ令達スルトキモ亦同シ

第十二條 納金ヲ取扱フ爲メニ設クヘキ帳簿計表左ノ如シ

日記簿

原簿

補助簿

出張場受拂簿

出張場收入報告表

日計表

受拂報告表

決算報告表

一句報告表

第十三條 日記簿ハ收入ニ於テハ上納書若クハ納付書支出ニ於テハ送納令達(令達ニ依リ現金  
及送金手形等ヲ以テ發送セシムルトキハ同送納科目ヨリ國庫科目ヘ送納ノ轉記ヲナスモノトス)及拂出切符(第十一條  
ノ場合ニ依リ)ノ報告ヲ得テ同送納科目ヨリ國庫科目ヘ送納ノ轉記ヲナスモノトス

在テハ送納令達ノ若クハ拂渡ノ電信ニ據リ(電信ニ依ル現)毎目ニ詳細記入スヘシ其書式第  
四號ノ如シ但出張場ニ收入シタル分ハ其收入報告表到達ノ日ニ於テ之ヲ記入シ出張場ニ於  
テハ收入シタル月日ヲ必ス記入スルモノトス

第十四條 原簿ハ日記簿ヨリ轉記スヘシ但日記簿毎目ノ締高ヲ以テ記入スルモノトス其書式  
第五號ノ如シ

第十五條 補助簿ハ歳入科目及現金ノ種類ヲ區分シテ之ヲ記入スルモノトス其書式第六號ノ  
如シ

第十六條 出張場受拂簿ハ收入ニ在テハ上納書若クハ納付書ニ據リ一廉毎ニ記入シ支出ニ在  
テハ取扱所へ現金遞送ノトキ之ヲ記入スヘシ其書式第七號ノ如シ而シテ毎日第八號書式ノ  
出張場收入報告表ヲ製シ取扱所へ報告スヘシ但右收入濟ノ上納書及納付書ハ毎月取經メ之  
ヲ取扱所へ送致シ同所ニ於テ保存スルモノトス

第十七條 日計表ハ原簿ニ掲クル處ノ各目殘高ヲ騰記スルモノニシテ毎日之ヲ調製シ取扱所  
へ備へ置クモノトス其書式第九號ノ如シ

第十八條 報告表ハ原簿及補助簿ニ據リ毎日之ヲ調製シ(取扱所及ヒ各出張場ニ於テ當  
目其地ヲ發シ日本銀行本店へ送付シ本店ヨリ直ニ之ヲ金庫へ差出ス者トス其書式第八號ノ如シ  
第十九條 納金ハ原簿及補助簿ニ據リ其金額ヲ火曜木曜土曜日毎(例ハハ月曜火曜ノ兩日間ニ  
火曜日ニ報  
告スル類)ニ日本銀行本店へ電報シ本店ヨリ即日金庫局へ報告スルモノトス

第二十條 決算表ハ原簿及補助簿ニ據リ毎六箇月(其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ其  
年十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ其

ヲ以テ一期トシ其受拂額證明ノ爲メ調製スルモノニシテ期限後十日以内ニ其地ヲ發シ日本銀行本店へ送致シ本店ニ於テ更ニ之ヲ調製シ金庫局へ差出スモノトス其書式第十號ノ如シ  
第二十一條 金庫局ニ於テハ前條決算表ヲ調査シ計算上確實ト認ムルトキハ第十一號書式受拂ノ承認書ヲ製シ金庫局長ヨリ日本銀行へ交付スルモノトス

第二十二條 一句報告表ハ原簿及補助簿ニ據リ毎日領收セシ金額ヲ毎旬日各自ニ區分調製シ各應ノ收支命令官へ報告スヘシ此報告ハ出張場ノ收入報告ヲモ併算スルモノニシテ其收入金額月日ヲ記入シ毎旬日ノ翌日取扱所ヲ發送スルモノトス其書式第十二號ノ如シ

第二十三條 納金ヲ取扱フ爲メ支給スル給與金ノ項目ハ左ノ如シ但給與金ハ每會計年度九月三月兩回ニ請求書ヲ調製シ金庫局へ差出スモノトス

納金取扱料

出張所手當料出張場預金遞送費

送金手数料又ハ現送費

電信料

第二十四條 納金取扱料ハ收納所管ノ區域ニ付キ支給額ヲ定ムルモノトス其割合左ノ如シ

一 區域内ノ納額一箇年度間三十萬圓迄ハ五百圓ヲ給ス

三十萬圓以上百萬圓迄ハ一萬圓毎ニ其金額千分一ヲ給ス(警ハハ納金年額五十萬圓ニ對スル取扱額五百圓ニ對スル取扱額ニ對スルカ如ク)三十萬圓以上ト雖モ一萬圓未滿ノ額ハ之ヲ除算シ百萬圓以上ノ額ハ之ヲ給セス

右給與額ハ前年度ノ實納額ニ因リ算出シテ之ヲ給ス但當該年度ノ實納額ニ對シ過不足ヲ生スルモ之ヲ増減セス

第二十五條 出張場手當金及出張場預金遞送費ハ左ノ割合ヲ以テ支給スルモノトス

出張所手當ハ一箇所一箇月金十五圓ノ割ヲ以テ給ス

出張場預金ヲ取扱所へ遞送スル運搬諸費及護送人往復旅費トシテ片道里程一里以上金二十五錢ヲ給ス但道一里未滿ノ端里數ハ總テ勿捨トス

出張場預金ヲ取扱所へ遞送スルニ海渡ニアラサレハ至リ難キ場所ハ海路ノ里程ニ拘ラス現費受取證書ニ據リ運搬費及護送人往復ノ船賃ヲ給ス尤海渡場前後ノ陸地ハ里程ヲ通算シ前項ニ據リ給ス

往復途中川留雪支等ニテ滞留シ其地戶長又ハ通運會社ノ證據書アルトキハ一日手當金三十錢ヲ給ス

第二十六條 送金手数料ハ左ノ割合ヲ以テ支給スルモノトス

一 ト口百圓未滿ハ里程ニ拘ハラズ金一錢ヲ給ス

一 ト口百圓以上ハ百圓ニ付キ里程十里毎ニ金二錢五厘ヲ給シ其金員ニ端數アルモ此割合ヲ以テ給ス

一 ト口百圓以上ノ金額ト雖モ里程一里以上十里未滿ハ百圓ニ付金一錢五厘ヲ給ス其一里未滿ノ分ハ給セス

十里以上更ニ十里ニ達セサル端里數ハ總テ勿捨トス



故ラニ現金遞送ヲ命スルトキハ其荷造費運搬費並ニ護送人二名分ノ旅費ヲ給ス但荷造費運搬費受取證書ニ據テ支給シ旅費一人一日(一日十)金六十錢ヲ給シ滯留日當一日金三十錢ヲ給ス

第二十七條 電信料ハ現費ヲ以テ之ヲ支給ス其支給スヘキ電信ノ種類ハ金庫局ヨリ達スルモノトス

第二十八條 取扱所ハ豫テ納金ヲ取扱フ役員ヲ定メ其印鑑ヲ金庫局ヘ差出シ置クハシ金庫局ハ其印章ヲ以テ納金授受ノ證憑トス

第二十九條 金庫局長及次長ノ印鑑ハ豫メ下渡シ置クヘシ取扱所ハ其印章ヲ以テ納金授受ノ證憑トス

明治十九年三月二十五日國庫金取扱所事務順序ニ據リ各地國庫金取扱所ヨリ納金ヲ電報スル順序ヲ定ム但横濱以下十八箇ノ取扱所ハ電報ヲナスヲ要セサルモノトス

四月二十四日各廳一時預金取扱手續ヲ定メ國庫金取扱所ヲシテ料理セシム蓋シ各裁判所ノ科料罰金及營業收入益金ノ内納金等ヲ一旦國庫金取扱所ニ寄託シ其預リ證書ヲ以テ各廳ニ納進シ各廳ニ於テハ更ニ歳入歳出出納規則第二十七條ニ據リ其預リ證書ニ納付書ヲ添ヘ國庫金取扱所ニ納付スルモノトス

次テ五月十九日ニ至リ關稅及稅關諸收入取扱手續ヲ改定シ日本銀行ニ達示ス即チ其順序タルヤ關稅及稅關ノ諸收入金ヲ各納者ヨリ納額告知書ヲ添ヘテ納付スレハ則チ之ヲ領收シ告知書ニ受領ノ證印ヲ押捺シテ納者ニ交付シ而シテ現金ハ稅關長ヨリ一時預リ金明治二十年三月一日之ヲ

ト爲シ毎日其金額及金種類ヲ稅關長ニ報告ス稅關長ヨリ規則ニ照シテ預リ金ニ納付書ヲ添ヘ送付スレハ則チ規定ノ順序ニ從テ之ヲ受領シ次ニ諸收入金ヲ納者ニ還付スルトキハ稅關長ノ支拂切符ニヨリ現金ヲ受領者ニ交付シ一時預リ金ノ額内ヲ以テ支辨ス若シ不足スルアラハ國庫金取扱所現金ノ總額内ヨリ移シテ支出シ又納金取扱料ハ前年度ノ實納額ニ依リ一箇年ノ納額一萬圓未滿ハ百分ノ五一萬圓以上三十萬圓以下ハ五百圓ト爲ス其以上ノ支給法ハ事務順序第二十四條ニ準スルモノトス其他現金遞送費支給比例等ヲ規定セリ十月四日第二部歳入金ニシテ一府縣内甲地ノ國庫金取扱所ニ現金ヲ寄託シ乙地ノ國庫金取扱所ニ納付スルモノ、取扱順序ヲ定ム

翌明治二十年二月三日ニ至リ國庫金出納所ヲ設ケ收入出及支ハ中央金庫出納ノ外悉ク日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコト、シ四月一日ヨリ實施ス此ニ於テ國庫金取扱所ハ廢止ニ歸セリ

### 第二款 現金取扱方

明治十六年六月十五日國庫金取扱所ヲ設置シ爲替方ヲ廢止スルヤ次テ同月十九日金錢取扱方及現金取扱方ヲ置キ爲替方ヲ以テ之ニ充テ各廳經費金ノ取扱ヲナサシメ現金取扱順序ヲ定ム今其事務ノ要點ヲ述フレハ支拂基金ハ出納局ヨリ現金ヲ以テ送致スルコトアリ此場合ニ於テハ回金領收證書ヲ差出スヘキモノトス或ハ又便宜ニヨリ拂出切符若クハ送金手形ヲ以テスルコトアリ此場合ニ於テハ直ニ現金ヲ引出シ其受拂ヲナスヘキ廳ヘ報告スヘシ次ニ支拂ハ會計主務官ヨリ交付ヲ受ケタル案内書ト仕拂切符トヲ對照シテ之ヲナスモノニシテ若シ正當ト認メサルトキハ之カ支拂ヲナサスシテ出納局ノ指揮ヲ待ツヘシ而シテ其收入金錢ハ之ヲ受領シタル後納人ノ

持參シタル納付證書へ奥書證印ヲナシテ返戻シ管守證書ヲ其應へ送付シ現金ハ之ヲ基金トナスヘシ而シテ又他方へ遞送ヲ要スルトキハ其應ヨリ仕拂切符ヲ送付シテ遞送方ヲ請求スルモノニシテ然ルトキハ普通拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ更ニ遞送證書ヲ差出シ置キ便宜ノ方法ヲ以テ遞送シ其領收證書ヲ得テ遞送證書ト交換スルモノトス

現金取扱順序

- 第一條 出納局ヨリ金錢ヲ送致セシトキハ現金取扱方ニ於テ第一圖ノ回金領收證書ヲ出納局へ遞送スヘシ
- 第二條 送致スル金錢ハ出納局ノ便宜ニ因リ出納支店若クハ府縣若クハ國庫金取扱所又ハ大藏省爲替方拂出切符或ハ銀行等ノ送金手形ヲ用ユルコトモアルヘシ
- 第三條 現金取扱方ニ於テ前條送致ノ現金ヲ領收シタルトキハ帳簿ニ記入シ即日其受拂ヲ爲スヘキ應へ報告スヘシ但拂出切符又ハ送金手形ハ現金ノ取付ヲ怠ルヘカラス
- 第四條 拂金ハ會計主務官ニ於テ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ現金受取人ニ渡シ乙號ヲ案内トシテ現金取扱方へ送致スヘシ
- 第五條 現金取扱方ニ於テ乙號切符ヲ得ルトキハ之ヲ保存シ置キ追テ現金受取ノモノ甲號切符ヲ持參スルトキ乙號切符ニ照シ現金ヲ交付スヘシ但萬一不審ノ切符ヲ持參スルモノアルトキハ渡方ヲ見合セ其事由ヲ取札シ出納局へ具申シ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 其應へ收入スヘキ金錢ハ第二圖ノ納付證書ヲ添へ納人ヨリ現金取扱方へ持參スヘシ然ルトキハ其納付證書へ奥書證印ノ上返戻シ第三圖ノ管守證書ヲ直ニ其應へ差出スヘシ現

金ハ各應直受トシ之ヲ計算スヘシ

- 第七條 現金取扱方ニ於テハ現金ノ受拂ヲ計算スル爲メ左ノ帳簿計表ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ
  - (第四圖) 現金受拂簿
  - (第五圖) 未渡現金受拂簿
  - (第六圖) 現金差引簿
  - (同) 未渡現金差引簿
  - (同) 現金應別簿
  - (第七圖) 報告表
  - (同) 決算表

第八條 現金受拂簿ハ領收證書若クハ管守證書ノ原符ニ據リ受入ノ部ニ記載シ又其應ヨリ送付スル乙號切符ヲ以テ拂出ノ部ニ記載スヘシ

第九條 未渡現金受拂簿ハ乙號切符ヲ以テ必ス一廉毎ニ之ヲ受入ノ部ニ記載シ又現金渡濟ノ甲號切符ヲ以テ拂出ノ部ニ記載スヘシ但拂出ノ部ニ記載シタルモノハ一廉毎ニ彙日受入ノ部ニ記載アル處ニ溯リ照合シテ一々渡濟ノ月日ヲ其受入ノ部ニ記入スヘシ

第十條 現金差引簿及未渡現金差引簿ハ何モ其受拂簿ニ據リ各金種類ヲ拾算シテ(金貨一圓銀貨洋銀ハ其種類ヲ區別シ新銅貨舊銅貨紙幣新紙幣銀行)記載スヘシ但一應ノ取扱ニシテ應別簿札ハ合セテ之ヲ銅貨紙幣トシテ計算スルモノトス)記載スヘシ但一應ノ取扱ニシテ應別簿ヲ置カサルトキハ現金引渡簿ニ限リ其事要ヲ類別(出納局ヨリ回金受入)記載スヘシ

第十一條 現金帳別簿ハ其受拂簿ニ據リ應別ニ集算シ其事要ヲ類別(出納局ヨリ回金受入)記載スヘシ

載スヘシ但應別簿ハ二應以上取扱フ現金取扱方ニ置クモノトス

第十二條 報告表ハ差引簿又ハ應別簿ニ據リ每五十ノ日(大ノ月及二)之ヲ作り翌日其地ヲ發シ出納局ニ差出スヘシ

第十三條 決算表ハ差引簿又ハ應別簿ニ據リ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル決算表二通ヲ作り七月十五日マテニ其地ヲ發シ出納局ヘ差出スヘシ出納局長ハ其一通ヘ第八圖ノ如ク裏書ヲナシテ返戻スヘシ之ヲ以テ一週年取扱ノ現金決算ヲ了シタル證トス

第十四條 他方ヘ遞送金アルトキハ其應ヨリ仕拂切符ヲ送付シテ遞送方ヲ請求スヘシ然ルトキハ普通拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ更ニ第九圖ノ遞送證書ヲ差出シ置便宜遞送ヲナシ其送リ先領收證書ヲ得テ之ノ證書ト交換スルモノトス尤現金取扱方所在地内ニ於テ甲應ヨリ乙應ヘ送金ノ如キハ取扱ハサルモノトス但遞送金ハ現金取扱方ニ於テ適宜書留簿ヲ設ケ送先金員等ヲ記載シ置クヘシ

第十五條 現金取扱方ニ於テ現金渡濟ノ切符ハ簿記既了ノ後甲乙號共渡濟ノ印ヲ捺シ連綴シテ之ヲ保存シ出納局長謹印濟ノ決算表ヲ得タル後其一箇年分ヲ取束ネ保存シ置クヘシ

第十六條 現金取扱方ハ其店ニ於テ金錢ヲ保管シ而シテ日々其應ヘ出張シテ受拂ヲ取扱フモノトス尤モ多額ノ仕拂金受授ノ便宜ニ因ルカ又ハ退應後至急ヲ要スル仕拂金ハ其店ニ於テ取扱フコトヲ得但名代人及金錢取扱人ノ姓名印鑑ヲ出納局及其應ヘ差出シ置クヘシ

第十七條 現金取扱方ニ於テ金錢ヲ封緘スルハ其様式ヲ定メ置異様ノ封緘ヲ爲スヘカラス但他ヘ對シ封緘ノ儘受授スルヲ許サス尤互ニ其封緘ヲ信用シテ受授スルハ便宜ニ任スト雖モ

開緘ノ上受授シタルモノト同視スヘシ

第十八條 現金及ヒ諸帳簿ハ臨時出納局官員ヲ派出シテ之ヲ検査セシム時機ニヨリ他ノ官員之ヲ検査スルトキハ必ス其證據書ヲ持參スルモノトス

第十九條 現金取扱方ニ預ケ中ノ金錢ハ如何ナル事故アリテ損失スルモ現金取扱方ニ於テ之ヲ辨償セシムヘシ尤モ速ニ辨償シ得サルト認ムルトキハ抵當品ヲ公賣シ其代價ヲ以テ償還ニ充テ尙不足アルトキハ其資産ニ就テ追徴スヘク且之カ處分ニ付生スル處ノ費用モ又之ヲ償ハシムヘシ但非常ノ變災ニシテ防禦シ能ハサル證據アルトキハ實際證據ノ上處分スルコトアルヘシ

(書式略ス)

### 第三款 現金支拂所

從來日本銀行ヲシテ國庫金ノ料理ヲナサシメ同時ニ各地ニ現金取扱方ナルモノヲ置キ其地方ノ拂出ニ關スル事務ヲ掌ラシメシカ明治十八年六月六日横濱神戸長崎函館新潟ノ五港ニ付テハ現金取扱方ヲ廢シ現金仕拂所ナルモノヲ設置シ以テ各地稅關ノ經費及經費外ノ現金ヲ取扱ハシムルコト、セリ

#### 第一 經費金

一 支拂基金 支拂基金ハ出納局ヨリ拂出切符又ハ銀行ノ送金手形ヲ以テ送付スヘキカ故ニ之ヲ現金ニ引換ヘ出納局ヘ領收證書ヲ差出スヘク又電信渡ノトキハ假受取證書ヲ以テ現金

- ヲ受取り追テ拂出切符ヲ得テ假證書ト交換スヘキモノトス
- 二 支拂手續 支拂手續ハ大體經費金支出條規ニ據ルヘキモノトス
- イ 仕拂切符 會計主務官吏ハ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ現金受取人ニ渡シ乙號ヲ案内トシテ現金支拂所ニ送致スルモノトス受取人仕拂切符ヲ持參セハ支拂所ハ之ヲ案内切符ト對照シテ現金ヲ交付スヘシ若シ案内切符ト仕拂切符ト符合セサレハ現金ヲ渡サス出納局ヘ具申シ指揮ヲ乞フヘシ
- ロ 仕拂明細書 仕拂明細書ハ豫テ各廳ヨリ現金仕拂所ニ廻付スルモノニシテ仕拂所ハ案内切符ヲ得ルトキ之ト對照シ若シ符合セサレハ其主旨ヲ添ヘテ之ヲ發シタル各廳ヘ返付スヘシ
- 第二 經費外現金
- 一 納金 ハ納人ヨリ納付證書ヲ添ヘテ持參スヘクニ付仕拂所ハ現金ヲ領收シ其納付證書ニ與書證印シテ交付シ管守證書ヲ製シテ直ニ其主管廳ヘ差出スヘシ
- 二 拂金 ハ會計主務官ニ於テ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ受取人ニ乙號ヲ案内トシテ送付スル等經費金ニ同シ
- 三 遞送金 其他各廳ニ於テ他方ヘ經費金ノ遞送ヲ要スルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ送付シテ遞送方ヲ請求ス可クニ付普通拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ遞送證書ヲ差出シ置キ便宜遞送ヲナシ送り嚮領收證書ヲ得テ遞送證書ト交換スルモノトス
- 現金仕拂所拂金取扱順序

- 第一條 現金仕拂所ハ經費金支出條規ニ據リ其事務ヲ取扱フモノトス
- 第二條 經費金支出ノ豫備トシテ出納局ヨリ送致スル金員ハ國庫金取扱所ノ拂出切符或ハ銀行等ノ送金手形ヲ以テス故ニ現金仕拂所ニ於テハ右切符手形ヲ現金ニ引換ノ上第一號書式ノ領收證書ヲ出納局ヘ差出スヘシ
- 第三條 現金仕拂所々在地外ノ國庫金取扱所又ハ出納支局ヨリ前條ノ金員ヲ送致セシムルトキハ該拂出切符ヘ第二號書式ノ裏書ヲナシ現金支拂所ヘ送付スヘクニ付現金仕拂所ニ於テハ之レト引換ニ現金ヲ領收スヘシ
- 第四條 前條送致金ヲ電信渡トナストキハ出納局ヨリ電信ヲ以テ達スヘクニ付現金送致ノ際第三號書式ノ假受取證書ヲ差出置追テ拂出切符ヲ得テ假證書ト交換スヘシ
- 第五條 經費金ノ支出ハ各廳會計主務官吏ニ於テ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ現金受取人ニ渡シ乙號ヲ案内トシテ現金仕拂所ヘ送致スルモノトス
- 第六條 現金仕拂所ニ於テ案内切符ヲ得ルトキハ豫テ各廳ヨリ廻付シアル仕拂明細書及印鑑ニ對照シ科目金員及受取人等符合スルトキハ該明細書ヘ檢ノ印ヲ捺シ其切符ハ現金仕拂所ニ保存スヘシ但仕拂明細書ト案内切符ト符合セサルトキハ其旨ヲ以テ該切符ヲ各廳ヘ返付スヘシ
- 第七條 現金受取人仕拂切符ヲ持參シ現金ヲ請求スルトキハ案内切符ニ照查シテ現金ヲ交付スヘシ但通用期限經過セシモノ又ハ不審ノ切符ヲ以テ現金請求スルモノアルトキハ渡方ヲ爲サス其事由ヲ取糺シ之カ書面ヲ徴シ出納局ヘ具申シ指揮ヲ請フヘシ

第八條 各廳ニ於テ既ニ仕拂タル金員ノ内返納ヲ要スルトキハ納人ヨリ直チニ現金仕拂所へ持參スヘクニ付現金仕拂所ニ於テハ豫テ第四號書式ノ納付證書地紙ヲ供ヘ置納人ヲシテ金員及其事由ヲ記入記名調印ノ上現金ニ添付セシムヘシ而シテ現金鑑定済右納付證書一據リ第五號書式ノ預リ證書ヲ調製シ納人ニ交付スヘシ

第九條 前條返納金ハ出納局若クハ他へ送納スヘキ旨ヲ該預リ證書へ裏書シ出納局ヨリ之ヲ現金仕拂所へ送付スヘシ尤便宜各廳經費金仕拂豫備トシテ送致スル金員ニ振換ユルコトアルヘシ

第十條 經費金支出ノ豫備トシテ出納局ヨリ送致セシ金員ノ内臨時還納セシムルコトアルヘシ然ルトキハ第六號書式ノ還納書式ヲ送致スヘクニ付現金支拂所ニ於テハ其指示セシ地方へ便宜之ヲ遞送スヘシ

第十一條 各廳ニ於テ他方へ經費金ノ遞送ヲ要スルトキハ裏書アル案内切符ヲ送付シテ遞送方ヲ請求スヘクニ付普通拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ更ニ送金ノ手續ヲ爲シ仕拂切符ヲ得テ送金手形又ハ郵便爲替券ヲ交付スヘシ但送金手形等ヲ交付シ能ハサル場合ニ於テハ第七號書式ノ金員遞送證ヲ交付シ該金員ハ便宜之ヲ遞送シ追テ本受取人ノ領收證書ト引換フヘシ

第十二條 現金仕拂所ニ於テ使用スル帳簿計表左ノ如シ

現金受拂簿  
經費金應別簿

遞送金差引簿

報告表

決算表

第十三條 現金受拂簿ハ領收證書若クハ預リ證書ノ原符ニ據リ受ノ部ニ又仕拂切符若クハ裏書アル預リ證書ヲ以テ拂ノ部ニ記入スヘシ其書式第八號ノ如シ

第十四條 經費金應別簿ハ領收證書預リ證書原符若クハ仕拂切符ヲ各廳別ニ集算シ且年度及其金種類(金貨一圓銀貨補助銀貨兌換銀券ハ各之ヲ區別シ其他ハ銅貨紙幣ノ名稱ヲ以テス)ヲ部分シ其廳ノ受入ニ係ルモノハ之ヲ借方ニ其廳ノ支出ニ係ルモノハ之ヲ貸方ニ記入シ差引計算ヲ爲スヘシ其書式第九號ノ如シ

第十五條 遞送金差引簿ハ金員遞送證ニ據リ遞送ノ部ニ本受取人ノ領收證書ヲ得テ回著ノ部ニ記入シ差引計算ヲナスヘシ其書式第十號ノ如シ

第十六條 報告表ハ應別簿ニヨリ每五十ノ日(大ノ月及二ノ月ハ末日)之ヲ調製シ翌日其地ヲ發シ出納局へ差出スヘシ其書式第十一圖ノ如シ

第十七條 決算表ハ每六箇月(其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄)之ヲ調製シ翌月十日以内ニ其地ヲ發シ出納局へ差出スヘシ其書式第十一號ニ同シ

第十八條 出納局ニ於テハ前條決算表ヲ調査シ決算上確實ト認ムルトキハ第十二號書式ノ承認書ヲ製シ出納局長ヨリ交付スヘシ現金仕拂所ニ於テハ之ヲ以テ其期內取扱ノ現金決算ヲ了シタル證トス

第十九條 案内切符ニ對照済ノ仕拂明細書ハ翌月五日迄ニ其地ヲ發シ出納局へ差出スヘシ但

仕拂明細書中各廳ニ於テ其月中ニ案内切符ヲ發セサルモノハ之カ取消仕譯書ニ送付スヘクニ付現金仕拂所ニ於テハ之ヲ得テ仕拂明細書ニ對照シ符合スルトキハ該明細書へ「取消」ノ印ヲ捺シ仕譯書ヲ添へ差出スヘシ

第二十條 拂金取扱ニ付現金仕拂所へ給與金科目左ノ如シ但給與金ハ第十三號書式ニ據リ請求書ヲ調製シ毎年三月九月兩度ニ出納局へ差出スヘシ

- 一 拂金取扱料
- 一 送金手数料又ハ現送費
- 一 電信料

第二十一條 拂金取扱料ハ各廳經費金額ノ多寡ニ據リ支給額ヲ定ムルモノトス其割合ハ別ニ達スヘシ

第二十二條 送金手数料ハ左ノ割合ヲ以テ支給スヘシ

- 一 一口百圓未満ハ里程ニ拘ハラズ金一錢ヲ給ス
- 一 一口百圓以上ハ百圓ニ付里程十里毎ニ金二錢五厘ヲ給シ其金員ニ端數アルモ此割合ヲ以テ給ス
- 一 一口百圓以上ノ金額ト雖モ里程一里以上十里未満ハ百圓ニ付金一錢五厘ヲ給ス尤一厘未満ノ分ハ給セス
- 一 十里以上更ニ十里ニ及フ迄ノ端數ハ總テ刪除トス
- 一 爲替取組店又ハ「ホルレスボンデンス」約條無之地方へ郵便爲替取組タルトキ其爲替料ハ

現費受取證書ニ據リ支給ス

一 現金遞送ヲナシタルトキハ其荷造費運搬費並護送人ノ旅費トス但荷造費運搬費ハ現費受取證書ニ據リ支給シ旅費ハ一人ニ付一日十里詰ヲ以テ金六十錢ヲ給シ滯留スルトキハ日當金三十錢ヲ給スルモノトス

第二十三條 電信料ハ其支給スヘキ種類ヲ定メ別ニ達スヘシ

第二十四條 現金仕拂所ハ豫テ拂金ヲ取扱フ役員ヲ定メ其印鑑ヲ出納局及各廳へ直チニ差出スヘシ但拂金取扱料等ノ領收證書ニ用ユル印鑑ハ別ニ出納局ニ差出スヘシ

第二十五條 出納局及各廳ニ於テ拂金ニ關係アル官吏ノ印鑑ハ豫テ下渡置ヘシ故ニ現金支拂所ニ於テ其印章ヲ以テ拂金取扱上ノ證憑トスヘシ

第二十六條 現金仕拂所ノ帳簿書類現在金等ハ大藏省官吏派出シテ検査スルモノトス但其官吏ハ必ス検査員タルノ證據書ヲ携帶スルモノトス

第二十七條 現金支拂所ニ於テ現金渡濟ノ切符ハ簿記既了ノ後甲乙號共其渡濟ノ月日ヲ記入シ且渡濟ノ割印ヲ捺シ連綴シテ之ヲ保存シ出納局長ノ決算承認書ヲ得タル後其決算期內ノ分ヲ取束ネ保存シ置クヘシ

第二十八條 現金仕拂所ニ於テ任用スル帳簿證書類ノ内納付證書及預リ證書用紙ハ出納局ヨリ回付ス其他ノ帳簿證書類ハ總テ取扱者ニ於テ製造スヘシ

第二十九條 經費金仕拂切符用紙ハ出納局ヨリ現金仕拂所へ送付スヘクニ付各廳ヨリ請求ニ隨ヒ漸次之ヲ交付シ殘餘僅少ニ至ラハ請求方出納局へ申出ヘシ

(書式略ス)

各應經費外現金取扱順序

第一條 納金ハ第一號書式ノ納付證書ヲ添へ納人ヨリ現金支拂所へ持參スヘクニ付現金支拂所ニ於テハ其納付證書へ與書證印ノ上返戻シ第二號書式ノ管守證書ヲ製シ直ニ其應へ差出スヘシ

第二條 拂金ハ會計主務官ニ於テ甲乙接續ノ仕拂切符ヲ作り甲號ヲ現金受取人ニ渡シ乙號ヲ案内トシテ現金支拂所へ送付スヘクニ付現金支拂所ニ於テハ印鑑ニ照シ之ヲ保存シ置ヘシ  
第三條 現金受取人甲號切符ヲ持參シ現金請求スルトキハ乙號切符ニ照シ現金ヲ交付スヘシ但通用期限經過セシモノ又ハ不審ノ切符ヲ以テ現金請求スルモノアルトキハ渡方ヲ爲サス其事由ヲ取糺シ之カ書面ヲ徴シ出納局へ具申シ指揮ヲ請フヘシ

第四條 他方へ遞送金アルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ送付シテ遞送方ヲ請求スヘクニ付普通拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ更ニ第三號書式ノ遞送證書ヲ差出シ置便宜遞送ヲナシ其送リ先領收證書ヲ得テ彙ノ證書ト交換スルモノトス但遞送金ハ便宜書留簿ヲ設ケ送リ先金員等ヲ記載シ置クヘシ

第五條 經費外現金ノ受拂ヲ計算スル爲メ左ノ帳簿計表ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ  
經費外現金受拂簿  
經費外現金差引簿  
報告表

決算表

第六條 經費外現金受拂簿ハ管守證書ノ原符ニ據リ受入ノ部ニ記載シ又現金渡濟ノ甲號切符ヲ以テ拂出ノ部ニ記載スヘシ其書式第四號ノ如シ  
第七條 經費外現金差引簿ハ現金受拂簿ニ據リ各金種類(金貨一圓銀貨補助銀貨兌換銀券ハ各以テ)ヲ部分シ之ヲ集計シテ受入ニ係ルモノハ借方ニ拂出ニ係ルモノハ貸方ニ記入シ差引計算ヲ爲スヘシ其書式第五號ノ如シ

第八條 報告表ハ差引簿ニ據リ毎月之ヲ作り翌月二日迄ニ其地ヲ發シ出納局ニ差出スヘシ其書式第六號ノ如シ

第九條 決算表ハ差引簿ニ據リ每六箇月(其年四月一日ヨリ同九月三十日迄其年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄)之ヲ調製シ翌月十日以内ニ其地ヲ發シ出納局へ差出スヘシ其書式第六號ニ同シ但現金交付未濟ノ案内切符アルトキハ其金額ヲ集計シ之カ金種類ヲ區分シタル書面ヲ添付スヘシ

第十條 出納局ニ於テハ前條決算表ヲ調査シ計算上確實ト認ムルトキハ第七號書式ノ承認書ヲ製シ出納局長ヨリ交付スルモノトス  
(書式略ス)

明治十九年三月十五日ニ至リ上述各地ノ外ニ於テモ現金取扱方ヲ廢シ更ニ十九年度ヨリ現金支拂所ヲ設クルコト、シ事務順序ヲ定ム蓋シ現金取扱方及現金支拂所ハ何レモ支出ニ關スル事務ヲ主掌シ國庫金取扱所ハ收入ニ關スル事務ヲ取扱ヒ其間毫モ抵觸スルコトナキハ前ニ述フルカ如シ而シテ國庫金取扱所ハ日本銀行之ヲ管理シ現金支拂所ハ金庫局へ隸屬スルモノナリ左ニ其

事務ノ大要ヲ説明スヘシ

一 支拂基金

支拂基金ハ金庫局ヨリ送付スルモノニシテ其送付方法ハ或ハ國庫金取扱所ノ拂出切符ヲ以テシ或ハ現金ヲ以テス而シテ現金ナルトキハ之ト引換ニ領收證書ヲ出納局ニ差出シ切符ナルトキハ取扱所ニ至テ現金ヲ受領シ出納局長宛ニ領收證書ヲ發スヘシ而シテ又電信ヲ以テセラル、時ハ假受取證書ヲ以テ現金ヲ受取り拂出切符ヲ得タルトキ之ヲ交換スルモノトス

二 拂渡手續

イ 令達 各廳毎月ノ經費金支出額ハ前月ニ於テ金庫局長ヨリ令達シ而シテ此令達ニ基キ各廳ノ支拂切符ニヨリ現金ヲ支拂フヘシ

ロ 支拂 各廳會計主務官ハ支拂切符ト同時ニ案内書ヲ支拂所ニ送付スルヲ以テ支拂切符ト案内書ト符合スルニアラサレハ支拂フコトヲ得ス故ニ若シ符合セサルトキハ持參人ニ其事由ヲ告ケ預リ證書ヲ與ヘ該切符ヲ留置キ之ヲ會計主務官ニ通知スヘシ而シテ支拂切符カ成規ニ違フトキモ亦同シ

ハ 返納 一タヒ拂渡ヲ受ケタル後返納ヲ要スルトキハ納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ納付スルヲ以テ其告知書ニ受領ノ月日ヲ記シ領收ノ證印ヲ捺シテ納人ニ返付シ其金員ハ之ヲ支拂基金ニ組込ムヘシ

ニ 還納 支拂基金ハ臨時還納證書ヲ以テ還納ヲ命スルコトアルヘク此場合ニ於テハ其證書ニ指示セシ金庫へ送送スヘキモノトス

ホ 遞送 各廳ニ於テ其廳所在地外へ經費金ノ遞送ヲ要スルトキハ其廳ヨリ仕拂切符ヘ其旨ヲ裏書シ之ヲ請求スルヲ以テ普通支拂金ト同様ニ之カ拂出ノ順序ヲ了シ送金手形又ハ郵便爲替券ヲ其廳へ送付ス尤モ現金ヲ送付スルトキハ遞送證ヲ交付シ受取人ノ領收證書ト交換スヘシ

現金支拂所事務順序

第一條 現金支拂所ハ歲入歳出出納規則ニ據リ其事務ヲ取扱フモノトス

第二條 經費金支出ノ爲メ基金送付ノ手續ハ左ノ如シ

金庫局ヨリ現金ヲ回送スルトキハ現金支拂所ニ於テ現金領收ト同時ニ第一號書式ノ領收證書ヲ直ニ同局へ差出スモノトス

國庫金取扱所ノ拂出切符ヲ以テ送付スルトキハ現金仕拂所ニ於テ該切符ヲ現金ニ引換ヘシ其領收證書ヲ金庫局へ差出スハ前項ニ同シ

大阪金庫出張所又ハ現金支拂所所在地外ノ國庫金取扱所ヨリ金員ヲ送達セシムルトキハ拂出切符ヘ第二號書式ノ裏書ヲナシ支拂所へ送付ス支拂所ニ於テハ之レト引換ニ現金ヲ領收スヘシ其領收證書ヲ金庫局へ差出スハ前項ニ同シ

第三條 前條送付金ヲ電信渡トナストキハ金庫局ヨリ電信ヲ以テ達スヘシ

支拂所ニ於テハ右電信ニヨリ現金領收ノ際第三號書式ノ假受取證書ヲ差出シ置キ追テ拂出切符ヲ得テ假證書ト交換スルモノトス

第四條 現金支拂所ハ各廳毎月ノ經費金支出額ヲ前月ニ金庫局長ヨリ令達スルヲ以テ之ヲ基



トシ各廳ノ支拂切符ニ依リ現金ヲ支拂フヘシ

第五條 現金支拂所ニ於テ各廳會計主務官ヨリ案内書ヲ得ルトキハ之ヲ保存シ置キ追テ現金受取人支拂切符ヲ以テ現金ヲ請求スレハ該案内書ニ對照シ現金ヲ交付スルモノトス但左ノ場合ニ於テハ直ニ其事由ヲ仕拂切符持參者ニ告ケ預リ證書ヲ與ヘ該切符ヲ留置キ即時切符面記名ノ會計主務官ニ知スヘシ

支拂切符成規ニ違フトキ

案内書ト符合セサルトキ

此場合ニアリテハ現金支拂所ハ會計主務官ニ於テ該支拂切符若クハ案内書ヲ訂正スルカ又ハ該切符ノ正當ナル保證書ヲ送付スルニアラサレハ現金ヲ支拂フコトヲ得ス

第六條 各廳ニ於テ既ニ支拂タル金員事故アリテ返納ヲ要スルトキハ各廳會計主務官ヨリ返納者ヘ返納告知書ヲ發ス返納者ハ之ヲ現金ニ添ヘ納付スヘシ仕拂所ニ於テハ該告知書ヘ受領ノ月日ヲ記シ領收ノ證印ヲ捺シ返納者ヘ交付スヘシ

第七條 前條ノ返納金ハ支拂基金ヘ組込第十五條ノ報告表ヘ記載シ即日金庫局ヘ報告スルモノトス

第八條 經費金支出ノ基本トシテ金庫局ヨリ送付セシ金員臨時還納セシムルコトアリテ第四號書式ノ還納證書ヲ送付スルトキハ現金支拂所ニ於テ之ヲ指示セシ金庫ヘ遞送スルモノトス

第九條 各廳ニ於テ其廳所在地外ヘ經費金ノ遞送ヲ要シ仕拂切符ヘ其旨ヲ裏書シ遞送方ヲ請

求スルトキハ現金支拂所ニ於テハ支拂金ノ順序ヲ以テ之ヲ拂出シ送金手形又ハ郵便爲替券ニ換各廳ヘ交付スヘシ但現金ヲ遞送スルトキハ第五號書式ノ金員遞送證ヲ交付シ追テ受取人ノ領收證書ト引換ルモノトス

第十條 現金支拂所ニ於テ仕用スル帳簿計表左ノ如シ

日記簿

原簿

補助簿

日計表

受拂報告表

支拂金整理報告表

決算報告表

第十一條 日記簿ハ支出ニ在テハ仕拂切符第九條但書ノ場合ニ於テハ同送ノ科目ヲ得テ同送ノ科目ヨリ國庫科目ヘ納入ニ在テハ第二條領收證書ノ原符若クハ納付書ニ據リ毎目ニ詳細記入スルモノトス

其書式第六號ノ如シ

第十二條 原簿ハ日記簿ヨリ轉記スヘシ但日記簿毎目ノ締高ヲ以テ記入スルモノトス其書式第七號ノ如シ

第十三條 補助簿ハ歲出科目及現金ノ種類ヲ區分シテ之ヲ記入スルモノトス其書式第八號ノ

如シ

第十四條 日計表ハ原簿ニ掲クル所ノ各目殘高ヲ曆記スルモノニテ毎日之ヲ調製シ現金支拂所へ備へ置クモノトス其書式第九號ノ如シ

第十五條 報告表ハ原簿及補助簿ニ據リ毎日之ヲ調製シ當日收支セシ金額ヲ掲クシ金翌日其地ヲ發シ金庫局へ差出スモノトス其書式第十號ノ如シ

第十六條 決算表ハ原簿及補助簿ニ據リ每六箇月其年四月一日ヨリ同九月三十日マテ其ヲ以テ一期トシ其受拂額ヲ證明スルモノニシテ期限後十日以内ニ其地ヲ發シ金庫局へ差出スモノトス其書式第十一號ノ如シ

第十七條 金庫局ニ於テハ前條決算表ヲ調査シ計算上確實ト認ムルトキハ第十二號書式受拂ノ承認書ヲ製シ金庫局長ヨリ現金支拂所へ交付スルモノトス

第十八條 現金支拂所ニ於テ各應會計主務官ヨリ案内書ヲ得ルモ受取人ノ其月中ニ支拂切符ヲ持參セサルトキハ其金高ヲ月毎ニ區分シ之カ計表ヲ製シ毎月一日其地ヲ發シ金庫局へ差出スモノトス其書式第十三號ノ如シ

第十九條 支拂金ヲ取扱フ爲メ支給スル給與金ノ項目左ノ如シ但給與金ハ每會計年度九月三月兩回ニ請求書ヲ調製シ金庫局へ差出スヘキモノトス

支拂金取扱料

送金手数料又ハ現送費

電信料

第二十條 支拂金取扱料ハ各應經費金額ノ多寡ニ據リ支給額ヲ定ム其割合ハ別ニ達スルモノトス

第二十一條 送金手数料ハ左ノ割合ヲ以テ支給スルモノトス

一口百圓未満ハ里程ニ拘ハラズ金一錢ヲ給ス

一口百圓以上ハ百圓ニ付里程十里毎ニ金二錢五厘ヲ給シ其金圓ニ端數アルモ此割合ヲ以テ給ス

一口百圓以上ノ金額ト雖モ里程一里以上十里未満八百圓ニ付金一錢五厘ヲ給ス其一里未満ノ分ハ給セス

十里以上更ニ十里ニ達セサル端里數ハ總テ勿捨トス爲替取組店又ハ「コルレス」ポンドンズ約定無之地方へ郵便爲替ヲ取組ミタルトキ其爲替料ハ拂込金受領證書ニ據リ現費ヲ於テ之ヲ支給ス

現金遞送ヲ爲シタルトキハ其荷造費運搬費竝ニ護送人ノ旅費ヲ給ス但荷造費運搬費ハ現費受取證書ニ據リ支給シ旅費ハ一人一日一日十金六十錢ヲ給シ滯留日當一日金三十錢ヲ給ス

第二十二條 電信料ハ現費ヲ以テ之ヲ支給ス

第二十三條 現金支拂所ハ豫テ支拂金ヲ取扱フ役員ヲ定メ其印鑑ヲ金庫局及各廳へ差出スヘシ但支拂金取扱料等ノ領收證書ニ用ユル印鑑ハ別ニ金庫局ニ差出スモノトス

第二十四條 金庫局長及次長ノ印鑑竝ニ各廳ニ於テ支拂金ニ關係アル官吏ノ印鑑ハ豫テ下渡シ置クヘシ故ニ現金支拂所ニ於テハ其印章ヲ以テ支拂金取扱上ノ證憑トス

第二十五條 現金支拂所ニ於テ現金渡濟ノ切符ハ簿記既濟ノ後甲乙號共其渡濟ノ月日ヲ記入シ且ツ渡濟ノ割印ヲ捺シ連綴シテ之ヲ保存シ置クモノトス  
現金支拂所事務順序附錄

支拂金取扱順序圖解符標

- 一 大藏大臣ハ各廳經費金支出命令書ヲ毎月金庫局ヘ下付ス(附錄以)
- 二 金庫局ハ前項支出命令書ヲ得テ各地現金支拂所ヘ傳令ス
- 三 各廳經費金ノ支拂ハ收支命令官ニ於テ會計主務官ヲシテ支拂切符ヲ發セシム
- 四 會計主務官ハ前項ノ命令ヲ得テ支拂切符ヲ製シ受取人ニ交付ス
- 五 會計主務官ハ前項切符ヲ製シ各受取人ニ交付スルト同時ニ該切符指名ノ現金支拂所ニ案内書ヲ發ス
- 六 現金支拂所ハ各受取人ヨリ四項ノ切符ヲ以テ現金請求スレハ會計主務官ヨリ受領セシ前項ノ案内書ト照合シ現金ヲ各受取人ニ拂渡ス
- 七 現金支拂所ニ於テ各受取人ニ現金ヲ拂渡シタルトキハ各費目及金種類ヲ區分シタル支拂報告書ヲ調製シ金庫局ヘ差出ス
- 八 (甲)金庫局ハ前項各支拂所ノ報告書ヲ得更ニ之ヲ集計シタル報告書ヲ調製シ(各支拂所ヲ添)即日之ヲ主計局ニ送付シ竝ニ出納局ヘ送付ス
- 九 出納局ハ前項金庫局ノ報告書ニ依リ毎日現金表ヲ調製シ支拂金照査ノ爲メ主計局ヘ送致ス

- 十 收支命令官ハ毎月會計主務官ニ命令シテ發セシメタル支拂切符發行高ヲ翌月七日マテニ大藏省ヘ報告ス
- 十一 現金支拂所ハ會計主務官ヨリ受領セシ五項ノ案内書ニ記載セル金高ト之レニ依リ支拂セタル現金高及ヒ未拂金高トヲ集計シタル毎月支拂金整理報告表(別紙計表樣)ヲ調製シ翌月二日迄ニ其地ヲ發シ金庫局ヘ差出ス
- 十二 (甲)金庫局ハ前項各支拂所ノ報告表ヲ得更ニ之レヲ集計シタル毎月支拂金整理報告表ヲ調製シ(各支拂所ノ報)即日之ヲ主計局ヘ送付シ竝ニ出納局ヘ送付ス
- 十三 (甲)主計局竝ニ出納局ハ毎日計算表ヲ調製シ大藏大臣ヘ提出ス(別紙樣式略ス)

明治十九年四月二十三日備荒儲蓄府縣交付金料理ノ順序三款ヲ定メ四月二十七日歳入歳出々納規則第二十七條收入金ノ内現金支拂所ニ收入スヘキモノ竝ニ各廳管守金收支ノ事務ヲ取扱ハシムルニ因リ現金支拂所事務順序補則ニ據テ之ヲ整理スヘキコト、ス六月十四日金庫局ヨリ各廳營業費金ヲ回送スルニ當リ其料理スル計算順序三款ヲ定メ次テ明治二十年二月三日國庫金出納所ヲ設ケ歳入及歳出ヲ併セ掌ラシメ四月一日ヨリ實施スルニ及ヒ現金支拂所ヲ廢止セリ

#### 第四款 國庫金出納所

從來全國各地ニ國庫金取扱所ヲ置キテ歳入ヲ取扱ハシメ現金支拂所ヲ設ケテ歳出ヲ主掌セシメ金庫局ハ之ヲ統轄シ併セテ府内ノ收支ヲ直轄シ來リシモ此ク收入支出ヲ區分スルトキハ歳入金

ヲ以テ歳出金ニ充ラントスルニ當リ國庫金取扱所ヨリ之ヲ現金支拂所ニ移サ、ル可ラス故ニ土地遠隔ナル場合ニハ管ニ正貨ノ運搬費ヲ要スルノミナラス其間多少ノ日子ヲ費サ、ル可ラサルヲ以テ運轉上ノ不便ヲ醸シ隨テ一時ノ借入ヲ爲シ又ハ證券ヲ發行スルノ已ムヲ得サルニ至ルコトアリ依テ其缺點ヲ補足センカタメ明治二十年四月一日以後國庫金取扱所及現金支拂所ヲ廢シ國庫金出納所ヲ設ケテ出納ヲ合一シ金庫局ハ只中央金庫ノ出納ヲ司リ其他ハ舉テ之ヲ日本銀行ニ委ネ從來ノ國庫金取扱所及現金支拂所ノ事務ヲ併合主掌スルモノトシ大藏大臣ハ明治二十年二月三日日本銀行ニ向ヒ左ノ如ク令達セリ

一 本年四月一日ヨリ各地ニ國庫金出納所ヲ設置シ歳入歳出及雜部金ノ出納事務ヲ爲取扱候條別紙出納所事務順序ニ據リ取扱フ可シ

二 國庫金取扱所現金支拂所ノ事務ハ本年三月三十一日ノ殘務ヲ以テ國庫金出納所ヘ引繼ヲ受クヘシ(以下略)

蓋シ是ヨリ先キ明治二十年一月二十二日大藏省ハ金庫局ニ於テハ專ラ中央金庫ノ出納ヲ掌リ其他ハ日本銀行ヲシテ出納事務ヲ取扱ハシメンコトヲ請議セリ

大藏省請議

歳入歳出取扱方現今ノ制ニ據レハ歳入金ハ國庫金取扱所ニ納入セシメ歳出金ハ現金支拂所ニ於テ支拂ハシメ收入支出ヲ全ク二部ニ區分シ各別ニ取扱候事ニ有之候處右ニテハ歳入金ヲ歳出金ニ充テ支出スルニハ之ヲ國庫金取扱所ヨリ殊更ニ現金支拂所ニ移シタル後ニアラサレハ支出シ能ハス其間多クノ日子ヲ要スルニ付國庫金ノ運用ヲ澁滯セシメ之レカ爲メニ自然一時

借入金大藏省證券發行額ノ増加ヲ來シ隨テ其利子相嵩ミ又現金ヲ各地ニ彼此回送スルニハ之レカ運搬費ヲ要スルコト多ク加之國庫金取扱所現金支拂所ノ箇所多キカ故ニ事務繁雜ノ憂モ有之且又從來ノ制ニ於テハ當省中金庫局ヲ以テ政府ノ總金庫トシ國庫金取扱所及現金支拂所ヲ統轄セシメ候得共金庫局ノ要ハ東京府内ニ於ケル官金ノ出納ヲ取扱フニアリテ傍ラ全國金庫ノ總裁ヲナスハ却テ出納ノ圓滑ヲ妨クルノ嫌ナキニアラス依テ金庫局ハ中央金庫ノ出納ヲ司トルヲ以テ專ラト致シ其他ハ悉ク日本銀行ヲシテ出納ノ事務ヲ取扱ハセ候様可致候就アハ當省官制中別紙朱書ノ如ク聊カ異動ヲ生シ候得共全ク内部取扱順序ノ更正ニ止リ他ニ影響ヲ及ホシ候儀ニモ無之且出納順序ノ儀ハ漸次其宜ヲ謀リ改良ヲ行フヘキ見込ニ付其都度官制ノ改正ヲ請フハ頗ル不穩當ノ儀トモ存候間先以テ當分ノ内官制ハ其儘ニシテ當省限り部下ニ訓令ヲ下シ事務執行候様致度此段請閣議候也

此ニ於テ二月二日内閣ニ於テハ之ヲ可決指令スル所アリタルナリ

國庫金出納所事務順序ハ五章九十五條ヨリ成リ附屬ノ書式ト相俟テ取扱上遺算ナカラシム即チ之ニヨレハ國庫ノ出納ハ歳入歳出及雜部ノ三部ニ大別シ歳入歳出出納規則歳入取扱順序歳出取扱順序及管守順序ニ據リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルモノトス其要旨左ノ如シ

一 歳入

イ 人民ヨリ納ムルモノ 納者ヨリ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ添ヘ現金ヲ納付スルトキハ之ヲ領收シ其旨ヲ記入シテ該令書又ハ告知書ヲ返還シ其令書又ハ告知書ヲ發シタル官廳ヘハ上納副本ヲ送附シ而シテ上納正本ハ出納所之ヲ保存スヘキモノトス其他分納ノ手續

分納ノ結果完納ニ至リタルトキ若クハ完納ニ至ラサルトキノ處理方法及預リ證書ヲ以テ納付スルモノアル場合ニ於ケル手續ニ就テ規定スル所アリ

ロ 各廳主任官ヨリ納ムルモノ 現金取扱主任官ヨリ納付書ニ現金ヲ添ヘ納付スルトキハ之ヲ領收シ其旨ヲ記入シテ正本ハ之ヲ其廳主任官ニ返還シ副本ハ之ヲ出納所之ヲ保存スルモノトス

ハ 下戻 年度内ニ係ル各廳既納ノ歳入下戻金ハ以前ニ收納シタル歳入金減損ニ同シキカ故ニ計算上ニ在テハ歳入額ヲ控除スト雖モ之レカ下戻ノ手續ハ歳出金支拂ノ例ニ據ルヘキモノトス

ニ 收納現金 收納現金ハ之ヲ以テ其出納所ノ支拂基金ニ充ツルヲ本則トシ若シ不足アルトキハ他ヨリ送金ヲ受ケ或ハ時宜ニヨリ他ニ回送ヲ命セラル、事アルヘシ蓋シ運轉ヲ圓滑ナラシムルノ旨趣ニ出テタルナリ而シテ送金ヲ要スルトキハ出納局長ヨリ之ヲ日本銀行ニ通達シ日本銀行ハ之ヲ出納所ニ傳達ス又其送金方法ハ爲替ニ依ルヲ普通トシ現金ヲ以テスルヲ特別トス

二 歳出

イ 支出命令 出納所ニ於テ支出スヘキ經費金額ハ一ニ大藏大臣ノ命令ニ據ルモノニシテ大藏大臣ハ日本銀行ニ命令シ日本銀行ハ之ヲ當該出納所ニ傳達スルモノトス

ロ 支出順序 出納所ハ支出命令額ヲ基トシ各廳會計主務官ヨリ得タル支拂案内書ト對照シ支拂切符ニ據リ支拂ヲナス若シ支拂切符ニシテ違法ナルトキ若クハ案内書ト符合セサ

ルトキハ支拂ヲナス預リ證書ヲ交付シ支拂切符ヲ發シタル主務官ニ向テ照會シ其正當ナル保證ヲ得タル後之ヲ支拂フヘシ若シ又其切符ヲ持參人ニ返還スヘキ回答ヲ得タルトキハ預リ證書ト引換ニ之ヲ返付スルモノトス

ハ 送金 會計主務官ノ在勤セサル小支部局又ハ出張先ノ官吏ニ經費ヲ送付スル必要アルトキハ支拂切符ニ其旨ヲ裏書シ遞送ヲ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納所ハ支拂金ノ手續ニヨリ拂出シ送金手形又ハ郵便爲替券ヲ以テ送付スヘキモノトス但時宜ニ依リ現金ヲ以テスルモ妨ケナシ而シテ現金ハ貨幣封入郵書又ハ内國通運會社便若クハ別仕立ヲ以テ遞送スヘキモノトス

ニ 返納金 返納者ヨリ返納告知書ヲ添ヘ現金ヲ返納スルトキハ領收ノ旨ヲ記入シテ其告知書ヲ返付シ返納副本ハ告知書ヲ發シタル官廳ニ送付シ其正本ハ出納所ニ保存シ且相當ノ整理ヲナスヘキモノトス

ホ 振換 金庫局ニ於テ支拂フヘキモノヲ某地ニテ支拂フノ必要アルトキハ金庫局ニ於テ送納金振換證書ヲ調製シ甲號ハ之ヲ其廳ヘ交付シ其廳ヨリ受取人ヘ交付シ乙號ハ之ヲ出納局ヘ送付シ出納局ニ於テハ之ニ送納令達ヲ付記シテ日本銀行ヘ交付シ日本銀行ハ之ヲ當該出納所ヘ傳達スルモノトス而シテ出納所ニ於テハ受取人ノ請求ニ依リ乙號證書ト對照シ甲號切符ト引換ニ現金ヲ交付スルモノナリ

三 雜部金

各廳預リ金、預金局預リ金、郵便爲替超過金等歳入歳出ニ屬セサルモノニシテ管守順序ニ依リ

取扱フモノヲ雜部金トシ各廳ノ請求ニヨリ其收入支出ヲ執行スルモノトス

イ 納附 各廳ヨリ現金ニ雜部納附書ヲ添へ送付スルトキハ之ヲ領收シ其納附書ハ之ヲ出納所ニ保存シ領收證書ハ之ヲ各廳へ送付スヘシ若シ納人ヨリ直ニ納付スルトキハ之ヲ領收シ預リ證書ヲ製シ甲號ハ納人へ交付シ乙號ハ納付先各廳へ送付スルモノトス而シテ各廳ハ其預リ證書ヲ以テ現金ト看做シ其手續ヲナスコトヲ得

ロ 支拂 各廳ニ於テ雜部金ノ支拂ヲ要スルトキハ支拂切符ヲ調製シ之ヲ受取人ニ交付シ出納所へ案内書ヲ送付スルヲ本則トス但此場合ニ於ケル拂出手續ハ歳出金ノ拂出ニ同シ而シテ領收證書ヲ以テスルモノハ支拂切符ヲ發スルヲ要セス原領收證書ヲ以テ振換勘定ヲナスコトアル可シ

尙参照ノタメ更ニ其事務順序ノ全文ヲ左ニ掲載スヘシ

大藏省訓令第七號(明治二十年)

府 廳  
日 本 銀 行 縣

國庫金出納所事務順序左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但各廳現金管守順序中ノ諸書式類モ別紙書式ノ通相心得ヘシ

(書式ハ別ニ頒ツ)(書式略ス)

國庫金出納所事務順序

第一章 總 則

第一條 國庫金出納所ハ歳入歳出出納規則歳入取扱順序歳出取扱順序及管守順序ニ據リ其出納ヲ取扱フ所トス

第二條 國庫金出納本所及出納支所ノ位置區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 國庫金出納本所及其出納支所ノ名稱ハ各其地名ヲ冠シ某地國庫金出納所又ハ某地國庫金出納所某地出納支所ト稱ス

第四條 國庫金出納所ノ事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルモノトス

第五條 國庫金出納所ニ於テ執行スル事務ヲ分チテ左ノ三部トス

第一 歳入部

第二 歳出部

第三 雜 部

第六條 國庫金出納所ノ印章(即金庫印)ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 印面 方五分
- 一 文字 某地國庫金出納所又ハ某地國庫金出納所某地出納支所
- 一 字體 楷 書

第七條 國庫金出納所ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルカ又ハ納期ニ際シ事務輻輳スル如キ場合ヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

(說明)臨時急施ヲ要スルカ又ハ納期ニ際シ事務輻輳スルカ如キ場合ニ在テハ開庫時間外又ハ休暇日ト雖モ事務取扱フモノトス

第八條 國庫金出納所ニ於テ領收スル所ノ貨幣ハ納者ノ目前ニ於テ鑑査スヘシ若シ此際偽造  
變造ノ貨幣ヲ發見スルトキハ明治九年太政官第五十七號布告ニ照シ之ヲ處分スルモノトス  
第九條 出納金取扱上ニ係ル電信ハ總テ官報ヲ以テ發スルモノトス  
第十條 國庫金出納所ノ印章及事務取扱主任ノ姓名印章ハ出納局竝ニ出納金ニ關係アル各官  
衙ヘ差出シ置クモノトス

第十一條 出納局長次長金庫局長次長及各廳會計主務官ノ印章ハ其關係アル國庫金出納所ヘ  
送付スルモノトス

第十二條 關稅及稅關諸收入ニ係ル取扱順序ハ別ニ定ムル處ニ據ル

第二章 歲入部

第十三條 國庫金出納所ニ於テハ納者ヨリ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ添ヘ現金ヲ納付スレハ  
之ヲ領收シ該令書告知書及正副上納書ヘ式ノ如ク領收及納濟ノ年月日ヲ記入シ取扱主任者  
及金庫ノ印ヲ捺シ其令書告知書ハ之ヲ納者ヘ還付シ上納正書ハ國庫金出納所ヘ留置キ上納  
副書ハ令書若クハ告知書ヲ發シタル廳ヘ送付スルモノトス

(說明) 徵稅令書納額告知書正副上納書ハ領收及納濟ノ年月日ヲ記入スルノ式ハ歲入歳出  
出納規則第八十二條ニ據リ定ムル處ノ様式ノ如ク記載スルモノナリ以下各條中單ニ式ノ  
如クトアルハ皆之ニ同シ

第十四條 國庫金出納所ハ現金取扱ノ各廳主任官ヨリ納付書ニ現金ヲ添ヘ納付スレハ之ヲ領  
收シ該納付書正副ヘ式ノ如ク領收及納濟ノ年月日ヲ記入シ取扱主任及金庫ノ印ヲ捺シ副書

ハ該主任官ヘ還付スルモノトス

第十五條 國庫金出納所ニ於テハ納者ヨリ分納書ヲ添ヘ現金ヲ納付スレハ之ヲ領收シ該徵稅  
令書若クハ納額告知書ノ裏面ニ式ノ如ク分納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ納者  
ニ還付ス但分納書ノ取扱ハ第十三條上納書ノ取扱ニ同シ

第十六條 前條ノ分納ヲ爲シタル未完納ニ至ルトキ國庫金出納所ニ於テハ式ノ如ク該徵稅令  
書若クハ納額告知書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ  
最後領收ノ金額年月日ヲ記入シ上納書ノ取扱ハ第十三條ニ同シ

第十七條 第十五條ノ分納ヲナシタル未完納ニ至リ難キトキ其旨ヲ納者ヨリ國庫金出納所ヘ  
報告シ來ルトキハ式ノ如ク該徵稅令書若クハ納額告知書裏面ニ記シタル領收濟ノ金額ヲ合  
計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ朱書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ金庫ノ印ヲ捺シ該令書若ク  
ハ告知書ハ之ヲ納者ニ還付シ不納報告正書ハ國庫金出納所ニ留置其副書ハ令書若クハ告知  
書ヲ發シタル廳ヘ送付スルモノトス

第十八條 不納處分中上納ノ税金ニ分納書ヲ添ヘ納付スルトキハ國庫金出納所ハ式ノ如ク領  
收ノ證箋ヲ製シ徵稅令書ノ下端ニ貼付シ契印ヲ捺シテ之ヲ納者ニ還付シ其分納書ノ取扱方  
ハ第十五條ニ同シ

第十九條 第二部歲入金ニシテ甲地ノ國庫金出納所ヘ現金ヲ預ケ入其預リ證書ヲ以テ乙地ノ  
官衙ヘ納付ヲ爲ストキ甲地ノ國庫金出納所ニ於テハ第五十六條ノ順序ニ據リ雜部金ヘ受入  
ノ手續ヲ爲スモノトス

第二十條 前條預リ證書ニ納付書ヲ添へ主管廳ヨリ乙地ノ國庫金出納所へ納付アルトキハ之レヲ受入證書トシテ領收シ第十四條ノ順序ニ據リ歳入部へ受入ノ手續ヲ爲スモノトス但金庫局預リ證書ヲ以テ納付アルトキノ取扱方モ總テ本文ニ同シ

第二十一條 乙地ノ國庫金出納所ニ於テ前條ノ預リ證書ヲ以テ歳入部へ受入タルモノハ送金ノ傳達ヲ俟タス即日該證書ヲ甲地ノ國庫金出納所へ送付スルモノトス但金庫局ノ預リ證書ヲ以テ受入タルモノハ即チ同局へノ送金トシテ日本銀行へ送付シ同銀行ヨリ金庫局へ納付スルモノトス

第二十二條 甲地ノ國庫金出納所ハ曩ニ發セシ預リ證書ヲ乙地國庫金出納所ヨリ領受セハ之レニ對シ第三十二條ノ送金手續ニ依リ領收證書ヲ差出シ而シテ雜部金ヲ決算シ國庫科目へ受入ノ手續ヲナスモノトス

第二十三條 年度内ニ係ル各廳既納ノ歳入下戻金ノ支拂ハ歳出金支拂ノ例ニ據ルモノトス  
(說明) 年度内ニ係ル下戻ハ歳ノ歳入金ヲ減スルモノナレハ計算上ニ在テハ該歳入額ヨリ控除スト雖モ現金下戻ノ手續ハ總テ歳出金支拂ノ例ニ據ルモノトス

第二十四條 國庫金出納所ニ於テ領收スル處ノ現金ハ同所ノ支拂基ニ充ツルモノトス但時宜ニ因リ金庫局又ハ他ノ出納所へ回送セシムルコトアルヘシ

第二十五條 前條收入金ヲ以テ支拂基ニ充テ尙ホ不足ナルトキハ金庫局及其出張所若クハ他ノ國庫金出納所ヨリ送金ヲナサシムルモノトス

第二十六條 前條ノ場合ニ於テ金庫本局ヨリ國庫金出納所へ現金ヲ送付スルトキハ日本銀行

へ交付シテ之ヲ送付セシム但金庫局出張所ノ現金ヲ交付スル場合ニ於テハ金庫本局ニ於テ拂切出符ヲ發シ之ヲ日本銀行へ交付スルモノトス

第二十七條 國庫金出納所ヨリ金庫局又ハ他ノ出納所へ送金セシムルトキハ出納局長ヨリ日本銀行へ通達ス同銀行ハ即時之ヲ國庫金出納所へ電信ヲ以テ傳達スルモノトス(電線架設ナキ地方ハ最寄電信分局迄電信レ夫レヨリ郵便ヲ以テ傳達スルモノトス)

第二十八條 前條ノ傳達ニ對シ金庫局へノ送金ハ爲替ヲ以テ送付スルモノトシ豫メ郵便到達及猶豫ノ日限ヲ量リ納付期日ヲ定メ日本銀行支店ニ於テ完納スルモノトス

各地國庫金出納所へノ送金ハ參著拂ノ爲替ヲ以テ送付スルモノトシ其發送期限ハ送金ノ傳達ヲ受ケタル翌日迄トス

第二十九條 特ニ現金ノ遞送ヲ爲サシムルトキハ送金ノ傳達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ發送スヘキモノトス

第三十條 前條ノ送金ハ到着後其翌日迄ニ受授ヲ了スルモノトス但現送途中陸路事故アリテ一日十里詰ノ割合ヨリ延著セシトキハ其地戶長又ハ通運會社ノ書面ヲ以テ之レカ證明ヲ爲スモノトス

第三十一條 第二十八條第二十九條ニ據リ國庫金出納所ニ於テ回送金ヲ發送シタルトキハ即日之ヲ日本銀行へ電報シ該銀行ハ之ニ據テ集計表ヲ製シ翌日出納局へ報告スルモノトス

第三十二條 第二十六條及第二十八條ノ送金ヲ受ケタル國庫金出納所ニ於テハ之ヲ國庫ヨリ受入金トシテ計算スルモノトス



第二十八條ニ據リ國庫金出納所ヨリ送金ヲ受ケタルトキハ其發送先ヘ對シ第一號書式ノ領收證書ヲ差出スモノトス

第二十六條ニ據リ金庫局又ハ支拂切符ヲ以テ日本銀行ヘ交付セシトキ該銀行ニ於テハ領收ノ證ヲ差出スモノトス

第二十八條ニ據リ日本銀行ヨリ金庫局ヘ納金セシトキハ同局ヨリ領收ノ證ヲ交付スルモノトス

第三章 歲出部

第三十三條 國庫金出納所ニ於テ支出スヘキ經費金額ハ大藏大臣ヨリ日本銀行ヘ支出ノ命令ヲ爲ス日本銀行ニ於テハ之ヲ該出納所ヘ傳達スルモノトス但支出命令ニ要電信ノ符號アルモノハ即刻電信ヲ以テ傳達ス

第三十四條 國庫金出納所ニ於テハ前條ノ支拂命令額ヲ基トシ各廳會計主務官ヨリ支拂ノ案内書ヲ得タルトキハ該仕拂命令額ニ對比シ支拂ノ準備ヲ爲スモノトス但案内書ノ金額支出命令額ニ超過スルトキハ即時其案内書ヲ返付シ支拂難キ旨ヲ通知ス

第三十五條 第三十三條ノ支拂命令額ニ對シ其月中ニ各廳會計主務官ヨリ送付スル處ノ支拂案内書ノ金額ト差引殘額アルトキハ之ヲ翌月ノ支出命令額ニ併算スルモノトス

第三十六條 國庫金出納所ニ於テハ各廳會計主務官ノ仕拂切符ヲ以テ現金ノ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ第三十四條ノ案内書ニ對照シ其金額ヲ支拂フモノトス但現金支拂濟ノ印ヲ捺ス

第三十七條 國庫金出納所ハ前條支拂切符成規ニ違フトキ若クハ案内書ニ符合セザルトキハ直ニ其事由ヲ支拂切符持參者ニ告ケ其住所姓名ヲ尋問シ該切符ノ金員番號記名者ノ姓名ヲ記載シタル預リ證書ヲ與ヘ該切符ヲ留置キ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該切符面記名ノ會計主務官ニ發スルモノトス但支拂期限ヲ經過シタル支拂切符ハ其支拂ヲ謝絶シ支拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告クヘシ

第三十八條 前條照會ニ據リ各廳會計主務官ヨリ該切符ノ正當ナルヲ保證シ其保證書ヲ送付セシトキハ國庫金出納所ハ擬ノ預リ證書ヲ引上ケ現金ノ支拂ヲ爲スヘシ若シ各廳會計主務官ニ於テ該切符ヲ其持參者ニ返付センコトヲ請取セシトキハ預リ證書ニ引換ヘ之ヲ還付スルモノトス

第三十九條 歲入歲出出納規則第五十九條ニ據リ國庫金出納所ヨリ各廳ヘ直ニ現金ヲ交付スルトキハ第三十三條ノ支出命令ヲ得テ各廳會計主務官ノ領收證書引換ニ現金ヲ交付スルモノトス

第四十條 國庫金出納所ニ於テ陸軍歸休兵豫備役後備軍驅員兵員臨時招集旅費支拂ヲ要スルトキハ特ニ出納局長ヨリ電信ヲ以テ各出納所ヘ大藏大臣ノ支出命令ヲ傳達シ其支拂ヲ爲サシムルモノトス但本文支拂ノ手續ハ別ニ定ムル處ニ據ル

第四十一條 前條ノ場合ニ於テハ支出命令ヲ發スルト同時ニ其旨日本銀行ヘ通達スルモノトス

第四十二條 各廳ニ於テ會計主務官ノ在勤セサル小支部局臨時ノ經費又官吏出張先ヘ經費金

ヲ送付スル爲メ該支拂切符へ其旨ヲ裏書シ遞送方ヲ請求スルトキハ國庫金出納所ハ支拂金ノ手續ニ依リ之ヲ拂出シ送金手形又ハ郵便爲替券ニ換へ該處へ交付スルモノトス但現金ヲ遞送スルトキハ第二號書式ノ金員遞送證ヲ交付シ追テ受取人ノ領收證ト引換フルモノトス

第四十三條 前條但書ニ據リ現金遞送ヲナストキハ郵便金子入書狀又ハ內國通運會社便ヲ以テ遞送スルモノトス但本文兩便共ニ不便ノ場合ニアツテハ別任立ヲ以テ之ヲ現送シ執行ノ後日本銀行へ報告スヘシ

第四十四條 國庫金出納所ニ於テハ返納者ヨリ返納告知書ヲ添へ現金ヲ納付スレハ之ヲ領收シ該告知書及正副返納書へ式ノ如ク領收及納濟ノ年月日ヲ記入シ取扱主任及金庫ノ印ヲ捺シ其告知書ハ之ヲ返納者へ還付シ返納正書ハ國庫金出納所ニ留置返納副書ハ告知書ヲ發シタル處へ送付シ其返納額ハ第三十四條ノ支拂案内書ノ金額及第三十六條ノ支拂濟金額ヲ減スルモノトス

(說明) 返納金ハ該ノ支出ヲ減算スルモノナレハ大藏大臣ノ支出命令額ニ對シ一旦支出セシ金額ヲ減スルモノトス則チ支出命令整理簿ニ在テハ支出命令高ノ欄内へ其返納金額ヲ朱書シ未拂高へ加算スルモノナリ

又該出科目内露簿ニ在テモ該ニ支出セシ科目ニ就キ其返納金額ヲ朱書シ繰高ニ於テ減算スルモノトス

第四十五條 土地ヲ異ニスル各處へ前條ノ返納金ヲ納付スルカ爲メ國庫金出納所へ現金ヲ納ムルトキハ第五十六條ノ手續ニ據リ取扱フモノトス

第四十六條 前條預リ證書ニ返納告知書ヲ添へ返納者ヨリ其處所在地ノ國庫金出納所へ返納

スルトキハ受入證書トシテ之ヲ領收シ第四十四條ノ順序ニ依リ取扱フモノトス但本文預リ證書處分方ハ第二十一條第二十二條ニ準シ取扱フモノトス

第四十七條 金庫局ニ於テ支拂フヘキモノヲ各地國庫金出納所ニ於テ支拂ハントスルトキハ金庫局ハ第三號書式ノ送金振換證書ヲ調製シ其甲號ハ各處へ交付シ其乙號ハ出納局へ送付シ同局ハ之ニ送納令達ヲ附記シテ日本銀行へ交付ス日本銀行ハ之レヲ該國庫金出納所へ傳達スルモノトス

第四十八條 前條甲號證書ヲ受取人ヨリ該出納所へ持參シ現金ヲ請求スルトキハ之ヲ乙號證書ニ對照シ甲號切符ニ引換現金ヲ交付スルモノトス

第四十七條 說明  
第四十八條 說明

此振換ハ暫ヘハ在東京ノ各處ヨリ長崎ニテ支拂ノ請求アリシトキ金庫局ニ於テハ該國庫金出納所ノ現在金ヲ東京金庫へ送金セラレタルモノトシテ計算シ之ニ對シ其地ノ國庫金出納所へ宛タル證書ヲ作りテ之ヲ各處へ交付ス各處ハ之ヲ其地ノ受取人へ送付ス受取人ハ該出張所ニ就キ證書引換ニ現金ヲ請取ルモノトス

國庫金出納所ニ於テハ現在金ヲ東京金庫へ送金ナシタルモノトシテ原簿國庫科目へ記入シ該證書引換ニ現金ヲ交付スルモノトス

第四十九條 第四十七條振換金至急ヲ要シ乙號證書ニ電信渡ノ捺印アルモノハ出納局ハ直ニ電信ヲ以テ之ヲ日本銀行へ通達ス該銀行ハ即刻國庫金出納所ニ電信ヲ以テ傳達スルモノトス但本文ノ場合ニ在テハ甲號證書へ電信ニテ渡濟ノ旨ヲ記シ交付スルモノトス乙號證書ハ出納局ニ於テ電信通達濟ノ印ヲ捺シ即日之ヲ日本銀行ニ送付スルモノトス

第五十條 國庫金出納所ニ於テハ前條電信ヲ得正當受取人ヨリ現金ヲ請求スルトキハ其請求者ヨリ受取人へ宛タル電信文ヲ閱覽其金額姓名等ヲ日本銀行ノ電信ニ對査シ符合セハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シテ現金ヲ交付シ其旨直ニ日本銀行へ電報スルモノトス但追テ正當受取人ヨリ甲號證書ヲ得テ本文領收證書ハ返戻スヘシ

第五十一條 第四十七條ノ振出金ヲシテ國庫金出納所ヨリ其受取先へ遞送セシムルトキハ乙號證書へ其遞送先等詳細記載シ之ヲ交付ス國庫金出納所ハ便宜爲替又ハ現金遞送ヲナシ甲號證書ト引換ユルモノトス但現金遞送ノ場合ニ在テハ第四十三條ニ準スルモノトス

第五十二條 支拂切符ノ支拂期限ヲ經過シテ尙支拂ノ請求ナキモノハ豫テ受入タル案内書ヲ取纏メ其送付シタル應へ還付ス但會計主務官ノ請求アルトキハ其都度案内書ヲ還付スルモノトス

第五十三條 歳出支拂濟ノ支拂切符及案内書ハ一箇月分ヲ取纏メ帳簿上ノ支拂額ニ對査シ之ニ第四號書式ノ仕譯書ヲ添へ國庫金出納所ニ保存スルモノトス

第四章 雜部

第五十四條 國庫金出納所ニ於テ管守順序ニ依リ取扱フヘキ各應歳入出外雜部金ハ各應ノ請求ニ依リ其收入支出ヲ執行スルモノトス

- (說明) 歳入出外雜部金ノ部類概ネ左ノ如シ
- 各應預リ金
  - 各應預リ金トハ各應營業費並資本海軍別途費森林費 勸業委託金 各應一時預リ金
  - 追テ歳入ニ立ツヘキモノ、預リ金 一時預リ金 臨時寄託金 科料 罰金 官報費下

代 乘馬飼養料 海外電報料ノ類ヲ云フ尤モ右ノ外各應ニ於テ取扱ヲ可キ歳入出外現金ノ預ケ入アラハ前各種類ニ準シ取扱フモノトス

預金局預リ金

預金局預リ金ハ各地預金局預金部ニテ預リタル現金ヲ爲替又ハ振換勘定ノ爲メ國庫金出納所へ納付シタルトキ本科目ヲ以テ計算ス

郵便爲替通金

郵便爲替通金ハ各地通信管理局若クハ郵便局ヨリ驛遞局へ爲替ノ爲メ國庫金出納所へ納入シタル本科目ヲ以テ計算ス

納入直納金

納入直納金ハ各應へ上納スヘキモノヲ其納人ヨリ直ニ國庫金出納所へ納付シタルトキ本科目ヲ以テ計算ス

第五十五條 各應ヨリ現金ニ雜部納付書ヲ添へ送付スルトキハ國庫金出納所ハ之ヲ領收シ該納付書ニ接續セシ領收證書用紙ニ第五號書式ノ如ク領收セシ金額及年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ領收證書ハ各應へ送付シ納付書ハ國庫金出納所ニ留置クモノトス

第五十六條 各應へノ納金ヲ其納人ヨリ直ニ國庫出納所へ納付スルトキ該出納所ハ預リ金トシテ之ヲ領收シ第六號書式ノ預リ證書ヲ調製シ其甲號ハ納人へ交付シ其乙號ハ案内トシテ納先各應へ送付スルモノトス

第五十七條 前條預リ證書ニ納付書ヲ添へ各應ヨリ歳入金トシテ納付ヲ爲ストキハ國庫金出納所ハ第十四條ノ順序ニ據リ取扱ヒ雜部金ヨリ歳入へ振換ノ計算ヲ爲スモノトス

第五十八條 第五十六條ノ納人へ交付セシ預リ證書ヲ以テ各應ヨリ歳入出外雜部金トシテ納

付スルトキハ第五十五條ノ順序ニ據リ之ヲ領收スヘシ

第五十九條 各廳ニ於テ雜部金ノ支拂ヲ要スルトキハ支拂切符ヲ調製シ(本文ノ支拂切符ニハ區分ス)該切符ハ受取人ニ交付シ其案内書ハ國庫金出納所ヘ送付ス而シテ受取人ヨリ支拂切符ヲ以テ現金ノ支拂ヲ請求スルトキハ該出納所ハ第三十六條第三十七條第三十八條ノ順序ニ據リ取扱フモノトス

官報賣下代乘馬飼養料郵便爲替超過金等ノ如キ第五十五條ノ領收證書ヲ以テ歳入金又ハ金庫局ノ現金ト振換勘定ヲ爲スコトアリ此場合ニ於テハ出納局ヨリ日本銀行ヘ通知シ同行ヨリ國庫金出納所ヘ通達シ雜部金ノ決算ヲナスモノトス

第六十條 前條案内書ノ金額第五十五條若クハ第六十三條ノ順序ヲ以テ領收セシ金額ニ超過スルトキハ即時案内書ヲ返付シテ支拂難キ旨ヲ通知ス

第六十一條 第五十六條ノ納人ヨリ直ニ領收セシ現金ノ返戻ヲ要スルコトアルトキハ各廳ヨリ國庫金出納所ニ對シ下戻通知書ヲ發シ而シテ納人曩ノ預リ證書ヲ以テ現金ノ下戻ヲ請求スルトキハ該通知書ヘ照査シ預リ證書引換ニ現金ヲ交付スルモノトス

(説明) 本文返戻ヲ要スルトキハ暫ヘハ一時保證ノ爲メニ各廳ヘ現金ヲ差出シ置タルモノ其事故了リテ現金ヲ下戻ス場合或ハ納金ノ義務ヲ免レタル等ノ際ニ於テ曩ノ領收證書ヲ以テ現金ノ下戻ヲ請求スルノ類ヲ云フ

第六十二條 各廳ノ請求ニ據リ金庫局ニ領收セシ雜部ノ現金ヲ各地國庫金出納所ニ於テ支拂ヲ爲サシムルトキハ金庫局ヨリ送納金振換證書ヲ各廳ヘ交付ス其取扱ハ第四十七條ノ順序ニ據ル

第六十三條 國庫金出納所ハ各廳ヨリ前條送納金振換證書ニ納付書ヲ添ヘ送付スレハ第五十

五條ノ順序ニ據リ之ヲ領收スルモノトス

第六十四條 前條ノ手續ニ依リ國庫金出納所ニ於テ受入タル雜部金ハ預ケ先各廳ノ請求ニ依リ第五十九條ノ順序ヲ以テ支拂フモノトス

第六十五條 各廳ニ於テ其廳所在地外ヘ雜部金ノ遞送ヲ要求スルトキハ國庫金出納所ハ第四十二條第四十三條ノ順序ニ據リ取扱フモノトス

第六十六條 雜部金支拂濟ノ支拂切符及案内書ハ各廳各科目毎ニ一箇月分ヲ取纏メ帳簿上ノ支拂額ニ照査シ之ヲ國庫金出納所ニ保存シ置クモノトス

第五章 計算報告

第六十七條 國庫金出納所ニ於テ取扱フ出納金原簿勘定科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

原簿貸方科目

何年度歳入

雜部

國庫

原簿借方科目

現金

何年度歳出

回送

(說明) 歳出ノ内現金通送或ハ金庫局又ハ他ノ國庫金出納所ヘノ送金ニテ回送中ニ係ルモノヲ記入シ追テ領收證書ヲ得タルトキ決算スルモノトス

第六十八條 國庫金出納本所ニ於テ使用スヘキ帳簿左ノ如シ

- 一 日記簿
  - 二 原簿
  - 三 歳入金明細簿
  - 四 歳出金明細簿
  - 五 歳入金科目内譯簿
  - 六 歳出金科目内譯簿
  - 七 雜部金内譯簿
  - 八 現金種類別簿
  - 九 支出命令整理簿
  - 十 支拂案内書差引簿
  - 十一 回送内譯簿
  - 十二 電信報告記入簿
- 第六十九條 出納支所ニ於テ使用スヘキ帳簿左ノ如シ
- 一 現金受拂簿
  - 二 歳入金明細簿

- 三 歳出金明細簿
- 四 雜部金内譯簿
- 五 支出命令整理簿
- 六 支拂案内書差引簿
- 七 回送内譯簿

第七十條 日記簿ハ原簿勘定科目ニ隨ヒ歳入金明細簿及ヒ歳出金明細簿若クハ雜部金明細簿各證票ニ據リ記載スルモノトス其書式第七號ノ如シ但出納支所ノ收入支出ハ其報告表出納本所ヘ到着ノ日ニ於テ之ヲ記入シ實際出納支所ニ於テ收支シタル日ヲ摘要ニ記載スルモノトス

第七十一條 原簿ハ日記簿ヨリ轉記スルモノトス其書式第八號ノ如シ

七十二條 歳入金明細簿及歳出金明細簿ハ歳入金歳出金明細内譯ヲ記載スルモノトス其書式第九號ノ如シ

第七十三條 歳入金科目内譯簿及歳出金科目内譯簿ハ大藏省ヨリ連シタル歳入歳出科目表ニ據リ款項目ニ區分シ歳入金歳出金明細簿ヘ記入ヲ了セシ證票ニ依リ其金額ヲ集合登記スルモノトス其書式第十號ノ如シ

第七十四條 雜部金内譯簿ハ第五十四條ノ各部類ヲ區分シ各證票ニ依リ其金額ヲ集計登記スルモノトス其書式第十號ノ如シ

第七十五條 現金種類別簿ハ各部ノ金貨一圓銀貨補助銀貨兌換銀券紙幣銅貨受入證書ノ六種

類ニ區分シ其收支ヲ登記スルモノトス其書式第十二號ノ如シ

第七十六條 支出命令整理簿ハ支出命令額ヲ基トシ支拂案内書ニ據リ漸次控除差引ヲナシモノトス其書式第十三號ノ如シ

第七十七條 支拂案内書差引簿ハ支拂案内書ノ金額ヲ基トシ現金支拂濟ノ支拂切符ニ據リ漸次控除シテ未拂額ヲ整理スルモノトス其書式第十四號ノ如シ

第七十八條 回送内譯簿ハ各證票ニ據リ其金額ヲ記載スルモノトス其書式第十五號ノ如シ

第七十九條 電信報告記入簿ハ歳入歳出及雜部金等ヲ區分シ各證票ニ據リ其金額ヲ登記スルモノトス其書式第十六號ノ如シ

第八十條 出納支所ノ現金受拂簿ハ歳入金歳出金明細簿及各證票ニ據リ記載スルモノトス其書式第十七號ノ如シ

第八十一條 出納支所ノ歳入金明細簿歳出金明細簿雜部金内譯簿支出命令整理簿及支拂案内書差引簿回送内譯簿記載方ハ國庫金出納本所ノ式ニ同シ

第八十二條 國庫金出納本所ニ於テハ第六十八條ノ諸帳簿ニ據リ左ノ計表ヲ調製シ報告式ニ據リ日本銀行へ差出シ同銀行ハ之ヲ大藏省へ差出スモノトス

一 歳入科目内譯表

二 歳出科目内譯表

三 回送及振替拂報告表

四 雜部金收支内譯表

五 歳入歳出科目内譯附錄表

六 雜部金收支内譯附錄表

七 現金納拂差引表

八 支拂案内書差引表

九 歳入金毎月報告表

十 雜部金出納報告表

第八十三條 出納支所ニ於テハ第六十九條ノ諸帳簿ニ據リ左ノ計表ヲ調製シ其出納本所へ送付スルモノトス

一 歳入科目内譯表

二 歳出科目内譯表

三 回送及振替拂報告表

四 雜部金收支内譯表

五 支拂案内書差引表

六 雜部金出納報告表

第八十四條 歳入歳出科目内譯表ハ歳入金科目内譯簿及歳出金科目内譯簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第十八號ノ如シ

第八十五條 回送及振替拂報告表ハ原簿(出納支所ニ於テ)ニ據リ調製スルモノトス其書式第十九號ノ如シ

第八十六條 雜部金收支内譯表ハ雜部金内譯簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第二十號ノ如シ

第八十七條 歳入歳出科目内譯附録表及雜部金收支内譯附録表ハ電信報告記入簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第二十一號ノ如シ

第八十八條 現金納拂差引表現金種類別簿ニ據リ二通ヲ調製シ日本銀行ヘ送付シ其一通ハ該銀行ヘ留置其一通ハ大藏省ヘ送付スルモノトス其書式第二十二號ノ如シ

第八十九條 支拂案内書差引表ハ支拂案内書差引簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第二十三號ノ如シ

第九十條 歳入金毎月報告表ハ歳入科目内譯簿ニ據リ二通ヲ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ一通ハ該應收支命令官ヘ送付シ一通ハ日本銀行ヘ送付シ該銀行ハ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス其書式第二十四號ノ如シ但出納支所ノ收入報告モ併算スルモノトス

出納支所ニ於テ收入セシ金額翌月ニ至リ國庫金出納本所ヘ報告表到着セントキハ此金額ニ限リ前月ノ追加トシテ別ニ報告表ヲ製シ送付スルモノトス

第九十一條 雜部金出納報告表ハ雜部金内譯簿ニ據リ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ該應會計主務官ヘ送付スルモノトス其書式第二十五號ノ如シ

第九十二條 國庫金出納所ニ於テハ原簿日計表ヲ調製シ之ヲ備ヘ置クモノトス其書式第二十六號ノ如シ

第九十三條 國庫金出納所ニ於テ其收入支出セシ金額ヲ報告式ニ依リ日本銀行ヘ電報シ日本

銀行ハ集計表ヲ製シ翌日(電報到着セシ)之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス

第九十四條 國庫金出納所及出納支所ニ於テ任用スル帳簿ハ會計年度毎ニ之ヲ設置スルモノトス

(説明) 帳簿ハ會計年度毎ニ之ヲ新設スヘキト雖モ歳入金歳出金明細簿及科目内譯支出命令整理簿支拂案内書差引簿ノ如キハ一會計年度ノ計算ヲ統計スヘキモノナレハ 令其出納翌年ヘ涉ルモ當該會計年度ノ出納完結ニ歸スル迄通シテ記入スルモノトス

第九十五條 諸帳簿ニ記載ヲ了シタル各證票ニハ記帳済ノ年月日ヲ記載シ保存スルモノトス 國庫出納所事務順序中改正

大藏省訓令第四十二號 (明治二十年六月十日)

國庫金出納所事務順序及書式中左ノ通り改正シ來ル七月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 第八十二條第五項第六項第九項及第十項ヲ削除シ更ニ左ノ二項ヲ加フ

五 歳入歳出電信報告照查表

六 雜部金收支電信報告照查表

一 第八十七條第九十條及第九十一條ヲ左ノ如ク改ム

第八十七條 歳入歳出電信報告照查表及雜部金收支電信報告照查表ハ電信報告記入簿ニヨリ調製スルモノトス其書式別紙第二十七號(國庫金出納所事務順序書式追加)ノ如シ

第九十條 國庫金出納所ニ於テハ歳入金科目内譯簿ニヨリ歳入金毎月報告表ヲ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ該應收支命令官ヘ送付スルモノトス其書式第二十四號ノ如シ

出納支所ニ於テ收入セシ金額翌月ニ至リ本所へ報告表到着セシ分ハ前月ノ追加トシテ別ニ報告表ヲ製シ送付スルモノトス

第九十一條 國庫金出納所ニ於テハ雜部金内譯簿ニ據リ雜部金出納報告表ヲ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ該廳會計主務官へ送付スルモノトス其書式第二十五號ノ如シ

但シ本文報告表ハ各廳會計主務官ヨリ調査濟差違ナキ旨ノ回報ヲ得テ其報告表ノ寫一通ヲ日本銀行へ差出シ同銀行ヨリ大藏省へ差出スモノトス

(以下書式改正ハ之ヲ略ス)

國庫金出納所報告書式(同所事務順序第八十二條第九十三條ニ據ルモノ)

(大藏 明治二十年二月二十四日)

第一條 國庫金出納所事務順序第八十二條ニ據リ差出スヘキ報告表ハ別紙甲號ニ記載ノ國庫金出納所ニ在テハ毎水曜及土曜ノ兩日ニ又別紙乙號ニ記載ノ國庫金出納所ニ在テハ毎土曜日ニ各日本銀行へ差出シ銀行ニ於テハ接受ノ翌日午前十時迄ニ(時迄ニ差出スモノトス)第三項及第七項ノ表ハ出納局ニ其他ハ悉皆主計局へ差出スモノトス其計表左ノ如シ

- 一 歳入科目内譯表
- 二 歳出科目内譯表
- 三 回送及振換拂報告表
- 四 雜部金收支内譯表

五 歳入歳出科目内譯附錄表

六 現金納拂差引表

第二條 現金納拂差引表年計報告ハ翌年度四月三十日迄ニ國庫金出納所ヲ發シ日本銀行へ送付シ同銀行ニ於テハ接受ノ翌日ヨリ三十日以内ニ之ヲ出納局へ差出スモノトス

第三條 支拂案内書差引表ハ國庫金出納所事務順序第八十九條ニ據リ調製シ翌月初旬其地ヲ發シ日本銀行へ送付シ同銀行ニ於テハ接受ノ翌日之ヲ主計局へ差出スモノトス

第四條 歳入金毎月報告表ハ國庫金出納所事務順序第九十條ニ據リ二通ヲ調製シ翌月初旬其一通ハ收支命令官へ送付シ其一通ハ日本銀行へ差出シ同銀行ニ於テハ接受ノ翌日之ヲ主計局へ差出スモノトス

第五條 雜部金出納報告表ハ國庫金出納所事務順序第九十一條ニ據リ調製シ翌月初旬各廳會計主務官へ差出スモノトス

第六條 國庫金出納所事務順序第九十三條ニ據リ國庫金出納所ニ於テ收入支出セシ金額ハ毎水曜及土曜ノ兩日ニ別紙丙號電信略文ニ依リ照校電信ヲ以テ之レヲ日本銀行へ報告シ同銀行ニ於テハ接受ノ翌日午前十時迄ニ出納局へ差出スモノトス

第七條 第一條及第六條ノ如ク報告ノ期日ヲ定ムルト雖モ毎月末日ニ在リテハ該期日ニ拘ハラス報告スルモノトス(本文末日報告ヲ爲スニ當リ其末日ハ曜日ナリシトキハ若クハ土曜日ニ於テハ其一日分ヲ通例ノ如ク報告スルモノトス)  
(書式略ス)



國庫出納所事務順序第三十一條及第九十一條ニ依ル集計表 (明治二十年三月四日達)

- 記
- 一 何地國庫金出納所收入電信報告表 第一號
  - 一 同 支出電信報告表 第二號
  - 一 國庫金出納所一分銀收支集計表 第三號
  - 一 同 送納金發送集計表 第四號
  - 一 同 政府紙幣收入高報告表 第五號
  - 一 同 銅貨在高報告表 第六號
  - 一 同 損傷紙幣收入高報告表 第七號

(樣式略之)

此ニ於テ同月三日從前大藏省令中國庫金取扱所又ハ現金支拂所トアルモノハ四月一日以降ハ總テ國庫金出納所ト解セシム

次テ三月一日日本銀行ニ令達シテ四月一日以降國庫金出納所ニ於テ取扱フ可キ關稅及稅關諸收入金及損毀紙幣交換ノ事務ハ從前國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル手續ニヨリテ整理セシメ同月十七日ニ至リ郵便爲替超過金ヲ國庫金ニ轉換スル順序ヲ定メ四月一日ヨリ之ヲ施行ス即チ其順序タルヤ遞信管理局若クハ郵便局ハ爲替超過金ノ回送ヲ要スルトキハ納付書ヲ製シテ現金ニ添ヘ國庫金出納所ニ送付シ其納付書ニ領收ノ證ヲ受クルモノトス而シテ遞信管理局若クハ郵便局ヨリ現金ヲ納付スレハ之ヲ領收シ正副ノ納付書ニ領收及納了ノ年月日ヲ記入シ取扱主任及金庫

ノ印ヲ押捺シ副書ハ出納所ニ留置シ正書ハ其局ニ還付ス現金ハ報告式ニ依リ電信略文ヲ以テ水曜日及土曜日ニ於テ發送スヘキコトヲ電報スルモノニシテ日本銀行ハ電報ヲ接受セハ出納局ニ報告ス而シテ交付終了ノ金額ハ出納局ニ於テ一箇月額ヲ收束シ日本銀行ニ通知シ同銀行ハ之ヲ各地國庫金出納所ニ通達シ出納所ハ是ニヨリテ帳簿ノ決算ヲナスモノトス

同月二十二日遞信管理局及郵便局附屬管守金内ノ郵便爲替超過金ノ領收順序三條ヲ定メ郵便爲替超過金ヲ送付スルハ銀行手形ニ納付書ヲ添ヘ金庫所在地ノ銀行ヲ署名スヘキモノニシテ其現金ニ交換シ得ヘキモノニ限リテ領收シ該順序ニ據テ本納ニ付スヘク又郵便切手ノ價金ヲ遞信管理局若クハ一等郵便局ニ納付スル爲メ納者ヨリ金庫ニ寄託スル證書授受ノ順序等ヲ詳示シ之ヲ日本銀行ニ示達シテ四月一日ヨリ施行セシム

六月十日ニ至リ國庫金出納所事務順序中ヲ改正シ書式ノ廢止改稱ヲナセリ(全文ハ同事務順序ニ附記ス)

次ニ會計主務官ノ印鑑ニ就テ國庫金出納所事務順序第十一條ニ出納局長次長金庫局長次長及各廳會計主務官ノ印章ハ其關係アル國庫金出納所へ送付スルモノトストアリ仍テ明治二十年八月二十日大藏省訓令第五十七號ヲ以テ印鑑送付ノ手續ヲ定ム即チ凡ソ會計主務官ノ印鑑ハ各廳長官ニ於テ取纏メ歳出ニ關係アル出納所毎ニ區分シ之ヲ大藏省へ差出シ大藏省ハ之ヲ日本銀行ヲ經テ之ヲ當該出納所へ送達スルモノトス更ニ其印章ヲ改メタルトキモ亦同一ノ手續ニ依ルヘシ而シテ其改印ハ主トシテ當該官吏ノ轉免死亡又ハ改印ニ基クモノニシテ其新印章カ未タ出納所ニ到達セサルニ先チ新印鑑ニ依ル切符ヲ以テ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ印鑑ノ齟齬ヲ來タスヤ必セリ故ニ此場合ニ於テハ其改印ノ事由ヲ各廳長官ヨリ大藏省へ大藏省ハ日本銀行へ日本

銀行ハ出納所へ各電報ヲ以テ通知スヘキモノトス而シテ大藏省ハ更ニ各廳長官へ傳達濟ノ旨ヲ返電シ各廳長官ハ此返電ニ依テ假ニ新印鑑ヲ出納所へ送付シ其真正ナルコトヲ證明スヘシ於是出納所ハ日本銀行ノ電報ト證明書ヲ對照シテ新印鑑ニ依リ支拂ヲ取扱フヘキモノトス

明治二十一年一月十八日各地國庫金出納所第一備置金部支出取扱順序ヲ定メ第一備置金部ノ支出ヲ要スルトキハ大藏大臣ヨリ日本銀行ニ支出命令書ヲ下付スルモノニシテ日本銀行ヨリ該命令書ヲ國庫金出納所ニ傳達スルハ事務順序第三十三條ニヨル而シテ此支出命令ニヨリ各地方廳會計主務官ヨリ領收證書ニ雜部納付書ヲ添へ送付スヘキヲ以テ國庫金出納所ニ於テハ一旦支辨ノ順序ヲ終リ更ニ雜部ニ其金額ヲ收受シ其支辨ハ一般雜部金料理ノ例ニヨルモノトス

六月二十七日大藏省訓令第三十四號ヲ以テ各廳ニ於テ國庫金出納所事務順序第五十四條ニ據リ雜部金ヲ國庫金出納所へ取扱ハシムルトキハ其當初ニ於テ當省へ請求シ認可ヲ受ケ取扱ハシムヘシ國庫金出納所ハ其當初ニ於テ當省ノ令違ヲ得テ收支執行スヘキ儀ト心得ヘシト北海道廳府縣及日本銀行ニ達セリ

後明治二十二年十二月ニ至リ金庫規則ヲ定メ金庫ヲ置キテ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トナシ明治二十三年四月一日ヨリ施行セシヲ以テ此ニ至リテ國庫金出納所ハ廢止セラレタリ

### 第五款 派出取扱方

明治十五年一月會計法ヲ改メ各廳ニ於テ出納スヘキ現金ハ大藏省ニ於テ管守スルコト、スルヤ

之カ出納機關ハ出納局同支局及爲替方ヲ以テ之ニ充テシカ小額ノ仕拂多キ時ハ各廳ニ取扱人ヲ出張セシメ以テ不便ナキコトヲ期セサル可カラス是ニ於テカ同年七月二十四日出納局管守金錢取扱方ヲ置キ同時ニ取扱心得書ヲ定メタリ

#### 出納局管守金錢出張取扱心得

- 第一條 各廳へ出張スル金錢取扱人ハ此取扱方ヲ勤ムル本店ニ於テ保證スヘシ但取扱人ノ氏名印鑑ハ豫テ出納局へ差出シ置キ同局及ヒ各廳トモ其印鑑ヲ證憑トシテ金錢ノ受授ヲ爲スヘシ
- 第二條 各廳ニ於テ仕拂スル金錢ハ連日ノ員額ヲ見積リ豫テ若干ノ金額ヲ預ケ置毎日ノ小拂ヲ爲サシムヘシ尤此小拂金ハ一口金高二十圓迄ニ限ルモノトス但月給旅費其他至急ヲ要スル拂金ハ此限ニ非ラス
- 第三條 出張先ニ於テ可受入金錢ハ第一圖甲號ノ如ク納付書ヲ納人持參スヘクニ付キ其現金ヲ受取之ニ乙號ノ如ク與書證印シテ之ヲ返付シ其現金ハ翌朝出納局へ差出スヘシ
- 第四條 出張先ニ於テ金錢ノ仕拂ヲ爲スハ其廳會計主務官ヨリ振出す切符ト引換ニ拂渡スヘシ但切符見本及ヒ印鑑ハ出納局ヨリ下渡シ置クヘシ
- 第五條 現金仕拂濟ノ切符竝ニ當日領受セシ案内切符ニ應毎ニ取纏メ第二圖ノ表ヲ添へ毎翌朝出納局へ差出スヘシ且第三條受入金ノ如キハ別ニ第三圖ノ如ク仕譯書ヲ添へ差出モノトス
- 第六條 取扱方へ預クル金錢ハ出納局ニ於テ應毎ニ帳簿ヲ設ケ置之ヲ預クル時々員數ヲ書入

證印ヲ爲サシメ預濟ノ證トス但此帳簿ハ一箇月毎ニ第五條ノ日表ニ照査シ決算スルモノトス

第七條 取扱方ハ預ケタル金錢及出張先ニ於テ受入タル金錢其如何様ノ事故ヲ以テ損失スルモ速ニ辨償スヘシ又取扱人ニ於テ萬一引負等ノ不都合アルトモ總テ此取扱方ヲ勤ムル本店ニ於テ負擔シ之ヲ辨償スヘシ

次ニ各廳經費金派出支拂取扱方ニ付テ述ヘン抑モ國庫金出納所ハ全國各地ノ收支ヲ掌レリト雖モ只東京府及大阪府ノ收支ニ關係セス而シテ此等兩府ノ收支ハ金庫局ニ於テ之ヲ直轄セリ然ルト雖モ一々金庫局又ハ該出張所ニ到リ支拂ヲ受クルカ如キハ其不便少カラサルヲ以テ十九年三月十八日第一國立銀行三井銀行安田銀行川崎銀行及第三十三國立銀行ニ各廳經費金派出支拂取扱方ヲ命シ金庫局現金仕拂所派出取扱心得八條ヲ定メ四月一日ヨリ施行ス其規程タル各廳ニ派出スル金錢取扱人ハ其處理ヲ奉スル銀行ニ於テ之ヲ保證ス各廳ノ金錢ハ毎朝收支課ヨリ領受シ支出ノ數額ヲ記帳シ報告表受拂表ヲ製シ殘額ニ對照シテ帳簿ト共ニ即日收支課ニ返付ス其金錢ヲ支出スルニハ案内書ト對照シ其廳會計主務官ノ發付セル切符ト交換交付ス現金交付已了ノ切符竝ニ其日領受セル案内切符ハ收支課ニ進致ス其支出未了ノ案内書ハ翌日支出基金交付ノ際之ヲ交付ス取扱人ニハ日當金五十錢銀行ニハ保證料一箇月毎一人金五圓ヲ給與スルモノトス次テ明治二十年三月五日ニ至リ各廳經費金派出支拂取扱方ヲ各廳ニ定置スルヲ止メ但タ其已ムヲ得サルモノニ限り之ヲ存置セシカ同月二十五日ニ至リ國庫金出納所ノ設置ノ期即チ四月一日ヨリ全ク之ヲ廢止シテ更ニ各廳派出金錢取扱方ヲ置クコト、シ第一國立銀行第三國立銀行三井

銀行及安田銀行ニ之ヲ命シ派出金錢取扱方心得書及派出金錢取扱方收支順序ヲ定メ取扱人ノ授受スル部目ハ收入ニアリテハ第二部歳入及雜部ノ二種トナシ支出ニアリテハ第三部歳出及雜部ノ二種トナセリ左ニ其收支手續ノ大要ヲ述ヘン

一 收入

納人ヨリ納額告知書ヲ添ヘ又主任官ヨリ納付書ヲ添ヘ各現金ヲ納付スルトキ又ハ納人ヨリ直接ニ納付スルトキハ該取扱人ハ歳入取扱順序國庫金出納所事務順序ニヨリ之ヲ取扱フヘシ

收入金ハ支拂基金ニ充ツルモノヲ除ク外受拂表ヲ製シ證憑書類ヲ添ヘ毎日之ヲ金庫局又ハ同局出張所ニ送付スヘシ

二 支出

支拂基金ハ前日ニ於テ概算額ノ通知ヲ得其員額ノ交付ヲ請求スヘシ

當該廳會計主務官ヨリ支拂切符ヲ以テ支拂ヲ請求スルトキハ同官ヨリ送付シアル案内書ト對照シ支拂ヲナスヘク其手續ハ國庫金出納所ニ於ケルト同シ只預リ證書ヲ發シタル場合ニ於テハ仕拂切符ヲ金庫局ニ差出スヘキモノトス

支拂基金ノ殘額ハ證憑書類ヲ添ヘ還納スヘシ

派出金錢取扱方收支順序

要領

第一條 取扱人ニ於テ授受スル部目ハ收入ニ在テハ第二部歳入及ヒ雜部ノ二種支出ニ在テハ

第三部 歳出及雜部ノ二種トス

第二條 取扱人ニ於テ押用スル金庫ノ印及各廳會計主務官ノ印影ハ金庫局(又ハ金庫出張所)ヨリ下付スヘシ

收入

第三條 納者ヨリ納額告知書ヲ添ヘ現金ヲ納付スルトキハ之ヲ領受シ歳入取扱順序第七十三條及第七十四條ニ據リ處置スヘシ

第四條 現金取扱ノ當該廳主任官ヨリ納付書(第二部 歳入又ハ雜部)ニ現金ヲ添ヘ納付スルトキハ歳入取扱順序第八十二條又ハ國庫金出納所事務順序第五十五條ニ據リ處置スヘシ

但登記料料罰金郵便電信切手代ノ類ハ當該廳宛假預リ證書(第一號書式)ヲ製シ納人へ交付スヘシ主任官ハ即日該證書ニ納付書ヲ添ヘ送付スヘキニ付此際本條ノ手續ニ據リ取扱ヒ假預證書ハ原符ニ貼付シ消印スルモノトス

第五條 雜部金ノ内納人ヨリ直ニ取扱人へ納付スルトキハ之ヲ領受シ國庫出納所事務順序第五十六條ニ準シ領收證書(第二號書式)ヲ調製シ納人へ交付スヘシ

但授業料藥餌料ノ類モ本條ニ準シ取扱フモノトス

第六條 裁判上領置中ニ係ル一時取扱金ニシテ拂戻ノ際原貨ヲ要スルモノハ主任官立會合紳ノ上物品トシテ受領シ預證書(第三號書式)ヲ製シ當該廳へ送付スヘシ

第七條 第三條第四條第五條ニ係ル收入金ハ毎日金種類受拂表(第四號書式)ヲ調製シ證印(第五號書式)ニ記載上納書(正書)納付書又ハ預リ證書原符(以上各種目小計ヲ付スト共ニ收支課又

ハ金庫局大阪出張所)へ差出シ點檢ヲ歷即時完納スヘシ

但收入金ヲ以テ特ニ支拂基金ニ充用セシムルモノハ本條完納ノ限ニアラス

第八條 金庫局又ハ金庫局大阪出張所ノ都合ニ依リ平常現金ヲ銀行へ保管セシムル場合ニ在テノ收入金ハ切符一葉毎ニ收入支出簿(第六號書式)ニ登載スルモノトス

第九條 第六條ノ預金ハ受拂表(第七號書式)ヲ調製シ收支課又ハ金庫局大阪出張所へ差出シ其現品ハ銀行へ保管シ置クヘシ

第十條 雜部ノ内郵便爲替資金及貯金ノ收入ハ左ノ各項ニ據リ取扱フヘシ

第一 爲替差出人ヨリ爲替金及其手数料又貯金預人ヨリ貯金ヲ預收スルトキハ假預證書(第八號書式)甲ハ爲替ニ用ヒ乙ハ貯金ニ供ス(金員番號等ヲ記入シ且證印ヲ押捺シ之ヲ其差出人又ハ預人へ交付シテ主任官へ差出サシムルモノトス

但外國人ニ係ル收入ハ主任官ヨリ其員額ヲ通示セハ直ニ現金ヲ領收シ假預證書ハ主任官へ送付スルモノトス

第二 前項收入金ハ即日第四條ノ順序ヲ履行スヘキニ付主任官ヨリ當日收入金合計高ノ納付書ニ假預證書(正書)ニ取扱人ヨリ差出人又ハ預人へ交付セシモノヲ添付シ送付アルトキハ假預證書ヲ原符ト對査シ領收ノ手續ヲ爲シ該證ハ原符ニ貼付シ消印スルモノトス

第三 前項ノ外主任官ヨリ納付書ニ現金ヲ添ヘ送付スルモノアルトキハ之ヲ領受シ直ニ第四條ニ據リ取扱フモノトス

第四 前項現金領收ニ際シ偽造變造ノ貨紙幣ヲ發見スルトキハ第十二條ニ準シ處置シ鑑定